

エチオピア国  
エチオピア野生動物保護機構 (EWCA)  
アムハラ州文化観光局 (ANRS-BCT)

エチオピア国  
シミエン国立公園及び周辺地域における  
官民協働によるコミュニティ・  
ツーリズム開発プロジェクト  
プロジェクト事業完了報告書

平成 28 年 2 月  
(2016 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

国立大学法人北海道大学  
株式会社パデコ

産公
JR
16-003

エチオピア国  
エチオピア野生動物保護機構 (EWCA)  
アムハラ州文化観光局 (ANRS-BCT)

エチオピア国  
シミエン国立公園及び周辺地域における  
官民協働によるコミュニティ・  
ツーリズム開発プロジェクト  
プロジェクト事業完了報告書

平成 28 年 2 月  
(2016 年)

独立行政法人  
国際協力機構 (JICA)

国立大学法人北海道大学  
株式会社パデコ

## 目 次

<b>第1章 プロジェクトの実施方針</b> .....	<b>1</b>
1.1 プロジェクトの背景.....	1
1.2 プロジェクト目標.....	1
1.3 実施方法と活動実績.....	3
1.3.1 PDMの変更.....	3
1.3.2 活動計画（PO）及び活動実績.....	16
1.3.3 投入実績.....	16
1.4 プロジェクト対象地域.....	21
<b>第2章 技術移転成果の概要</b> .....	<b>23</b>
2.1 活動成果の総括.....	23
2.2 プロジェクト関連協議会.....	23
2.3 JCC 開催支援.....	28
2.4 PCC 開催支援.....	31
2.5 WG 会議開催支援.....	33
2.6 本邦研修の実施.....	35
2.7 成果1（組織）に関する成果.....	41
2.7.1 SIMCOT-CA の設立.....	41
2.7.2 研修及びセミナーの実施.....	50
2.7.3 総括.....	74
2.8 成果2（マーケティング・プロモーション）に関する成果.....	74
2.8.1 入園者シートによるマーケティング分析.....	74
2.8.2 入園者実態調査の実施.....	83
2.8.3 ゴンダール空港外客調査.....	85
2.8.4 マーケティング戦略策定.....	88
2.8.5 プロモーション活動成果.....	89
2.8.6 総括.....	113
2.9 成果3（商品開発）に関する成果.....	115
2.9.1 観光商品の造成.....	115
2.9.2 村落観光の運営主体.....	123
2.9.3 ツアーの受入れ及び催行システム.....	129
2.9.4 観光客の受け入れ実績.....	143
2.9.5 総括.....	148

2.10 成果4（観光圏管理開発計画策定）に関する成果.....	150
2.11 プロジェクト広報 .....	153
<b>第3章 今後の展望と課題.....</b>	<b>155</b>
<b>第4章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓.....</b>	<b>159</b>
4.1 プロジェクト実施運営上の工夫 .....	159
4.2 プロジェクト実施運営上の教訓 .....	160

#### 添付資料

- (1) 供与機材実績
- (2) JCC 議事録
- (3) WG メンバーリスト
- (4) HIS ネイチャーによる新規ツアー

図

図 1.1	プロジェクト対象地域.....	22
図 2.1	プロジェクトの関連組織関連図.....	24
図 2.2	シミエン・コミュニティ・ツーリズム・マネジメント財団の構成イメージ.....	44
図 2.3	SIMCOT-CA ロゴ.....	47
図 2.4	シミエン国立公園 年間入園者数.....	75
図 2.5	シミエン国立公園 月別入場者数.....	76
図 2.6	主要国旅行者の月別推移（単位：人）.....	77
図 2.7	主要国旅行者の月別構成 対前年比（2015/2014）（単位：％）.....	78
図 2.8	主要国旅行者の年代別構成（単位：％）.....	79
図 2.9	主要国旅行者の滞在日数別構成（単位：％）.....	79
図 2.10	主要国旅行者の宿泊場所別構成（単位：％）.....	80
図 2.11	シミエン観光圏ブローシャー.....	107
図 2.12	ビレッジツアー・ブローシャー.....	107
図 2.13	SELAMTA 2014 年 9-10 月号掲載記事及びオンライン・マガジン（一部）.....	109
図 2.14	ゴンダール空港における広告掲示.....	110
図 2.15	地球の歩き方.....	111
図 2.16	Selamta 広告.....	112
図 2.17	What's Out 掲載広告（左 12 月版、右 1 月版）.....	113
図 2.18	SMNP で展開する村落観光の概念図.....	117
図 2.19	アルギン・ジョーナにおける空間構成の考え方.....	121
図 2.20	アルギン・ジョーナにおける空間構成.....	122
図 2.21	対象コミュニティで展開する村落観光の概念図.....	131
図 2.22	村落観光商品における住民、ガイド、観光客の関係.....	131
図 2.23	Future Five Years Road Program 2010 (Low Scenario)（エチオピア道路公社提供）.....	151
図 2.24	Future Five Years Road Program 2010 (Low Scenario) 部分拡大図（エチオピア道路公社提供の図を編集）.....	152

## 表

表 1.1	上位目標、プロジェクト目標及び成果.....	2
表 1.2	Project Design Matrix（改訂後 1）.....	6
表 1.3	Project Design Matrix（改訂後 2）.....	13
表 1.4	事業実施業務費.....	18
表 1.5	活動計画 (PO).....	19
表 1.6	要員配置実績表.....	20
表 1.7	プロジェクト対象地域と支援項目.....	21
表 2.1	JCC 開催実績.....	28
表 2.2	PCC 開催実績.....	31
表 2.3	WG の主な活動内容（2012 年 5 月～2012 年 8 月）.....	34
表 2.4	C/P 組織の役割分担.....	45
表 2.5	SIMCOT-CA 取締役会メンバー.....	46
表 2.6	2 年次の研修及びセミナー実施概要.....	51
表 2.7	研修アンケート結果（ガイド訓練）.....	53
表 2.8	研修アンケート結果（コック訓練）.....	54
表 2.9	研修アンケート結果（従業員技能訓練）.....	54
表 2.10	研修アンケート結果（GIS 訓練）.....	55
表 2.11	3 年次の研修及びセミナー実施概要.....	56
表 2.12	研修プログラム（観光の基礎知識）.....	58
表 2.13	事前アンケート結果（観光の基礎知識）.....	58
表 2.14	研修事後評価アンケート結果（観光の基礎知識）.....	59
表 2.15	研修プログラム（公衆衛生研修）.....	60
表 2.16	研修プログラム（メケット視察）.....	62
表 2.17	研修事前アンケート結果（メケット視察）.....	63
表 2.18	研修事後アンケート結果（第 1 回、第 2 回の総計）.....	63
表 2.19	各協会の活動目標.....	65
表 2.20	研修アンケート結果（観光関連組織強化訓練）.....	66
表 2.21	研修アンケート結果（スカウト研修）.....	68
表 2.22	研修アンケート結果（ガイド研修）.....	69
表 2.23	研修アンケート結果（ホテル・レストラン幹部のためのマネジメント改善 訓練）.....	70
表 2.24	研修プログラム（マーケティング・プロモーション研修）.....	72
表 2.25	研修アンケート結果（マーケティング・プロモーション研修）.....	73
表 2.26	シミエン国立公園 月別入場者数.....	76
表 2.27	シミエン国立公園 国籍別入場者数.....	77
表 2.28	主要国旅行者の性別構成（単位：％）.....	78
表 2.29	主要国旅行者の手配携帯別構成（単位：％）.....	81
表 2.30	主要国旅行者のデバルクまでのアクセス別構成（単位：％）.....	81
表 2.31	入園者実態調査.....	83

表 2.32	ゴンドール空港外客調査.....	85
表 2.33	マーケティング戦略の構成.....	88
表 2.34	プロモーション計画の構成.....	89
表 2.35	新たに発見された観光資源.....	115
表 2.36	村落観光資源（テーマ）.....	116
表 2.37	エコミュージアムにおける構成要素と SMF における要素の対応関係.....	117
表 2.38	対象コミュニティの概要比較.....	118
表 2.39	対象コミュニティにおける村落観光商品開発の方向性.....	119
表 2.40	CTMA に関連する活動.....	124
表 2.41	アルギンのコーポラティブ設立に伴う主な活動.....	125
表 2.42	6 月 WS のスケジュール第 1 日 1st day (Am*: Ambarss, Ar*: Argin).....	126
表 2.43	6 月 WS のスケジュール第 2 日 2nd Day (Am*:Ambarass, Ar*:Argin).....	127
表 2.44	11 月 WS のスケジュール.....	128
表 2.45	1 月 WS のスケジュール.....	128
表 2.46	ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2012 年 9 月～2012 年 12 月）.....	138
表 2.47	ビレッジ・ガイド選考プロセス.....	139
表 2.48	ビレッジ・ガイドおよびデモンストレーター追加.....	140
表 2.49	ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2013 年 9 月～2014 年 2 月）.....	140
表 2.50	ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2014 年 1 月～12 月）.....	141
表 2.51	ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2015 年 3 月～12 月）.....	142
表 2.52	ビレッジ・ツアーの実施状況（2014 年 4 月～2015 年 12 月）.....	144
表 2.53	アンバラスにおけるビレッジ・ツアーの実施状況（2014 年 10 月～2015 年 2 月）.....	145
表 2.54	アルギンのビレッジ・ツアー実施状況（2015 年 4 月～2016 年 1 月）.....	146
表 2.55	アンバラスのビレッジ・ツアー実施状況（2015 年 4 月～2016 年 1 月）.....	147

## 略 語

略語	英語	日本語
ADC	Austrian Development Cooperation	オーストリア開発庁
ANRS-BCTPD	Amhara National Regional State, Bureau of Culture, Tourism and Parks Development	アムハラ州文化観光公園開発局
B to B	Business to Business	企業間取引
B to C	Business to Consumer	企業・一般消費者間取引
C/P	Counterpart	カウンターパート
CTMA	Community Tourism Management Association	コミュニティ・ツーリズム・マネジメント協会
DMO	Destination Management Organization	デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション
EWCA	Ethiopia Wildlife Conservation Authority	エチオピア野生生物保護機構
HRWG	Hotel and Restaurant Working Group	ホテル・レストランワーキンググループ
ICOMOS	International Council on Monuments and Sites	国際記念物遺跡会議
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人 国際協力機構
MoCT	Ministry of Culture and Tourism	文化観光省
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
NSEWG	Natural and Social Environment Working Group	自然・社会環境ワーキンググループ
PCC	Project Coordination Committee	プロジェクト調整会議
PDCA	Plan・Do・Check・Act	計画・実行・評価・改善
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
SCC	Strategic Carrying Capacity	戦略的キャリング・キャパシティ
SDA	Simien Destination Area	シミエン観光圏
SIMCOT-CA	Simien Community Tourism Charity Association	シミエン・コミュニティ・ツーリズム・チャリティ・アソシエーション
SIMCOT-MF	Simien Community Tourism Management Foundation	シミエン・コミュニティ・ツーリズム・マネジメント財団
SIMCOT Project	Simien Community Tourism Project (common name of the project)	シムコット プロジェクト (プロジェクト通称)



略語	英語	日本語
SIMCOT-MDP	Simien Community Tourism Management and Development Plan	シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発計画(仮)
SMNP	Simien Mountains National Park	シミエン国立公園
SMF	Simien Mountains Field Museum	シミエン・マウンテンズ・フィールドミュージアム
TO	Tour Operator	ツアーオペレーター
TOWG	Tour Operation Working Group	ツアーオペレーション・ワーキンググループ
SWOT	Strength, Weakness, Opportunity and Threat	スウォット分析
UNWTO	United Nations World Tourism Organization	国連世界観光機関
VPWG	Village Product Working Group	村落商品開発ワーキンググループ
WG	Working Group	ワーキンググループ



## 第1章 プロジェクトの実施方針

### 1.1 プロジェクトの背景

シミエン国立公園は 1978 年に世界自然遺産リストに登録されたが、公園内の農地拡大（主に大麦とソルガム栽培）により野生生物の生息域が侵害されているとして、1996 年には危機遺産に登録された。その対策としてエチオピア野生生物保護局（EWCA）及び州政府は公園内の集落の自発的移住政策を進めており、これまでにアルクァジエと呼ばれる集落の移転および公園内に存在するギッチ集落民の移住についても合意が得られている。州政府は移転のインセンティブとして移転先での代替生業の付与事業を推進している。観光はその代替生業の 1 つで、これまでにオーストリア開発庁（ADC）のプロジェクトによる支援も行われている。2012 年のコミュニティ・ツーリズムの売り上げは 3,910,435 ブル（シミエン国立公園事務所統計／約 2,000 万円）であるとされる。一方で、現在観光から利益を得ている住民はコミュニティの一部に過ぎず、コミュニティ全体に裨益する観光の実現に向けては、観光運営組織の構築や現行サービスの質向上といった課題、またマーケティング分析の欠如等の問題を抱えている。

シミエン国立公園へのアクセスは、首都アディスアベバから飛行機で北へ約 1 時間に位置するゴンダールに入り、そこから約 100 km の道のりを車両で走ると、シミエン国立公園入り口の町デバルクに到着する。ゴンダール-デバルク間の道路については、プロジェクト開始後の 2013 年 5 月に世界銀行の支援による高規格化（アスファルト化）が完了している。これによりシミエンへの観光需要は大幅に増えると予想される。現在ゴンダールへの訪問客数（2011 年入込客数：112,945 人）とシミエン国立公園への訪問客数（2010 年入込客数 15,995 人）には開きがあり、ゴンダールを訪問する観光客の多くは、シミエンを訪問せずにアクスムやラリベラなどの世界文化遺産を訪問した後、アディスアベバに戻っている。しかし、今後は両者の時間距離が縮まることで、より多くの観光客が国立公園を訪問し、その差も縮まると考えられる。そのため早急に社会的、経済的、環境的に持続可能な受け入れ態勢を整える必要がある。

上記の課題解決に向けて、エチオピア政府は日本政府に技術協力の要請を提出し、国際協力機構（JICA）はその要請に基づき 2011 年 4 月に詳細計画策定調査団を派遣、さらに 8 月に技術協力プロジェクトの実施協議書を締結した。

2014 年 6 月に実施された終了時評価の結果を受け、ビレッジ・ツアー商品の充実およびプロモーション強化のため、2015 年 3 月から 2016 年 2 月（現地活動は 2016 年 1 月まで）を延長期間と定め、活動を継続することが JICA とエチオピア政府の間で合意された。

### 1.2 プロジェクト目標

本プロジェクトの目標は、プロジェクト名称「エチオピア国シミエン国立公園及び周辺地域における官民協働によるコミュニティ・ツーリズム開発プロジェクト」が示すように、官民協働によってはじめて実現が可能となるコミュニティ・ツーリズムを、エチオピア国内の他の自然公園地域にも応用しうる観光開発モデルとして実現させることである。

そのための支援を実施するにあたり、観光地域開発の知見を有する北海道大学観光学高等研究センターを主とする大学研究者及び公益財団法人日本交通公社の観光開発専門家の知見に、国際協力の実践に豊富な経験を有する㈱パデコの民間コンサルタント技術を結合させ、観光開発国際協力を達成しようとするところに本プロジェクトのユニークさがあると言える。

上位目標、プロジェクト目標、成果及び活動は、表 1.1 に示す通りである。これらは、プロジェクト開始後に明らかになった対象地の現状を踏まえて見直され、さらに中間レビューの結果を受けて指標を中心に修正され、第 3 回 JCC で承認された（表 1.1 参照）。変更内容については、後述の 1.3.1 にて述べる。

**表 1.1 上位目標、プロジェクト目標及び成果**

<上位目標>
シミエン国立公園において、地域コミュニティが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域住民の生計が向上するとともに、コミュニティ・ツーリズムが実現する。
<プロジェクト目標>
世界自然遺産シミエン国立公園において、官民協働による、住民に裨益するコミュニティ・ツーリズムの仕組みが構築される。
<成果>
成果 1: 対象地域における観光関連組織の能力が向上するとともに、組織間連携が強化される。
成果 2: 観光マーケティング・プロモーションに係る開発・発掘能力が向上する。
成果 3: 観光商品に係る開発・発掘能力が向上する。
成果 4: 観光圏管理開発プランが官民協働によって適切に策定され、他の国立公園と保護区にモデルとして知られる。
<活動>
<b>活動 1</b> 1-1 観光開発及び観光関連組織の現状を調査、分析する。 1-2 組織間での情報共有・相互協力を推進する場（協議会・課題別ワーキンググループ）を構築する。 1-3 各観光関連組織の能力開発のためのセミナー、研修を実施する。
<b>活動 2</b> 2-1 対象地域における観光マーケティング及びプロモーションの現状調査・分析を実施する。 2-2 マーケティング戦略およびプロモーション計画を策定する。 2-3 観光プロモーション・マテリアルを作成する。
<b>活動 3</b> 3-1 対象地域における観光資源を調査・特定する。 3-2 特定された観光資源を活用し、観光商品を開発、実施する。 3-3 観光商品についてツアーオペレーターに説明する（上記 2-3 との連携作業）。

#### 活動 4

- 4-1 既存の観光関連計画をレビューする。
- 4-2 シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発プラン（案）を作成する。
- 4-3 シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発プラン（案）実施のためのトライアルを行う。
- 4-4 シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発プラン（案）の評価及び同プラン（案）の最終取りまとめを行う。
- 4-5 他の国立公園及び保護区に対してシミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発プラン（案）を紹介するためのワークショップを開催する。

### 1.3 実施方法と活動実績

#### 1.3.1 PDM の変更

##### (1) PDM と指標の再定義

2012 年 6 月に開催された JCC において、PDM と指標の再定義について協議、承認された。PDM と指標の再定義は、1 年次におけるベースライン・サーベイやその他の調査成果、JCC、PCC、課題別 WG の立ち上げを受け、以下のような点に留意しながら進められた。PDM 全体については表 1.2 を参照のこと。

##### 【上位目標】について

改訂前	改訂後	改訂理由
世界自然遺産シミエン国立公園において、地域コミュニティが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域住民の生計が向上するとともに、持続可能な観光が実現する。	世界自然遺産シミエン国立公園において、地域コミュニティが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域住民の生計が向上するとともに、コミュニティ・ツーリズムが実現する。	「持続可能な観光」から、その内容を含みつつ、よりその目的を絞った「コミュニティ・ツーリズム」とするため。

##### 【プロジェクト目標】について

改訂前	改訂後	改訂理由
世界自然遺産シミエン国立公園において、官民協働による、住民に裨益する持続可能な観光開発の仕組みが構築される。	世界自然遺産シミエン国立公園において、官民協働による、住民に裨益するコミュニティ・ツーリズムの仕組みが構築される。	上位目標の改訂理由に同じ。

**【成果 1】 について**

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
1-1 ワーキンググループ毎の年間計画に従い、定例フォーラム、会議が各ワーキンググループで開催される。	1-1 ワーキンググループ毎の年間計画に従い、各ワーキンググループ自らが主体となって会議が開催される。	組織間連携の強化によって構築されるコミュニティ・ツーリズム運営の仕組みを中心となって実際に構築し運営していく主体となるメンバー（WG構成員及びトレーニング参加者）のオーナーシップの醸成と目的意識の形成を重視するため。この仕組みは、シミエン国立公園及びその周辺資源をもとにした観光開発を推進するとともに、地域コミュニティ全体への裨益を実現するためのものである。この仕組みが健全に運営されることで、自然環境や景観が保全されるとともに今よりも質の高い観光が実現し、住民の生計が広く向上する、ということを説明できれば、この仕組みの運営に対して政府や自治体の政策的（制度的）支援を得ることも可能となる。
1-2 プロジェクトの年間計画に従い、セミナー、トレーニングが各ワーキンググループで開催される。	1-2 「ワーキンググループ毎の年間活動自己評価」及び「ワーキンググループが開催するトレーニングにおける参加者の研修評価」が5点満点で4.0以上である。	

**【成果 2】 について**

成果改訂前	成果改訂後	改訂理由
観光プロモーションに係る開発・改善能力が向上する。	観光マーケティング・プロモーションに係る開発・改善能力が向上する。	「観光プロモーション」だけではプロセスとして不十分であるため。
指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
2-1 20XX 年までに XX 個のプロモーション・マテリアルを作成する。	2-1 2012 年中に PCC によりシミエン国立公園のマーケティング分析を通じたマーケティング・プロモーション戦略・計画が策定される。	トータルなプロセスの必要性を認識した上で実践に移すには、その戦略と仕組み、実施手順を計画したマーケティング・プロモーション戦略・計画の作成が不可欠であるため。

成果改訂前	成果改訂後	改訂理由
2-2 20XX 年までに観光プロモーションに係るアクションプランが官民協働により作成される。	2-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50% が、観光圏管理開発プランのツアーオペレーション方針を理解している。	プランの実施の成果を測る指標としては、プロモーション・マテリアルの数ではなく、2-2 の通りとする。

### 【成果 3】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
3-1 20XX 年までに X X 個の観光商品が作成される。	3-1 プロジェクト最終 2014 年のシミエン国立公園の期間入場者の 5% が新規開発された商品（主として村落観光プログラム）を購入する。	ビジネスプランと商品開発とのリンクが重要であるため、開発商品数ではなく、開発商品の実際の利用状況と周知状況を問う。
3-2 20XX 年までに観光商品開発に係るアクションプランが官民協働により作成される。	3-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50% が、観光圏管理開発プランによる新規開発商品の内容を理解している。	

### 【成果 4】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
4-1 関係者の観光圏管理開発プラン（案）に対する満足度が XX% 以上となる。	4-1 PCC 委員とワーキンググループ委員が観光圏管理開発プラン案の作成に十分関与したと考える。	計画策定に関しては、策定プロセスにステークホルダーがどれだけ主体的に取り組むかも重要であり、それが計画の実践段階において大きな意味を持つため。
4-2 観光圏管理開発プランの紹介するために全国レベルのワークショップが少なくとも XX 回開催される。	4-2 観光圏管理開発プランを紹介するための全国レベルのワークショップが複数回開催され、参加者からのモデルとしての評価が 5 点満点で 4.0 以上である。	本プロジェクトで構築する「観光圏管理開発モデル」がどれだけ他事例への応用が可能であるかが問われるため、受益者によるモデルとしての客観的評価を求めることとした。

**表 1.2 Project Design Matrix (改訂後 1)**

プロジェクト名 : シミアン国立公園及び周辺地域における官民協働によるコミュニティ・ツーリズム開発プロジェクト  
 プロジェクト期間 : 2011年11月～2014年10月(計36ヶ月)      プロジェクトサイト: シミアン国立公園及び周辺地域  
 ターゲットグループ: 民間: コミュニティ関係者(対象地域のコミュニティ、観光関連組織等)  
 政府関係者: EWCA(エチオピア野生生物保護機構)及びANRS-BCTPD(アムハラ州文化観光公園開発局)の各レベルの関係職員、

プロジェクト概要	指標	入手手段	外部条件
<b>【上位目標】</b> 世界自然遺産シミアン国立公園において、地域コミュニティが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域住民の生計が向上するとともに、コミュニティ・ツーリズムが実現する。	2021年までに、 1. 地域コミュニティの観光活動への参加者が現在の4,200人から50%増加する。 2. コミュニティ・ツーリズムを実践・運用する官民協働のシステムが稼働している。(*A) 3. 地域への観光収入の一部が観光圏管理に使われる補助金あるいは基金のような仕組みができる。	1. 観光関連団体の会員リスト及び仕事の割り振り表 2. C/P機関への聞き取りと活動記録 3. シミアン国立公園、EWCA(エチオピア野生生物保護機構)の記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の国立公園及び観光開発の政策の方向性が変化しない。</li> <li>・エ国内の観光活動を妨げるマイナス要因が発生しない。</li> </ul>
<b>【プロジェクト目標】</b> 世界自然遺産シミアン国立公園において、官民協働による、住民に裨益するコミュニティ・ツーリズムの仕組みが構築される。	プロジェクト終了時まで、 1. 両C/P機関関係者がコミュニティ・ツーリズムの実施・運営を担う組織に対する政策的支援の必要性を説明できる 2. 対象の5ワレダと1タウンの首長が観光圏管理開発プランの管理開発方針に合意する。 3. 対象モデル地域4村で観光活動に参加する住民が現在の1,400人から20%増加する。	1. 関係者への聞き取りと関係者によるプレゼンテーション 2. 観光圏管理開発プラン説明会記録 3. プロジェクト終了時観光関係組合の会員リスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の国立公園及び観光開発の政策の方向性が変化しない</li> <li>・プロジェクト期間中、プロジェクトで研修を受けたスタッフ(C/P)の配置転換、移動がない。</li> </ul>
<b>【成果】</b> 1 対象地域における観光関連組織の能力が向上するとともに、組織間連携が強化される。	1-1 ワーキンググループ毎の年間計画に従い、各ワーキンググループ自らが主体となって会議が開催される。 1-2 「ワーキンググループ毎の年間活動自己評価」及び「ワーキンググループが開催するトレーニングにおける参加者の研修評価」が5点満点で4.0以上である。	1-1 ワーキンググループの活動記録。関係者聞き取り。 1-2. プロジェクト終了時アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の観光開発の優先度が維持される。</li> <li>・地域コミュニティの観光開発への関心度が維持される。</li> </ul>



2 観光マーケティング・プロモーションに係る開発・改善能力が向上する	2-1 2012 年中に PCC によりシミアン国立公園のマーケティング分析を通じたマーケティング・プロモーション戦略・計画が策定される。 2-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50% が、観光圏管理開発プランのツアーオペレーション方針を理解している。	2-1 策定された戦略と計画 2-2 ツアーオペレーターへの聞き取り調査	
3 観光商品に係る開発・発掘能力が向上する。	3-1 プロジェクト最終 2014 年のシミアン国立公園の期間入場者の 5% が新規開発された商品（主として村落観光プログラム）を購入する。 3-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50% が、観光圏管理開発プランによる新規開発商品の内容を理解している。	3-1 プロジェクト記録 3-2 ツアーオペレーターへの聞き取り調査	
4 観光圏管理開発プランが官民協働によって適切に策定され、他の国立公園と保護区域にモデルとして提言される。	4-1 PCC 委員とワーキンググループ委員が観光圏管理開発プラン案の作成に十分関与したと考える。 4-2 観光圏管理開発プランを紹介するための全国レベルのワークショップが複数回開催され、参加者からのモデルとしての評価が 5 点満点で 4.0 以上である。	4-1 観光圏管理開発プランを議題にした会議の回数と策定後の関係者聞き取り。 4-2 ステークホルダーに対する質問票調査	
<b>活動</b>	<b>投入</b>		
1-1 観光開発及び観光関連組織の現状を調査、分析する。 1-2 組織間での情報共有・相互協力を推進する場（協議会・ワーキンググループ）を構築する。 1-3 各観光関連組織の能力開発のためのセミナー、研修を実施する。 2-1 対象地域における観光マーケティング及びプロモーションの現状調査・分析を実施する。 2-2 地元観光関係者を対象としたマーケティングの技術指導を実施する。	<p>&lt;エチオピア国側&gt;</p> <p>1) カウンターパート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Project Director</li> <li>・ Deputy Project Director</li> <li>・ Project Manager</li> <li>・ Deputy Project Manager (2 名)</li> <li>・ Other Counterpart Personnel</li> </ul> <p>2) プロジェクト事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 執務室（デバルク市、ゴンダール市）</li> <li>・ プロジェクトに必要な機材</li> </ul>	<p>&lt;日本側&gt;</p> <p>1) 専門家派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チーフアドバイザー</li> <li>・ 観光開発</li> <li>・ 組織間調整</li> <li>・ 観光マーケティング・プロモーション</li> <li>・ エコツーリズム</li> <li>・ ワーキンググループ活動支援</li> <li>・ 国立公園管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ シミアン国立公園において観光資源に影響を及ぼす人的あるいは、自然災害が発生しない。</li> </ul> <p><b>前提条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アムハラ州文化観光公園開発局によるプロジェクトへの積極的な支援。</li> <li>・ C/P がプロジェクトへ適切かつタイムリーに配置される。</li> <li>・ プロジェクトのローカル運営資金がエチオピア国政府により確保される。</li> </ul>

<p>2-3 プロモーション作業としてツアーオペレーターを対象に観光圏管理開発プランを説明し、それに応じたオペレーションを依頼する。</p> <p>2-4 観光プロモーション・マテリアルを作成する。</p> <p>3-1 対象地域における観光資源を調査・特定する。</p> <p>3-2 特定された観光資源を活用し、観光商品を開発、実施する。</p> <p>3-3 観光商品についてツアーオペレーターに説明する（上記2-3との連携作業）</p> <p>4-1 既存の観光関連計画をレビューする。</p> <p>4-2 観光圏管理開発プラン（案）を作成する。</p> <p>4-3 観光圏管理開発プラン（案）実施のためのトライアルを行う。</p> <p>4-4 観光圏管理開発プラン（案）の評価及び同プラン（案）の最終取りまとめを行う。</p> <p>4-5 他の国立公園及び保護区に対して観光圏管理開発計プラン（案）を紹介するためのワークショップを開催する。</p>	<p>3) ローカル運営資金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C/Pの活動に必要なコスト負担</li> <li>・ その他プロジェクト活動に必要なコスト</li> </ul>	<p>2) カウンターパートの本邦研修及び第三国研修</p> <p>3) 機材供与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車輛</li> <li>・ オフィス機材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ターゲットエリアのコミュニティがプロジェクトに反対しない。</li> </ul>
---	--	--	---

- (A) ここでの「官民協働のシステム」とは、明確な主体（行政・民間・住民）とガイドラインのもと、マーケティング・プロモーション、ツアーオペレーション、観光収益の一部を資金とするファンドオペレーションを実施するための仕組み。「システムが稼働している」とは、その仕組みが機能することによって、ビジネスとしての持続性が発現されている状態。
- 2つのC/P機関の役割
  - 1) EWCAの役割は、シミアン国立公園内の住民と協力して動植物を保護し、世界遺産及び国立公園にふさわしい環境を整えることである。また公園への入場管理、スカウト、ガイド、ミュール、コック等の手配を通じて、観光客の利便を図り保護する。
  - 2) ANRS-BCTPDの役割は、シミアン国立公園とその周辺の住民の生活文化に着目し、住民の組織化と村落観光開発支援を行うことである。EWCAと協力して地域の観光資源を保護・育成する。
- C/P機関の機能強化に関するSIMCOTの役割：SIMCOTはコミュニティ・ツーリズム振興の視点から、上記2機関の機能強化を図る。地域関係者が組織するワーキンググループ等の活動を通じて、官民連携を強化し、関連組織の協働を進める。PDMに記載の活動はこの趣旨に沿って行われる。

## (2) 指標の変更

2013年1月～2月に実施された中間評価を受け、以下のとおりに指標が変更され、2013年2月11日に開催された第3回JCCで承認された。PDM全体については、表1.3を参照のこと。

### 【上位目標】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
1. 地域コミュニティの観光活動への参加者が現在の4,200人から50%増加する。	1. 地域コミュニティの観光活動への参加者が現在の4,200人から少なくとも50%増加する。	「少なくとも」を追記して、指標の意味を明確にするため。
2. コミュニティ・ツーリズムを実践・運用する官民協働のシステムが稼働している。	2. プロジェクトで構築したコミュニティ・ツーリズムの仕組みが官民協働を通じて継続している。	指標にある「システム」がPDMの脚注で説明されているが、脚注をPDMの枠内にする。
3. 地域への観光収入の一部が観光圏管理に使われる補助金あるいは基金のような仕組みができる。	3. 地域の観光収入の一部がコミュニティ・ツーリズム管理に使われるコミュニティ観光基金ができる。	コミュニティ・ツーリズムのための「基金」と特定する必要があるため。
-	4. 現在策定が進んでいる国家観光戦略の準備段階で、SIMCOT管理開発計画が参考にされた明確な形跡がある。（ <u>情報入手手段</u> ：連邦政府の文化観光省のJICA個別派遣専門家や政策決定者への聞き取り）	個別専門家の支援によるSIMCOT管理開発計画の主流化を評価する追加の指標が必要なため。

### 【プロジェクト目標】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
-	1. 既存の制度体系への主流化と統合を考慮してPCCとワーキンググループを発展させて、コミュニティ・ツーリズム振興のための一種のDMOと基金の設立が提言され、必要な法制度の整備が提案される。（ <u>情報入手手段</u> ：提言と政策素案）	プロジェクトで創始された各種の組織機構を、発展的で持続的な行政制度に移行することが計画されている。それを正當に評価するための追加の指標が必要なため。
1. 両C/P機関関係者がコミュニティ・ツーリズムの実施・運営を担う組織に対する政策的支援の必要性を説明できる。	2. コミュニティ・ツーリズムの実施とプロモーションのための実行可能な政策的支援が事業経験をもとにSIMCOT管理開発計画で示される。（ <u>情報入手手段</u> ：SIMCOT管理開発計画）	「説明できる」の規準が必要なため。

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
2. 対象の 5 ワレダと 1 タウンの首長が観光圏管理開発プランの管理開発方針に合意する。	3. SIMCOT 管理開発計画にある提案と計画をもとに、コミュニティ・ツーリズム振興と官民協働に関する条例や政策策定に関する協議が少なくとも関連する 3 つの郡と 1 市で開催される。 (情報入手手段：協議議事録)	「合意する」の規準が必要のため。
3. 対象モデル地域 4 村で観光活動に参加する住民が現在の 1,400 人から 20% 増加する。	(削除)	プロジェクト目標にある「仕組みの構築」と参加住民の増加の間の論理的繋がりがなかったため。

### 【成果 1】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
1-1 ワーキンググループ毎の年間計画に従い、各ワーキンググループ自らが主体となって会議が開催される。	1-1 ワーキンググループが作成され、既存の組織制度への統合が提案される。(情報入手手段：関連する政府回状・行政令)	プロジェクトの焦点はコミュニティ・ツーリズムに絞られ、各 WG の会合開催の重要性が軽減した。一方、情報交換と協働による課題解決の場としての WG の制度化が重要となっているため。
1-2 「ワーキンググループ毎の年間活動自己評価」および「ワーキンググループが開催するトレーニングにおける参加者の研修評価」が 5 点満点で 4.0 以上である。	1-2 「ワーキンググループが開催するトレーニングにおける参加者の研修評価」が 5 点満点で 4.0 以上である。	元の指標の前半部分は上記の新たな指標 1-1 に統合されたため。
-	1-3 取り組んだ主要な事業成果 (SIMCOT 管理開発計画など) を各レベルの C/P がワークショップや会合で発表できる。(情報入手手段：ワークショップ・会合報告書)	C/P の能力強化はプロジェクトの重要な成果であり、その指標が新たに必要のため。
-	1-4 適正な定数で予定通りプロジェクト調整委員会が開催される。(情報入手手段：PCC の議事録)	組織間連携の強化の指標として、PCC の機能に関する追加の指標が必要のため。

【成果 2】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
2-1 2012 年中に PCC によりシミエン国立公園のマーケティング分析を通じたマーケティング・プロモーション戦略・計画が策定される。	2-1 マーケティングとプロモーションに関する必要な調査研究が実施され、シミエン国立公園のマーケティング分析を通じたマーケティング戦略とプロモーション計画が策定される。(情報入手手段：調査研究報告書と作成された戦略・計画)	プロジェクトでは重要な調査研究を実施しており、これらを正当に評価できる指標が必要なため。
2-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50%が、観光圏管理開発プランのツアーオペレーション方針を理解している。	2-2 シミエン国立公園に関する商品を取り扱っている Gondar と Addis Ababa のツアーオペレーターと Debarq のホテル・レストランオーナーとマネージャーの少なくとも 50%が、マーケティングとプロモーションに関するセミナーに参加する。(情報入手手段：セミナー報告書)	「方針を理解している」が客観的に評価できるようにするべきである。また、「関連ツアーオペレーター」を特定する必要があるため。
-	2-3 観光に関するデータ収集が継続されている(情報入手手段：収集されたデータ)	プロジェクトでは観光マーケティングとプロモーションに必要なデータが継続的に収集される仕組みの構築を支援しており、その指標が必要なため。

【成果 3】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
3-1 2014 年のシミエン国立公園の期間入場者の 5%が新規開発された商品(主として村落観光プログラム)を購入する。	(削除)	この指標の評価に必要なデータ収集に労力が係りすぎると予想され、達成も困難と思われるため。
-	3-1 モデル集落に CTMA が正式にそれぞれ設立される。(情報入手手段：承認された定款)	CTMA の能力向上は村落観光商品開発の方法論・モデルの重要な要素となっており、それに対する指標が必要なため。
3-2 プロジェクト終了時に関連ツアーオペレーターの 50%が、観光圏管理開発プランによる新規開発商品の内容を理解している。	3-2 シミエン国立公園に関する商品を取り扱っている Gondar と Addis Ababa のツアーオペレーターの少なくとも 50%が、新規観光商品の内容を理解している。	「関連ツアーオペレーター」を特定する必要があるため。

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
-	3-3 村落観光商品開発の過程と方法論が資料に整理統合され、それらをモデルとして普及するワークショップにシミエン国立公園とその近辺の理解関係者が少なくとも 50 名参加する。(情報入手手段：方法論に関する資料とワークショップの報告書・出席簿)	プロジェクトは新規観光商品開発の方法論の確立に取り組んでおり、それを正当に評価する指標が必要ため。

#### 【成果 4】について

指標改訂前	指標改訂後	改訂理由
4-1 PCC 委員とワーキンググループ委員が観光圏管理開発プラン案の作成に十分関与したと考える。	4-1 少なくとも 80%の PCC 委員が SIMCOT 管理開発計画案の作成に十分関与したと考える。	「考える」の規準が指標に必要なため。
-	4-2 B-to-B プロモーション試行の経験が方法論として SIMCOT 管理開発計画に整理統合され、全国・州レベルのワークショップで共有され、少なくとも関連する 3 つの郡と 1 市に対して広報される。 (情報入手手段：B-to-B プロモーション試行に関する報告書とワークショップ報告書)	プロジェクトは BtoB プロモーション試行を実施する予定で、その成果を正当に評価する追加の指標が必要なため。
4-2 観光圏管理開発プランを紹介するための全国レベルのワークショップが複数回開催され、参加者からのモデルとしての評価が 5 点満点で 4.0 以上である。	4-3 SIMCOT 管理開発計画の紹介ワークショップが他の国立公園と保護区域の関係者や政策決定者とともに少なくとも 1 回以上開催される。(情報入手手段：ワークショップ報告書)	「要約」に「他の国立公園と保護区域に」とあるので、指標にそれが含まれている必要があるため。

表 1.3 Project Design Matrix (改訂後 2)

プロジェクト名 : シモン国立公園及び周辺地域における官民協働<sup>1</sup>によるコミュニティ・ツーリズム開発プロジェクト  
 プロジェクト期間 : 2011年11月～2014年10月(計36ヶ月) プロジェクトサイト: シモン国立公園及び周辺地域  
 ターゲットグループ: 民間: コミュニティ関係者(対象地域のコミュニティ、観光関連組織等)  
 政府関係者: EWCA(エチオピア野生生物保護機構)およびANRS-BCTPD(アムハラ州文化観光公園開発局)の各レベルの関係職員、

プロジェクト概要	指標	入手手段	外部条件
<p><b>【上位目標】</b> シモン国立公園において、地域コミュニティが観光活動に参加する機会を増やすことを通じて、地域住民の生計が向上するとともに、コミュニティ・ツーリズムが実現する。</p>	<p>2021年までに、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 地域コミュニティの観光活動への参加者が現在の4,200人から少なくとも50%増加する。</li> <li>5. プロジェクトで構築したコミュニティ・ツーリズムの仕組みが官民協働を通じて継続している。</li> <li>6. 地域の観光収入の一部がコミュニティ・ツーリズム管理に使われるコミュニティ観光基金ができる。</li> <li>7. 現在策定が進んでいる国家観光戦略の準備段階で、SIMCOT管理開発計画が参考にされた明確な形跡がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 観光関連団体の会員リストおよび仕事の割り振り表</li> <li>5. C/P機関への聞き取りと活動記録</li> <li>6. DMOに関する記録</li> <li>7. 連邦政府の文化観光省のJICA個別派遣専門家や政策決定者への聞き取り</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の国立公園及び観光開発の政策の方向性が変化しない。</li> <li>・エ国内の観光活動を妨げるマイナス要因が発生しない。</li> </ul>
<p><b>【プロジェクト目標】</b> 世界自然遺産シモン国立公園において、官民協働による、住民に裨益するコミュニティ・ツーリズムの仕組みが構築される。</p>	<p>プロジェクト終了時まで、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 既存の制度体系への主流化と統合を考慮してPCCとワーキンググループを發展させて、コミュニティ・ツーリズム振興のための一種のDMOと基金の設立が提言され、必要な法制度の整備が提案される。</li> <li>5. コミュニティ・ツーリズムの実施とプロモーションのための実行可能な政策的支援が事業経験をもとにSIMCOT管理開発計画で示される。</li> <li>6. SIMCOT管理開発計画にある提案と計画をもとに、コミュニティ・ツーリズム振興と官民協働に関する条例や政策策定に関する協議が少なくとも関連する3つの郡と1市で開催される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4. 提言と政策素案</li> <li>5. SIMCOT管理開発計画</li> <li>6. 協議議事録</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の国立公園及び観光開発の政策の方向性が変化しない</li> <li>・プロジェクト期間中、プロジェクトで研修を受けたスタッフ(C/P)の配置転換、移動がない。</li> </ul>

<sup>1</sup> ここでの官民協働とは、「本来はPublicが果たすべき公益事業をPublicの権限とPrivate sectorの事業遂行ノウハウやファイナンス力などを相乗効果的に生かして実現する」ことである。

<p><b>【成果】</b></p> <p>5 対象地域における観光関連組織の能力が向上するとともに、組織間連携が強化される。</p>	<p>1-1 ワーキンググループが立ち上げられ、既存の組織制度への統合が提案される。</p> <p>1-2 「ワーキンググループが開催するトレーニングにおける参加者の研修評価」が5点満点で4.0以上である。</p> <p>1-3 取り組んだ主要な事業成果（SIMCOT 管理開発計画など）を各レベルの C/P がワークショップや会合で発表できる。</p> <p>1-4 適正な定数で予定通りプロジェクト調整委員会が開催される。</p>	<p>5-1 関連する政府回状・行政令</p> <p>5-2 研修参加者へのアンケート調査</p> <p>5-3 ワークショップ・会合報告書</p> <p>5-4 PCC の議事録</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エ国政府の観光開発の優先度が維持される。</li> <li>・地域コミュニティの観光開発への関心度が維持される。</li> </ul>
<p>6 観光マーケティング・プロモーションに係る開発・改善能力が向上する</p>	<p>2-2 マーケティングとプロモーションに関する必要な調査研究が実施され、シミアン国立公園のマーケティング分析を通じたマーケティング戦略とプロモーション計画が策定される。</p> <p>2-3 シミアン国立公園に関する商品を取り扱っている Gondar と Addis Ababa のツアーオペレーターと Debarq のホテル・レストランオーナーとマネージャーの少なくとも 50%が、マーケティングとプロモーションに関するセミナーに参加する。</p> <p>2-4 観光に関するデータ収集が継続されている。</p>	<p>6-1 調査研究報告書と作成された戦略・計画</p> <p>2-2 セミナー報告書</p> <p>2-3 収集されたデータ</p>	
<p>7 観光商品に係る開発・発掘能力が向上する。</p>	<p>7-1 それぞれのモデル集落において CTMA が正式に設立される。</p> <p>7-2 シミアン国立公園に関する商品を取り扱っている Gondar と Addis Ababa のツアーオペレーターの少なくとも 50%が、新規観光商品の内容を理解している。</p> <p>3-3 村落観光商品開発の過程と方法論が資料に整理統合され、それらをモデルとして普及するワークショップにシミアン国立公園とその近辺の利害関係者が少なくとも 50 名参加する。</p>	<p>3-1 承認された定款</p> <p>3-2 ツアーオペレーターへのアンケート調査類と参加者リスト</p> <p>3-3 方法論に関する資料とワークショップの報告書・出席簿</p>	
<p>4 SIMCOT 管理開発計画が官民協働によって適切に策定され、他の国立公園と保護区域にモデルとして提言される。</p>	<p>4-1 少なくとも 80%の PCC 委員が SIMCOT 管理開発計画案の作成に十分関与したと考える。</p> <p>4-2 B-to-B プロモーション試行の経験が方法論として SIMCOT 管理開発計画に整理統合され、全国・州レベルのワークショップで共有され、少なくとも関連する 3つの郡と 1市に対して広報される。</p> <p>4-3 SIMCOT 管理開発計画の紹介ワークショップが他の国立公園と保護区域の関係者や政策決定者とともに少なくとも 1回以上開催される。</p>	<p>4-1 PCC メンバーに対するアンケート調査</p> <p>4-4 B-to-B プロモーション試行に関する報告書とワークショップ報告書</p> <p>4-5 ワークショップ報告書</p>	



活動	投入		
<p>1-1 観光開発および観光関連組織の現状を調査、分析する。</p> <p>1-2 組織間での情報共有・相互協力を推進する場（協議会・ワーキンググループ）を構築する。</p> <p>1-3 各観光関連組織の能力開発のためのセミナー、研修を実施する。</p> <p>2-1 対象地域における観光マーケティングおよびプロモーションの現状調査・分析を実施する。</p> <p>2-2 マーケティング戦略およびプロモーション計画を策定する。</p> <p>2-3 観光プロモーション・マテリアルを作成する。</p> <p>3-1 対象地域における観光資源を調査・特定する。</p> <p>3-2 特定された観光資源を活用し、観光商品を開発、実施する。</p> <p>3-3 観光商品についてツアーオペレーターに説明する（上記2-3との連携作業）</p> <p>4-1 既存の観光関連計画をレビューする。</p> <p>4-2 SIMCOT 管理開発計画（案）を作成する。</p> <p>4-3 SIMCOT 管理開発計画（案）実施のためのトライアルを行う。</p> <p>4-4 SIMCOT 管理開発計画（案）の評価および同プラン（案）の最終取りまとめを行う。</p> <p>4-5 他の国立公園及び保護区に対して SIMCOT 管理開発計画（案）を紹介するためのワークショップを開催する。</p>	<p>＜エチオピア国側＞</p> <p>1) カウンターパート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Project Director</li> <li>・ Deputy Project Director</li> <li>・ Project Manager</li> <li>・ Deputy Project Manager (2名)</li> <li>・ Other Counterpart Personnel</li> </ul> <p>2) プロジェクト事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 執務室（デバルク市、ゴンダール市）</li> <li>・ プロジェクトに必要な機材</li> </ul> <p>3) ローカル運営資金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C/Pの活動に必要なコスト負担</li> <li>・ その他プロジェクト活動に必要なコスト</li> </ul>	<p>＜日本側＞</p> <p>2) 専門家派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チーフアドバイザー</li> <li>・ 観光開発</li> <li>・ 組織間調整</li> <li>・ 観光マーケティング・プロモーション</li> <li>・ エコツーリズム</li> <li>・ ワーキンググループ活動支援</li> <li>・ 国立公園管理</li> </ul> <p>2) カウンターパートの本邦研修及び第三国研修</p> <p>3) 機材供与</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車輛</li> <li>・ オフィス機材</li> </ul>	<p>・ シミエン国立公園において観光資源に影響を及ぼす人的あるいは、自然災害が発生しない。</p> <p><b>前提条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アムハラ州文化観光公園開発局によるプロジェクトへの積極的な支援。</li> <li>・ C/P がプロジェクトへの適切かつタイムリーに配置される。</li> <li>・ プロジェクトのローカル運営資金がエチオピア国政府により確保される。</li> <li>・ ターゲットエリアのコミュニティがプロジェクトに反対しない。</li> </ul>

### 1.3.2 活動計画（PO）及び活動実績

活動計画（Plan of Operation）および活動実績を表 1.5 に示す。

ほぼ全ての業務が完了済みであり、プロジェクト期間終了時まで、すべての業務を実施できる見込みである。

### 1.3.3 投入実績

#### (1) エチオピア側

エチオピア側からは、以下の投入がなされた。

#### A. カウンターパート

No	C/P の名前	役職 / 機関	プロジェクト における役職	配置期間	
				開始	終了
1	Mr. Kifle Argaw	Director General/EWCA	Project Director	2011.11	2012.6
2	Mr. Ewnetu Bilata Dehela	Director General/EWCA	Project Director	2012.6	2013.9
3	Mr. Dawud Mume	Director General/EWCA	Project Director	2013.11	現在
4	Mr. Mulugeta Seid	Bureau Head/ANRS-BCTPD	Deputy Project Director	2011.11	2012.12
5	Mr. Alebel Dessie	Bureau Head/ANRS-BCTPD	Deputy Project Director	2013.9	2015.7
6	Mr. Awoke Enyew	Bureau Head/ANRS-BCT	Deputy Project Director	2015.12	現在
7	Mr. Sisay Mequanent	Park Warden/EWCA SMNP Office	Project Manager	2011.11	2012.7
8	Mr. Maru Biyadgiegn	Park Warden/EWCA SMNP Office	Project Manager	2012.7	現在
9	Ms. Yirdaw Sisay	Head/Debank Culture and Tourism Office	Deputy Project Manager	2011.11	2015.7
10	Mr. Tarekegne Belayneh	Head/Debank Culture and Tourism Office	Deputy Project Manager	2015.10	現在
11	Mr. Berihun Tiru	Head/North Gondar Zone Culture and Tourism Office	Deputy Project Manager	2011.11	2012.6
12	Mr. Kassie Berihun	Head/North Gondar Zone Culuture and Tourism Office	Deputy Project Manager	2012.6	2015.9
13	Ms. Ms. Birtukan Sisay	Head/North Gondar Zone Culture and Tourism Office	Deputy Project Manager	2015.10	現在
14	Mr. Abebaw Azanaw	Park Warden, EWCA SMNP Office	Other counterpart personnel		
15	Mr. Azanaw Kefyalew	Senior Tourism Officer, EWCA SMNP Office	Other counterpart personnel		
16	Mr. Sisay Yeshanew	Community Development Expert, Community Development Department, EWCA SMNP Office	Other counterpart personnel		
17	Mr. Habtu Alemu	Focal Person of the Project, North Gondar Zone Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		

No	C/P の名前	役職 / 機関	プロジェクト における役職	配置期間	
				開始	終了
18	Mr. Alebachew Mola	Tourism Officer, Debarq Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
19	Mr. Yesuf Hassen	Head, Janamora Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
20	Mr. Negosu Hayelu	Tourism Officer, Janamora Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
21	Mr. Nigusie Alebele	Head, Beyeda Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
22	Mr. Mulugeta Damie	Tourism Officer, Beyeda Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
23	Mr. Muluy Fense	Head, Adarkay Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
24	Mr. Fessu Glselage	Tourism Officer, Adarkay Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
25	Mr. Alene Bayu	Head, Telemt Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
26	Mr. Goitoom Tsegaye	Tourism Officer, Telemt Woreda Culture and Tourism Office	Other counterpart personnel		
27	Mr. Zeleke Tigabe	Director, EWCA Wildlife Development and Protection directorate Chief Warden / National Parks & Wildlife Sanctuaries	Other counterpart personnel		
28	Mr. Shimelis Akilu	Tourism Service Providing Organization Coordinator, North Gondar Zone Culture and Tourism Department	Other counterpart personnel		

## B. プロジェクト事務所

EWCA シミエン国立公園事務所及び北部ゴンダール・ゾーン文化観光局の各一室が、プロジェクトオフィスとして提供された。

## C. ローカル運営資金

事務所運営にかかる電気代、JCC 及び PCC の開催費、村落での活動のための旅費、本邦研修実施のための査証代・エチオピア国内移動旅費等、各カウンターパート機関によって賄われた活動にかかるコストは一部のみであった。

### (2) 日本側

日本側からは、以下の投入を行った。

#### A. 専門家派遣実績

専門家派遣実績は表 1.6 の通りである。

#### B. カウンターパートの本邦研修

本邦研修の実施実績については、後述の 2.6 を参照のこと。

#### C. 供与機材（車両及びオフィス機材）

供与機材実績については、添付資料 (1) を参照のこと。

#### D. 現地業務費

現地にて投入した事業実施業務費は、以下の通りである。

表 1.4 事業実施業務費

(円)

経費項目	1年次	2年次	3年次	4年次	合計
一般業務費	7,489,000	14,207,000	27,158,000	25,800,000	74,654,000
機材費	5,329,000	482,000	15,000	0	5,826,000
現地再委託契約	3,019,000	1,859,000	14,568,000	5,080,000	24,526,000
会議費	0	275,000	0	0	275,000
国内研修費	1,998,000	1,093,000	1,971,000	900,000	5,962,000
合計	17,835,000	17,916,000	43,712,000	31,780,000	111,243,000

※プロジェクト車両は除く。

※4年次の金額は1月上旬時点での概算額。





## 1.4 プロジェクト対象地域

プロジェクト対象地域は、「シミエン国立公園及び周辺地域」とされ、シミエン国立公園を擁する 5 つのワレダ及びトレッキングツアーの拠点であるデバルク・タウン、そしてゴンダール・タウンの近郊のカバレであるウナニヤおよびコソイエを含む。各地域に対する支援項目は表 1.7 の通り整理されている。

表 1.7 プロジェクト対象地域と支援項目

支援項目	対象地域
能力強化	- WG / CTMA、その他のコミュニティ・メンバー - ワレダ、北部ゴンダール・ゾーン、アムハラ州、連邦政府の C/P
村落観光プログラム・商品開発	アルギン・ジョーナ・カバレにおける 3 つのサブカバレ
フィールドミュージアム・サテライトセンター開発	アルギン・ジョーナ・カバレにおける 3 つのサブカバレの内 2 つのサブカバレ
村落観光プログラム、サテライトセンター、トレイル、CTMA などの紹介ワークショップ	少なくとも 3 つのワレダと 1 タウン
SIMCOT 管理開発計画（以下、SIMCOT-MDP）の策定	シミエン観光圏エリア（ウナニヤ、コソイエを含む）およびゴンダール
SIMCOT-MDP の広報	ワレダ、北部ゴンダール・ゾーン、アムハラ州、連邦政府の関連機関、SMNP 以外の国立公園、ドナー
DMO の定款策定およびコミュニティ・ツーリズム基金の設立	シミエン観光圏エリアおよびゴンダール

プロジェクトの上位目標では、「地域住民の生計向上」が掲げられるが、この「地域住民」とは、主に、公園を構成する 5 つの郡に居住する住民を指す。しかし、公園において観光をマネジメントするには、デバルクと公園のみの検討では不十分であるとの考えから、SIMCOT-MDP 内では、公園を構成する 5 つの郡及び公園へのアクセスの基点となる都市ゴンダール、公園玄関口の町デバルク、その途中でゴンダール近郊にあるコソイエ、ウナニヤを周辺地域と捉え、それら全体を観光マネジメント対象としての「観光圏」としている（図 1.1 参照）。

コソイエ及びウナニヤは、ゴンダール近郊においてシミエン国立公園に類似した地形景観を有する集落である。よって、①（将来的に実施される可能性が高い）公園への入域制限で入園できない旅行者を誘導する目的地、②シミエン国立公園への訪問意向を持ちながらも、時間的、予算的理由により訪問できない旅行者を誘導する目的地、また、③公園訪問客の立ち寄り拠点として SIMCOT-MDP 内で位置づけている。

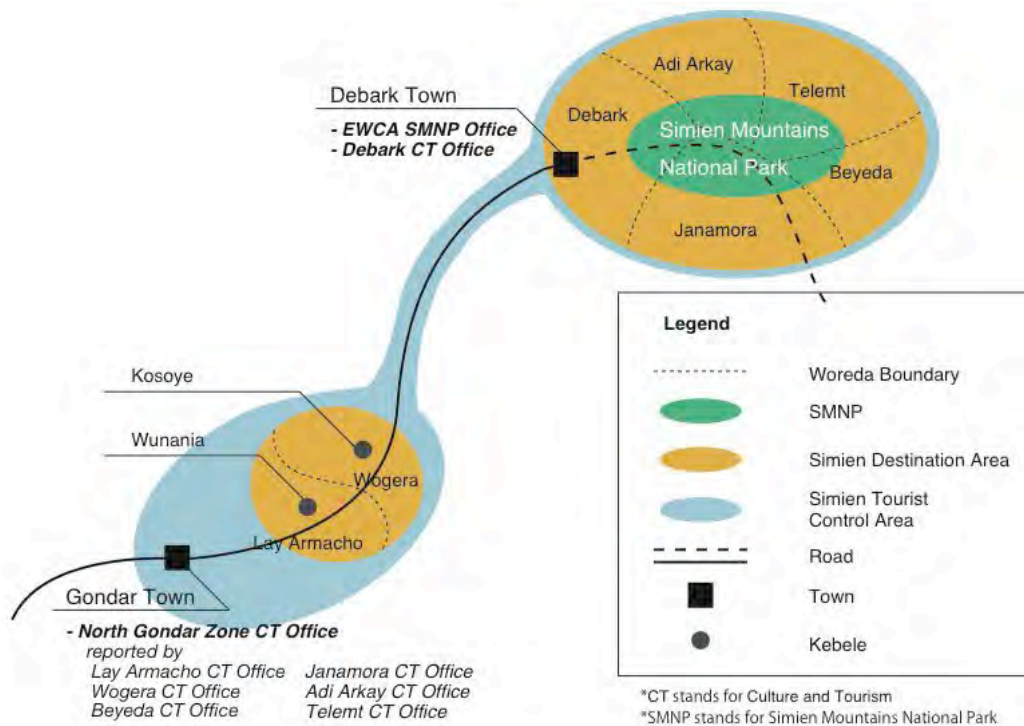


図 1.1 プロジェクト対象地域



## 第2章 技術移転成果の概要

### 2.1 活動成果の総括

本プロジェクトでは、将来的な自然公園の環境回復を目指して、コミュニティ・ベースド・ツーリズム開発による住民支援の仕組みの構築を目的に活動してきた。

まず、公園の資源を生活のために利用している集落を特定し、コミュニティ・ベースド・ツーリズム資源として生活から生み出される文化資源を抽出した。文化の本物性を失わないことに注意しながら、観光商品として成立するような説明の手順を検討し、生活文化を資源とする観光商品を造成した。活動の母体として協同組合を設立し、さらに、コミュニティ全体への裨益を目指してコミュニティ基金を設立した。

このようにして造成された商品を適切なセグメントに対して、適切なツールを使ってマーケティングできるようにするため、マーケティングデータの収集と分析を行った。得られた結果から、マーケティング戦略を策定した。その戦略に基づき、様々なプロモーション・マテリアルを作成し、それらを駆使しつつ、BtoB (business to business) および BtoC (business to customer) というプロモーション・チャンネルを使って商品の広報を行った。既に BtoB プロモーションを通じた送客に成功しており、BtoC プロモーションも徐々に効果を発揮してきている。

また、シミエンにおける観光全体の質の向上を目的として、ホテルやレストランなど、各種サービスプロバイダーに対する研修も実施した。

そして、こうした活動が目指す将来像を、シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発計画 (Simien Community Tourism Management and Development Plan: SIMCOT-MDP) を策定することによって示し、その将来像を実現するために必要な活動について認識を共有した。さらに、政府と連携しながら、政府のコントロール下で計画を実行する主体としてシミエン・マウンテンズ・コミュニティ・ツーリズム・チャリティ・アソシエーション (SIMCOT-CA) を設立した。

以上のように、これまでまったく光が当てられていなかった文化的側面に着目したビレッジ・ツアー商品がゼロから開発され、それが販売されるためのチャンネルが構築され、それらを運営するための組織が設立されており、コミュニティ・ツーリズムの仕組みが作られていると言える。しかし一方で、政府と運営組織による官民連携の体制や、運営組織の運営資金獲得について、また、村側ではコミュニティ全体への裨益の実現について課題が残される。

### 2.2 プロジェクト関連協議会

プロジェクト 1 年次に、ワーク・プランに基づき下図のような組織を立ち上げるとともに、C/P との協議の上で村落観光開発支援チームを設立した。次節以降で、これらの協議会の成果と展開について述べる。

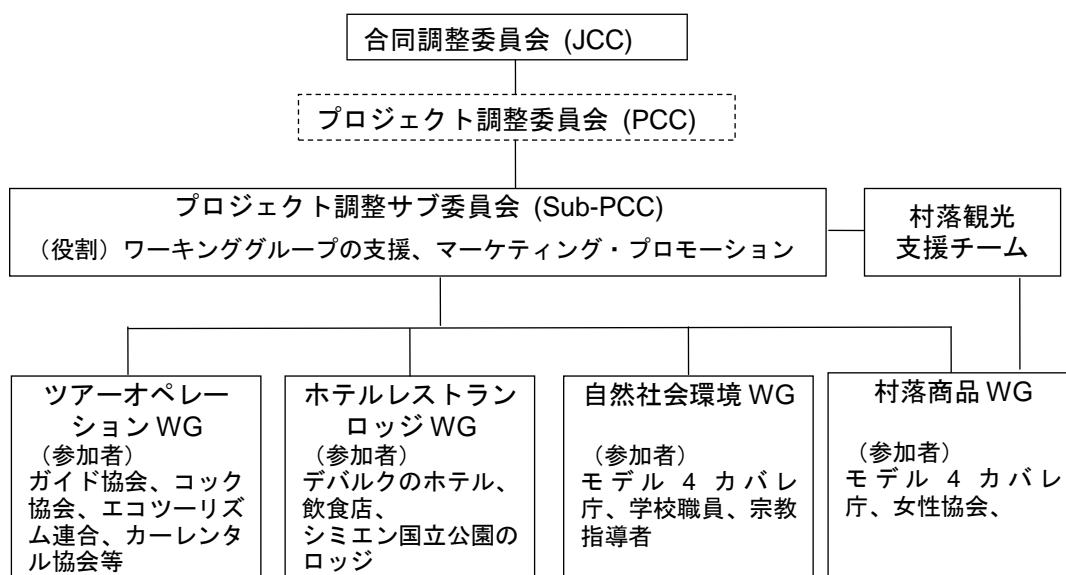


図 2.1 プロジェクトの関連組織関連図

### (1) 合同調整委員会 (JCC)

R/D の合意に基づき合同調整委員会を設立、第 1 回の会合を行った。同委員会の議長と副議長は、2つのカウンターパート (EWCA と ANRS-BCPTD) 機関最高責任者がそれぞれ任命されている。会議の主な役割は、プロジェクトの進捗状況の管理及びワーク・プランの承認や PDM における指標の確定など、プロジェクトに関する重要な検討事項に関する協議、決定である。年間 1~2 回程度実施した。

2011 年 12 月 13 日に開催された第 1 回 JCC において、ワーク・プランが承認された。これまでの他ドナーの援助方法と比較され、当初は JICA の技術協力というコンセプトに対する理解が得られにくかったが、JCC においては、日本が主体的に取り組むプロジェクトではなく、双方で協力して推進していくプロジェクトである点や、今後のコストシェアリングについても理解を得ることができた。

会合の議事録については添付資料(2) を参照のこと。

### (2) プロジェクト調整委員会 (PCC) とサブ PCC (sub-PCC)

ワーク・プランでは、PCC メンバーとして JCC メンバー及び現場レベルでの関係者代表が想定されていたが、その想定には以下の問題があることが判明した。

- 予定されていた PCC の構成員は JCC とほとんど変わらず、現地の関係者の参加が少ない
- 頻繁な開催は難しい (JCC メンバーはアディスアベバ、バハルダール、ゴンダール、デバルクと各地に拡散しており、これらのメンバーが 1つの場所に頻繁に集まるのは実質的に困難である)

- 現地の状況に応じて小回りの利く対応ができない（日々の活動について JCC メンバーの理解が必要ということになると、決定までに時間を要し、活動を円滑に進めることができない）

そこで、EWCA シミエン国立公園事務所長やデバルク・ワレダ文化観光局観光開発担当官を交えた協議の結果、プロジェクトの現場に近い関係者による sub-PCC を設立することが提案され、さらに JCC メンバー間でも合意された。2月17日に行われた sub-PCC の会議では、その役割について議長である EWCA シミエン国立公園事務所長から説明があり、さらに sub-PCC の主要な議題の一つであるマーケティング・プロモーションを中心に議論された。出席者との活発な質疑のやりとりが交わされ、それを通してマーケティング・プロモーションに関する知識、分析手法の技術移転が行われたと考えられる。

sub-PCC の役割は、観光圏管理開発プランの現場レベルでの実施可能性の検討、マーケティング・プロモーション計画の検討、下記 WG に対するトレーニング内容の検討などである。従って、議長を EWCA シミエン国立公園事務所長とし、その他の主要なメンバーは各 WG のグループ長で構成され、さらにアドバイザーとしてゴンダール大学観光学科長が参加している。

その後の協議で、JCC と PCC、また PCC と sub-PCC を差別化することが難しいことが指摘され、sub-PCC を PCC とすることが決定された。PCC を、当初の枠組みから変更し、参加者をゴンダールおよびデバルクを含むシミエン周辺のワレダからの参加者に限ることにより、前述の問題が解決された。

### (3) ワーキング・グループ (WG)

以下の4つのWGが関係者の合意により設立された。開発する観光商品に関するごとに関係するステークホルダーを分け、ツアーオペレーション WG、ホテル・レストラン WG、村落商品 WG が設立された他、観光開発の自然・社会環境に対する負荷を軽減するためのルールやマナーなどについて検討する自然・社会環境 WG を設立した。各WGの構成員については添付資料(3)を参照のこと。

新規に開発する村落観光プログラム以外にも、既存のトレッキング等観光商品を改善することもプロジェクト地域の観光開発では大切である。これまでツアーオペレーション関連団体のワークショップを3度実施しているが、観光の現状に問題が多いことは、対象地域の観光に従事する関係者も十分に認識している。4つのWG全体としての方針は下記の通り策定された。

- 関連組織間で話し合いの機会を多く持って、改善策を立てる
- 送客してくれる TO と懇談して苦情を聞く
- 観光客向けに満足度のアンケートを実施する
- 上記で把握した問題点について、それらを解決する対策としてトレーニングを実施する

## A. ツアーオペレーション・ワーキンググループ (TOWG)

期待される役割

- シミエン国立公園内のツアー実施に関わる団体相互の意思疎通
- 関連団体会員の技術向上
- シミエン国立公園に送客してくれる TO との各種調整

メンバーが考えた今後 1 年の活動アイデアは以下の通り。

	活動	内容
1	関係者間の意見交換	定例ミーティングの開催
2	各協会のトレーニング	ガイドトレーニング、コックトレーニング、スカウトトレーニング
3	TO との意見交換	アディスアベバのオペレーター協会との懇談
4	必要機材の購入	テント等、トレッキング用携行機材
5	スタディ・ツアー	コミュニティ・ツーリズムの先進地メケット視察

## B. ホテル・レストランワーキンググループ (HRWG)

期待される役割

- 宿泊、飲食業に関わる関係者相互の意思疎通
- 共通の問題（停電、断水、下水、予約キャンセル）等への取り組み
- 宿泊、飲食業従事者の技術向上

メンバーが考えた今後 1 年の活動アイデアは以下の通り。

	活動	内容
1	業種ごとのトレーニング	ホテル、レストラン等マネージャーと従業員トレーニング
2	汚水の処理方法改善	雨水、下水、雑排水の配管・処理方法改善
3	資機材の調達	コンピュータ、洗濯機、ソーラーシステム等
4	TO との意見交換	アディスアベバのオペレーター協会との懇談
5	スタディ・ツアー	コミュニティ・ツーリズムの先進地メケット視察

## C. 村落商品ワーキンググループ (VPWG)

期待される役割

- 新規観光商品（村落観光プログラム）と仕事分配システムの開発
- 村落における新旧の観光商品の改善・技術向上
- 住民（特に女性）の観光関与の促進

メンバーが考えた今後 1 年の活動アイデアは以下の通り。

	活動	内容
1	工芸協会の設立	技能向上、販売促進
2	観光サービス振興協会の設立	組織設置、村落観光プログラムの準備・実施
3	ミューラー、ミリシャの報酬改善	ビジネスプランを作成し、関係官庁に陳情
4	工芸品の売り場設置	子供が販売業務に従事することなく通学できるよう、販売員を設置
5	スタディ・ツアー	コミュニティ・ツーリズムの先進地メケット視察

#### D. 自然・社会環境ワーキンググループ (NSEWG)

期待される役割

- 住民関係者への環境理解促進
- エコツーリズムが自然保護につながる仕組み構築
- 植林等、環境回復活動の推進

メンバーが考えた今後1年の活動アイデアは以下の通り。

	活動	内容
1	自然・社会環境への啓発	学校の環境クラブ等を支援
2	環境協会の設立	4つのモデルカバレで設立
3	公園内関係者の活動調整	関連する団体を環境保全のために組織化する
4	違法活動の取締り	住民が自主ルールをつくり、普及する
5	環境保全活動から利益が出る仕組み作り	プロジェクト企画、実施 (例えば非木材森林生産物等)
6	観光活動から住民に収入が入る仕組み作り	住民に農業、畜産以外の収入源を提供する
7	スタディ・ツアー	コミュニティ・ツーリズムの先進地メケット視察

#### E. 村落観光開発支援チーム

前述の資源調査の結果を検証し、観光プログラムの計画・実施を支援するために、村落観光開発支援チームが発足した。構成員はシミエン国立公園事務所代表、デバルク文化観光事務所代表、ガイド協会代表、専門家チーム代表である。このチームは観光プログラムの案を話し合い、それを4つのモデル村落に持ち込んで、女性協会等関係者と以下のことを協議した。村落観光支援チームは適宜村落を訪問し、村落商品開発WGのメンバーと十分協議しながら支援を行った。

- 観光プログラム案は村落の社会状況から受け入れられるものか
- そのプログラムを実施するのは誰か、またどの組織か
- 観光客がプログラムに参加するためにどのような配慮が必要か
- 実施準備のために何が必要か（組織作り、資機材、トレーニング、予約システム等）
- プログラム実施スケジュール、コスト負担

## 2.3 JCC 開催支援

これまでに合計 7 回の JCC 会議を実施し、プロジェクト終了前の 2 月に、8 回目の最終会議を実施する予定である。

各回の議題と要旨は下記の通りである。

表 2.1 JCC 開催実績

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
第 1 回	2011 年 12 月 13 日 ・アディスア ベバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EWCA 長官 (Dr. Kifle)</li> <li>・ ANRS-BCTPD 局長 (Mr. Mulugeta)</li> <li>・ Simien Park Office 公園長 (Mr. Sisay)</li> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 プロモーション担当 (Mr. Shimelis)</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 (Mr. Yirdaw)</li> <li>・ 日本人専門家 6 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JCC メンバーの決定</li> <li>・ ゴンダール大学長を JCC 常任メンバーとして招聘</li> <li>・ PCC メンバーのアドバイザーとして、北部ゴンダール・ゾーン文化観光局職員を招聘</li> <li>・ PCC メンバーのアドバイザーとして、ゴンダール大学観光マネジメント学科長を招聘</li> <li>・ PCC の開催は、3 ヶ月に 1 回を目安とする</li> </ul>
第 2 回	2012 年 6 月 4 日 ・アディスア ベバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EWCA 長官 (Dr. Kifle)</li> <li>・ ANRS-BCTPD 副局長 (Mr. Berhanu)</li> <li>・ Simien Park Office 公園長 (Mr. Sisay)</li> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光副局長 (Mr. Asnokew)</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 (Mr. Yirdaw)</li> <li>・ EWCA Northern Protected Area Coordinator (Mr. Zeleke)</li> <li>・ ゴンダール大学 観光マネジメント学科長 (Mr. Mulugeta)</li> <li>・ 日本人専門家 5 名</li> <li>・ JICA 職員 2 名</li> <li>・ 在エチオピア日本大使館 1 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PDM と指標の再定義</li> <li>・ 裨益者の費用負担</li> </ul>
第 3 回	2013 年 2 月 11 日 ・バハルダ ール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ANRS-BCTPD 副局長 (Mr. Berhanu)</li> <li>・ Simien Park Office 公園長 (Mr. Sisay)</li> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長 (Mr. Kassie)</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 (Mr. Yirdaw)</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 副パークワージー (Mr. Abebaw)</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 観光担当 (Mr. Azanaw)</li> <li>・ ゴンダール大学副学長 (Mr.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間レビューの評価結果承認</li> <li>・ C/P 機関スタッフの会議参加費用について、基本的に C/P 機関が負担することを再確認</li> <li>・ シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発計画 (Simien Community Tourism Management and Development Plan: SIMCOT-MDP) と 2 年次の活動の概要報告</li> <li>・ ゴンダール大学の位置づけを、JCC 「メンバー」 から 「アドバイザー」 に変更</li> </ul>

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
		<ul style="list-style-type: none"> <li>Afework)</li> <li>日本人専門家 4 名</li> <li>JICA 職員 5 名 (内 2 名は中間レビュー団員)</li> <li>中間レビュー団員 (辻)</li> </ul>	
第 4 回	2013 年 6 月 27 日 ・アディスア ベバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>EWCA 長官 (Mr. Ewnetu)</li> <li>ANRS-BCTPD 副局長 (Mr. Berhanu)</li> <li>北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長(Mr. Kassie)</li> <li>EWCA シミエン公園事務所長 (Mr. Maru)</li> <li>EWCA Northern Protected Area Coordinator (Mr. Zeleke)</li> <li>ゴンダール大学 観光マネジメント学科長 (Mr. Mulugeta)</li> <li>日本人専門家 3 名</li> <li>JICA 職員 2 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発プラン (SIMCOT-MDP) (案) の基本的な方針に合意</li> <li>計画の推進母体となるシミエン・コミュニティ・ツーリズム・マネジメント財団 (SIMCOT-MF) 設立については、再委託契約による調査結果に基づいて検討を進めることに合意</li> <li>Wunania Kabele 及び Koseye Kebele でコミュニティ・ツーリズム開発を推進する Lay Amacho Woreda 及び Wogera Woreda 文化観光事務所職員の PCC 参加承認</li> <li>第 3 回本邦研修参加者の決定</li> </ul>
第 5 回	2014 年 2 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>EWCA 長官 (Mr. Dawud)</li> <li>北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長(Mr. Kassie)</li> <li>デバルク文化観光事務所長 (Mr. Yirdaw)</li> <li>EWCA Northern Protected Area Coordinator (Mr. Zeleke)</li> <li>ゴンダール大学 副学長 (Mr. Afework)</li> <li>日本人専門家 3 名</li> <li>JICA 職員 3 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去半年間の成果のレビュー</li> <li>SIMCOT-MF に関する協議</li> <li>Deloitte の報告書 (案) が仕上がった時点で、EWCA のマネージャー会議を開催、主に「組織のタイプ」および「組織に対するコンサベーションフィー徴収権限の付与」について検討 (Deloitte の報告書に対するコメント、修正依頼) を行い、それが終了した時点で観光省大臣に諮ることが決定</li> <li>第三国研修を本邦研修に変更したい旨を JICA に相談することを決定</li> <li>EWCA 長官提案の議題として「プロジェクトの継続についての意見表明」が挙げられ、全エチオピア人出席者が JICA による継続的サポートが必要であるとの意見を表明</li> </ul>
第 6 回	2014 年 6 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>EWCA 長官 (Mr. Dawud)</li> <li>アムハラ州文化観光事務局長 (Mr. Alebel)</li> <li>北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長(Mr. Kassie)</li> <li>EWCA シミエン公園事務所長 (Mr. Maru)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>終了時評価の結果共有</li> <li>C/P から、延長およびプロジェクト第 2 フェーズに関する要請 (SIMCOT が開発した CBT によってコミュニティが本当に経済的利益を得られることが確認できるまで延長すべきであるとい</li> </ul>

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
		<ul style="list-style-type: none"> <li>デバルク文化観光事務所長 (Mr. Yirdaw)</li> <li>日本人専門家 4 名</li> <li>JICA エチオピア事務所 1 名</li> <li>終了時評価団員 4 名</li> <li>終了時評価アドバイザー (Mr. Yenesaw)</li> </ul>	<p>う理由から、延長期間の要請が挙げられた。また、CBT を展開するだけでなく、公園の自然環境の保全に直接関わる内容や、施設整備に関する内容を盛り込んでほしいとの理由からプロジェクトの第 2 フェーズの要請が挙げられた)</p>
簡易ミーティング	2014 年 11 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>EWCA 長官 (Mr. Dawud)</li> <li>ANRS-BCTPD 局長 (Mr. Alebel)</li> <li>SIMCOT プロジェクト副総括／組織間調整 2 (八百板季穂)</li> <li>SIMCOT p</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺産協力金の徴収について、EWCA が設立した検討委員会からも積極的な回答が得られたため、EWCA 長官および ANRS-BCTPD 局長と協議し、組織設立にかかる一連の手続きについてはプロジェクトが、また、遺産協力金制度設立のための行政手続きについては EWCA 主導ですめることに合意</li> </ul>
第 7 回	2015 年 6 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>EWCA 長官 (Mr. Dawud)</li> <li>ANRS-BCTPD 副局長 (Mr. Wagaw)</li> <li>北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長／SIMCOT-CA 取締役会議議長 (Ms. Birtukan)</li> <li>デバルク文化観光事務所長／SIMCOT-CA 取締役 (Mr. Yirdaw)</li> <li>EWCA シミエン公園事務所長／SIMCOT-CA 取締役 (Mr. Maru)</li> <li>ゴンダール大学 観光マネジメント学科長／SIMCOT-CA 取締役会議アドバイザー (Mr. Yanesew)</li> <li>SIMCOT-CA 取締役／デバルク・ワレダ長 (Mr. Beleta)</li> <li>SIMCOT-CA 取締役／デバルク・タウン町長 (Mr. Hunelgne)</li> <li>SIMCOT-CA 事務局長 (Mr. Berhanu)</li> <li>SIMCOT-CA 秘書 (Ms. Hiwot)</li> <li>SIMCOT プロジェクトローカルスタッフ／SIMCOT-CA マーケティングオフィサー (予定) (Ms. Birtukan)</li> <li>SIMCOT プロジェクトローカルスタッフ／SIMCOT-CA 商品開発オフィサー (予定) (Ms. Tasfaye)</li> <li>日本人専門家 1 名</li> <li>JICA 職員 2 名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>半年間の活動のレビュー</li> <li>SIMCOT-CA の運営資金としての遺産協力金についての協議</li> <li>プロジェクトから、遺産協力金制度を開始するためには、政府が新たな公布 (プロクラメーション) を発布するか、TO を通じて徴収することを提案したものの、EWCA 長官が協議を拒否。プロジェクトダイレクターである EWCA 長官により、理由は述べられないまま、TO との協議はしないという方針が決定</li> <li>SIMCOT-CA の予算計画について協議。主に、事務局長の給与設定が高額すぎる点にコメントが集中</li> <li>プロジェクト終了に向けた方針検討・確認については継続協議となった</li> </ul>



回数	日時・場所	参加者	決議事項など
第8回	2016年 2月20日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EWCA 長官</li> <li>・ ANRS-BCTPD 局長</li> <li>・ 北部ゴンドール・ゾーン文化観光局長</li> <li>・ デバルク文化観光事務所長</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所長</li> <li>・ ゴンドール大学 観光マネジメント学科長</li> <li>・ 日本人専門家</li> <li>・ JICA 職員</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プロジェクト全体のレビューおよび残された課題について協議し、課題克服にむけての方策に合意</li> <li>・ SIMCOT-CA の活動の持続にむけた協議</li> </ul>

## 2.4 PCC 開催支援

これまでに合計8回のPCC会議を実施し、プロジェクト終了前の2月に、9回目の最終会議を実施する予定である。

各回の議題と要旨は下記の通りである。

表 2.2 PCC 開催実績

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
第1回	2012年 2月17日～ 18日 ・デバルク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エチオピア側プロジェクトステークホルダー 78名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EWCA 北部保護区コーディネータによる本邦研修の成果発表（屋久島における研修の成果を中心に、日本における公園管理やコミュニティ・ツーリズムの考え方と展開手法）</li> <li>・ ゴンドール大学エンデルカチヨウ教授による、自然保護の取り組みに関する発表</li> <li>・ 参加者との意見交換</li> </ul>
第2回	2012年 8月2日 ・デバルク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 3名</li> <li>・ ジャナモラ文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 1名</li> <li>・ アディアルカイ文化観光事務所 2名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 2名</li> <li>・ ゴンドール大学 1名</li> <li>・ 自然および社会ワーキンググループ 1名</li> <li>・ 遺産保全および観光開発ワーキンググループ 1名</li> <li>・ 文学および教員事務所 (Literature and Teacher Office) 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果4の計画策定に関するプレゼンテーションおよび協議</li> <li>・ コストシェアリングの考え方に関する協議</li> </ul>

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
第3回	2012年 11月26日 ・デバルク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 1名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 1名</li> <li>・ アディアルカイ文化観光事務所 1名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 2名</li> <li>・ ゴンダール大学 1名</li> <li>・ 村落商品ワーキンググループ 1名</li> <li>・ ツアーオペレーションワーキンググループ 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西山総括および石森専門家、石黒専門家によって、それぞれ「エコミュージアム・コンセプト」「DESTINATION・マーケティング」「コミュニティ・ツーリズムの世界的な重要性」の講義実施</li> <li>・ C/Pによる発表機会創出を意図し、バイエダ・ワレダ(郡)の文化観光事務所長(第1回本邦研修参加者)によるバイエダ・ワレダの遺産についての発表</li> <li>・ 各ワレダが順番で発表を行うことを決定</li> </ul>
第4回	2013年2月7日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 2名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 2名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 2名</li> <li>・ アディアルカイ文化観光事務所 1名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 2名</li> <li>・ ゴンダール大学 1名</li> <li>・ 村落商品ワーキンググループ 1名</li> <li>・ ツアーオペレーションワーキンググループ 1名</li> <li>・ ホテル&amp;レストランワーキンググループ 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 八百板専門家によるエコミュージアム・コンセプトについてのプレゼンテーション</li> <li>・ ツェレムトワレダ文化観光事務所長によるツェレムトの遺産に関する発表</li> <li>・ 5ワレダ+ウナニヤ、コソイエの遺産をリストアップ</li> <li>・ 各ワレダのテーマに関するブレインストーミング</li> </ul>
第5回	2013年6月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 2名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 2名</li> <li>・ アディアルカイ文化観光事務所 1名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 2名</li> <li>・ CTMA メンバー 4名</li> <li>・ ゴンダール大学 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ INDABA 研修についての報告</li> <li>・ Adi Arkay Woreda が有する自然・文化遺産についての発表</li> <li>・ SIMCOT-MF の概要説明</li> </ul>
第6回	2013年11月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA 本部 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 2名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 2名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 1名</li> <li>・ ジャナモラ文化観光事務所 2名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WTM 研修の成果および白川村合掌財団についての発表</li> <li>・ 石黒専門家より SIMCOT-MF のDMOとしての役割について説明</li> </ul>

回数	日時・場所	参加者	決議事項など
第7回	2014年3月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンドール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 1名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 1名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 1名</li> <li>・ ジャナモラ文化観光事務所 1名</li> <li>・ ゴンドール大学 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道大学が実施した文化資源調査の結果共有</li> <li>・ デバルク・ワレダの遺産について発表</li> <li>・ Mr.Nicol 訪問についての情報共有</li> <li>・ ビレッジ・ツアー開発の進捗について共有</li> <li>・ Charitable Society について発表</li> </ul>
第8回	2014年6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部ゴンドール・ゾーン文化観光局 1名</li> <li>・ EWCA シミエン公園事務所 1名</li> <li>・ デバルク文化観光事務所 1名</li> <li>・ バイエダ文化観光事務所 2名</li> <li>・ ツェレムト文化観光事務所 2名</li> <li>・ ジャナモラ文化観光事務所 1名</li> <li>・ アディアルカイ文化観光事務所 2名</li> <li>・ ウォゲラ文化観光事務所 2名</li> <li>・ レイアマチョ文化観光事務所 2名</li> <li>・ ゴンドール大学 1名</li> <li>・ 日本人専門家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェノロジーカレンダーの作成を通じて文化遺産の要素を抽出</li> <li>・ 各ワレダによる文化資源調査の結果を踏まえた具体的なトレイル提案</li> </ul>
第9回	2016年1月末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PCC メンバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文化遺産トレイル開発にむけた協議（予定）</li> </ul>

## 2.5 WG 会議開催支援

前述の通り、1年次に4つのWGが設立された。

2012年5月から同年8月における各WGの主な活動内容を表2.3に示す。同表中にて太字で表示している研修・セミナーの実施に関しては、次節2.7.2にて詳細に記載する。2012年10月に開催されたNSEWGとVPWGのミーティングにおいて、日当宿泊費に係るプロジェクトの規定及び村落観光開発の対象地域の選定経緯や活動方針についてWGメンバーと確認した。

その結果、CBT開発を目的とする本プロジェクトが集中的に取り組むアルギン・ジョーナでの活動で一定レベルの目に見える成果が確認できるまで、環境保全というCBTとは間接的なテーマを持つNSEWGと、アルギン・ジョーナ以外の村を含むVPWGは当面休止する事で合意した。

表 2.3 WG の主な活動内容（2012 年 5 月～2012 年 8 月）

WG	主な活動内容
NSE WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境キャンペーンの実施（6月）</li> <li>・ メンバー構成の再検討（副リーダーの配置とメンバーの交代、追加）（8月）</li> <li>・ WG ミーティングの開催（9月15日）（17人中9人参加、出席率 52.9 %）</li> </ul> <p>副リーダーの配置及びメンバーの交代・追加 公園内の環境保全に関する講義 今後の活動計画の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG ミーティングの開催（10月9日、10日） （19人中12人参加、出席率 63.2 %）</li> </ul> <p>日当宿泊費に係る規定の説明 村落観光開発の対象地域の選定経緯と活動方針の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アルギン・ジョーナでの活動である一定レベルの目に見える成果が確認できるまで、WG としての活動は当面休止する事で合意</li> </ul>
VP WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Arginjona Keble からの代表者候補の選定</li> <li>・ メンバー構成の再検討（副リーダーの配置とメンバーの交代、追加）（8月）</li> <li>・ WG ミーティングの開催（9月15日）（15人中10人参加、出席率 66.7 %）</li> </ul> <p>リーダー・副リーダーの配置及びメンバーの交代・追加 今後の活動計画の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG ミーティングの開催（10月9日、10日） （15人中12人参加、出席率 80.0%）</li> </ul> <p>日当宿泊費に係る規定の説明 村落観光開発の対象地域の選定経緯と活動方針の説明 アルギン・ジョーナでの活動である一定レベルの目に見える成果が確認できるまで、WG としての活動は当面休止する事で合意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 村落観光プログラム準備訓練の実施（9月から3月までの継続実施） （アルギン・ジョーナの CTMA メンバー12名、コアメンバー22名が参加）</li> <li>・ コミュニティ・ツーリズム先進地への視察（メケット）の実施（3月） （アルギン・ジョーナの CTMA メンバー9名、コアメンバー9名が参加）</li> </ul>
TO WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG ミーティングの開催（7月16日）（18人中11人参加、出席率 61.1 %）</li> <li>・ メンバー構成の変更（副リーダーの配置とメンバーの交代、追加）（7月）</li> <li>・ WG 設置・活動目的の再確認と年間活動計画（案）の作成（7月）</li> <li>・ ガイド協会訓練の実施（7月・8月）（WG メンバー18人中2人参加）</li> <li>・ コック協会調理実技訓練の実施（7月・8月） （WG メンバー18人中2人参加）</li> <li>・ WG ミーティングの開催（10月11日）（18人中10人参加、出席率 55.6 %）</li> </ul> <p>ガイド協会訓練とコック協会調理実技訓練の結果報告と評価 今後の活動の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ WG ミーティングの開催（11月12日）（18人中8人参加、出席率 44.4 %）</li> </ul> <p>持続的な資源管理と来訪者管理に係る講義 アルギン・ジョーナにおける村落観光プログラムの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ TO との意見交換会の開催（12月） （WG メンバー18人中2人参加）</li> <li>・ WG ミーティングの開催（1月29日）（18人中11人参加、出席率 61.1 %）</li> </ul> <p>12月実施の「TO との意見交換会」のフォローアップ 第2年次の活動のレビューと評価 第3年次以降の活動に係る意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ・ツーリズム先進地への視察（メケット）の実施（3月） （WG メンバー18人中7人参加）</li> </ul>

WG	主な活動内容
HR WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティ・ツーリズム先進地（Bahir Dar と Lalibela）への視察（6月） （WGメンバー10人中5人参加）</li> <li>・ WGミーティングの開催（7月16日）（15人中9人参加、出席率60.0%）</li> <li>・ メンバー構成の再検討（副リーダーの配置とメンバーの交代、追加）（7月）</li> <li>・ WG設置・活動目的の再確認と年間活動計画（案）の作成（7月）</li> <li>・ コック協会調理実技訓練の実施（7月・8月） （WGメンバーからの参加はなし）</li> <li>・ WGミーティングの開催（8月12日）（15人中13人参加、出席率86.7%）</li> <li>・ 研修実施計画の確認と年間活動計画の承認（8月）</li> <li>・ ホテル・レストラン従業員のための技能訓練実施（9月） （WGメンバーからの参加はなし）</li> <li>・ TOとの意見交換会の開催（12月） （WGメンバー15人中1人参加）</li> <li>・ WGミーティングの開催（1月29日）（14人中7人参加、出席率50.0%）</li> </ul> <p>12月実施の「TOとの意見交換会」のフォローアップ 第2年次の活動のレビューと評価 第3年次以降の活動に係る意見交換</p>

注）WGメンバーは各協会やホテル、レストランの代表者などで構成されており、多くの研修・セミナーは、WGメンバーに限らず、WGメンバー以外のそれら組織所属者を対象にしている。一方で、WGメンバー自身が対象に含まれない研修・セミナーもある。

2年次以降、各種研修を進めるにあたり、VPWGはCTMAに集約されていき、TOWGおよびHRWGは各協会に対する個別の研修実施支援へと細分化されてきた。そのため、WGという形式そのものに対する意義は薄れ、個別に協議・技術移転を実施するという形をとることになった。

## 2.6 本邦研修の実施

これまでに合計5回の本邦研修を実施した。

各回の概要は下記の通りである。

### (1) 第1回（2012年1月29日～2月11日）

#### A. 研修の目的

第1回本邦研修は、2012年1月29日から2月11日まで実施された。研修の目的は、下記の通りであった。

- ・ 日本の国立公園の管理及びコミュニティ・ツーリズム開発に対する理解を深める。
- ・ エチオピアの官民協働によるコミュニティ・ツーリズム開発に必要なエチオピア関係者の能力を向上させる。

具体的には研修員が以下の5点を実施できるような能力を身につける。

- ・ 複数の行政機関が連携して国立公園での観光振興を進めることができる。
- ・ エコツーリズムの理念およびエコミュージアム型観光開発の仕組みを理解し、説明できる。

- 効果的な観光マーケティング、プロモーションを理解し、プロジェクト活動として推進できる。
- 地域の生活文化資源を活用した観光を理解し、プロジェクト活動として推進できる。

## B. 研修参加者

研修参加者は、下記の通りであった。

- デバルク文化観光事務所長 Mr. Yirdaw
- バイエダ文化観光事務所長 Mr. Tesfaye
- ジャナモラ文化観光事務所長 Mr. Yusufu
- EWCA シミエン公園事務所 コミュニティ担当 Mr. Sisay
- EWCA 北部保護区域コーディネータ Mr. Zeleka

## C. 研修の成果

研修生による成果は、下記の通りである。

### ①日本の国立公園の管理に対する理解の向上

講義や体験学習を通して、日本の国立公園政策の仕組みやそれを取り巻く日本国民の観光動態への理解を深めることができた。多岐にわたる分野から講師が訪れたことにより、国家政策の展開の実情を把握し、エコツーリズムの実際内容、エコミュージアムによる国立公園の利活用、マーケティングの必要性などを効果的に学ぶことができた。

### ②コミュニティ・ツーリズム開発に対する理解の向上

講義を通して、コミュニティ・ツーリズムの歴史的・世界的潮流や日本を含めた世界各国の多様な事例について学び、コミュニティ・ツーリズムに対する理解を深めることができた。さらに講義の質疑応答や演習を通して自国へどのように活用できるかを十分に検討できた。

### ③コミュニティ・ツーリズム開発に必要なエチオピア関係者の能力の向上

講義を通してツーリズム開発のプロセスやマーケティングを学び、その後演習や発表を通して研修で得た知見を活かしたアクションプランを作成することができた。

帰国後は、2月18日に開催された“SIMCOT Kickoff Meeting (拡大版 PCC ミーティング)”において、研修生の1人であるEWCA 北部保護区コーディネータが代表して研修の成果を発表した。発表内容は、屋久島における研修の成果を中心に、日本における公園管理やコミュニティ・ツーリズムの考え方と展開手法について、しっかりとまとめられたものとなっており、理念と考え方に関する技術移転が進んだと言える。さらに、写真や図表を多用するプレゼンテーションは、ミーティング参加者にも研修の様子や学んだことが伝わりやすいものとなっており、プレゼンテーション技術に関する技術移転も進んだと言える。

## (2) 第2回（2012年6月12日～6月27日）

### A. 研修の目的

日本における観光開発の先進事例から、下記の項目に関する考え方や知識、技術を修得すること。（【 】内は、関連するプロジェクト成果）

- コミュニティ・ツーリズムの考え方及び推進手法 【成果1】
- 観光マーケティング、商品開発及びプロモーション手法 【成果2】
- 自然公園の保護、管理と活用手法 【成果3,4】
- エコミュージアム開発及び展開手法 【成果3,4】
- 遺産と地域住民との関係構築に関する国際的な議論 【成果3,4】
- SIMCOT 観光圏管理開発プランの考え方 【成果4】
- 観光施策による観光産業の振興手法 【成果4】

上記【 】内成果1～4は、PDMで合意したプロジェクト成果を指す。

具体的には、研修員が下記の5点を実施できるような能力を身につけることである。

- ① 行政職員として観光による地域づくりを的確に支援できる。
- ② 複数の行政機関が民間組織と連携して国立公園の観光振興を進めることができる。
- ③ エコツーリズムの理念及びエコミュージアム型観光開発の仕組みを理解し、それらをいかしたコミュニティ・ツーリズムについて説明できる。
- ④ 効果的な観光マーケティング、プロモーション手法を理解し、それを自国内で推進できる。
- ⑤ 地域の生活文化資源を活用した観光を理解し、それを自国内で推進できる。

### B. 研修参加者

研修参加者は、下記の通りであった。

- アムハラ州文化観光副局長 Mr. Berhanu
- 北部ゴンダール・ゾーン文化観光副局長 Mr. Asnakaw
- EWCA シミエン公園事務所長 Mr. Sisay

### C. 研修の成果

研修で得られた成果については、下記の通りである。

#### 【成果1】：組織間の連携強化に関する成果

講義及び現地視察を通して、日本で展開されるコミュニティ・ツーリズムにおける官民の協力体制について学ぶことができた。特に平取においては、自治体と地域のアイヌ民族文化振興団体とが連携してコミュニティ・ツーリズムを推進しており、講義と実際のツアー体験を通して資源開発手法、ツアー組み立て手法、ホスピタリティ等について多くのことを学ぶことができた。

また、アムハラ州文化観光公園開発局、北部ゴンダール・ゾーン文化観光事務所、EWCA シミエン公園事務所といった組織からそれぞれ参加していた研修員のなかでも、協議しながら価値観を共有することにより、組織間の協力体制が高まった。

**【成果2】：マーケティング・プロモーションに関する成果**

講義を通して、「地域マーケティング」の考え方を学ぶことができた。まず、マーケティングの基礎知識として、マーケティングとはプロセスであり、PDCA サイクルに則って繰り返し行われるものであること、またプロモーションは、マーケティング・プロセスの一部であり、マーケティング分析に基づく戦略に則って行われなければ効果的なものになり得ないことを学んだ。

地域マーケティングにおいては、地域に既存の資源を組み合わせ、地域の人々によってそれが紹介されることにより、地域の「ホンモノ」を見せることが重要であることを学んだ。さらに、国内外の地域マーケティング組織の事例を知ることができた。

**【成果3】：観光商品開発に関する成果**

SIMCOT プロジェクトの対象地域において続けられてきた伝統的な暮らしとアイヌ文化との類似性から、研修員らにとってありふれている暮らしそのものが観光資源となり得ることが改めて認識された。

また、技巧を凝らせたものでなくとも、地元の人々によって心がつくされた素朴なおもてなしが、外国からやって来た人々に深い感動を与えることがあるということを身をもって体験することができた。

知床におけるエコツアーや関連講義により、ガイドによるインタープリテーションの大切さを学ぶことができた。

**【成果4】：観光圏管理開発プラン策定に関する成果**

関連講義及び実際の協議を通して、観光圏管理開発プランの「基本計画」の骨格を作成することができた。

**(3) 第3回（2013年8月9日～8月13日）**

**A. 研修の目的**

研修の目的は、日本における観光開発の先進事例を通じて、下記の項目に関する考え方や知識、技術を修得することである。（【 】内は、関連するプロジェクト成果）

- 観光収入を原資とするヘリテージ・ファンド推進手法 【成果1,4】
- 世界遺産登録に伴う道路整備がもたらす観光のインパクト 【成果1,4】
- コミュニティ・ツーリズムの考え方及び推進手法 【成果1】
- 観光マーケティング、商品開発及びプロモーション手法 【成果2】
- 自然公園の保護、管理と活用手法 【成果3,4】
- エコミュージアム開発及び展開手法 【成果3,4】



- SIMCOT 観光圏管理開発プランの考え方 【成果 4】

## B. 研修参加者

研修参加者は、下記の通りであった。

- EWCA 長官 Mr. Ewnetu
- アムハラ州文化観光副局長 Mr. Berhanu
- 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局長 Mr. Kassie
- EWCA シミエン公園事務副所長 Mr. Abebaw
- EWCA シミエン公園事務所観光担当 Mr. Azanaw

## C. 研修の成果

研修の最大の成果は、EWCA 長官による、財団設立の決意表明である。

EWCA 長官および ANRS-BCTPD 局長代理を中心とする協議を通して、研修生ら全員で作成した行動計画では、組織立ち上げと運営までのステップが記載された。

また、C.W.ニコル氏との面談では、45 年前の公園や地域住民の様子などについてヒアリングうすることができた。公園の回復計画をたてるため、C/P らがニコル氏のシミエン来訪を依頼したところ、快諾頂いた。

### (4) 第 4 回 (2014 年 8 月 14 日～8 月 24 日)

#### A. 研修の目的

研修の目的は、研修の目的は、日本における DMO、CBT、NGO による森林保全の先進事例を視察し、本プロジェクトが目指す DMO、CBT、NGO による森林保全の在り方を改めて理解することであった。

#### B. 研修参加者

研修参加者は、下記の通りであった。

- 文化観光省国務大臣 Ms. Tadelech
- EWCA 長官 Mr. Dawud
- EWCA 長官アドバイザー Mr. Fanuel
- ANRS-BCTPD 局長 Mr. Alebel
- EWCA シミエン公園事務所長 Mr. Maru

#### C. 研修の成果

本研修の成果は、国務大臣をはじめとする参加者が、日本における CBT の取り組みについて理解したことにあると言える。都市部の開発から取り残された山間部の農村地帯で、

他の集落がダムの底に沈んでいくなか、住民が集落の自然や文化的環境をいかした CBT によって村おこしをした経緯が良く理解された。

DMO については、官と民の役割分担について協議することができた。エチオピア政府は、強い責任感のもと、政府が策定したポリシーは全て政府自身の実施しなければならないと感じていることが良く分かるものの、ポリシーメーカーとしての官と、それを官民協働の枠組みにおいて実施する民間団体という大きな構造を理解できるように努めた。

アフアの森財団においては、C.W.ニコル氏より森林再生のための具体策（集落民が放牧地として利用している公園内の土地のうちの一部を、EWCA と集落民の合意のもとで森林再生のための土地をと定め、その土地をフェンスで囲い、その場所をスカウトが警備しつつ、管理する）が下記の通り提案された。また、EWCA 長官から任命書が手渡され、ニコル氏が正式にシミエン国立公園の親善大使に任命された。

## (5) 第 5 回 (2016 年 1 月 12 日～1 月 24 日)

### A. 研修の目的

研修の目的は、日本におけるコミュニティ・ベースド・ツーリズムを基底とする DMO 運営について学ぶこと、そして、下記の項目に関する考え方や知識、技術を修得することであった。（【 】内は、関連するプロジェクト成果）

- DMO (NGO) の運営の考え方及び推進手法【成果 1】
- 観光収入を原資とするヘリテージ・ファンド推進手法【成果 1, 4】
- SIMCOT 観光圏管理開発プランの考え方【成果 4】

### B. 研修参加者

研修参加者は、下記の通りであった。

- アムハラ州文化観光局長 Mr. Awoke
- エチオピア野生保護局 PR/インフォメーション局長 Mr. Zerihun
- エチオピア野生保護局コミュニティ参加局長 Ms. Genet
- アムハラ州環境、森林、野生動物局・野生生物研究、保護、活用プロセスオーナー Mr. Belste
- 北部ゴンダール・ゾーン文化観光局 局長 Ms. Birtukan
- デバルク・ワレダ郡長 Mr. Belete
- SIMCOT-CA 秘書・会計 Ms. Hiwot
- SIMCOT-CA プロモーション・オフィサー Ms. Birtukan
- エチオピア野生保護局 親善大使 Ms. Tadesse

### C. 研修の成果

研修の成果は、先進的な DMO（信州いいやま観光局）および財団運営を通じた遺産保全（世界遺産白川郷合掌造り保存財団）の事例を通じて、日本における官民協働による観

光開発および遺産保全について理解することができたことである。また、こうしたモデルを直接エチオピアに導入することはできないものの、達成するための課題が整理され、帰国後の行動計画がたてられたことである。

## 2.7 成果 1（組織）に関する成果

### 2.7.1 SIMCOT-CA の設立

#### (1) 1 年次の活動

前述の通り、1 年次は、ワーク・プランに従って PCC および WG を設立し、それらのメンバーに対する技術移転を通じて能力強化をはかり、CBT 開発および遺産保全をすすめていくことを想定していた。

#### (2) 2 年次の活動

2 年次に入り、プロジェクト活動継続について現地の状況を見極めながら検討するにあたり、C/P 機関のみによる継続ではなく、外部組織を設立し、その組織が C/P 組織と連携することによりプロジェクト活動を継続していくことが検討され始めた。

それらの検討内容を下記に記述する。

#### A. C/P 機関によるプロジェクト活動継続の困難性

2 年次に、本格的に活動をすすめるなかで、C/P 機関によるプロジェクト活動の持続性に様々な困難が生じることが明確になった。

そのなかには、既に指摘しているものも多く、例えば、Simien Mountains National Park General Management Plan（以下、GMP）においては、公園内の資源の保護のためには、

- 公園事務所の組織と人員のキャパシティの不足
- コミュニティのメンバーやスカウトも含めた関係者との認識の相違
- それらを改善するフレームワークの欠如
- 実行に移すための資金と人員の不足

などの課題が示されるが、公園事務所の課題の根底にあるのが資金不足であり、様々な資金援助の機会を探る必要があることを指摘している。これらの課題に対して、改善するための方策としては、まずスタッフと組織のキャパシティの強化として、公園事務所の組織体系の見直し、スタッフの研修とインセンティブの導入があげられている。国立公園および世界遺産を管理する公園事務所は、条約や国内法、世界遺産の管理計画で定められた事項を遵守し、公園が指定された目的や重要性を担保している資源の保全を行い、地域コミュニティと連携をはかりながら、観光利用や地域の伝統的な経済活動による影響とのバランスをとることが求められる。そのためには、GMP において指摘されているような上記の課題を認識した上で、それぞれの Action を実践する努力が必要である。ただし、他の事

項も含めて膨大なこれらの事項を、予算も人員も限られている現状の公園事務所で実践することは難しい。

デバルク文化観光事務所についても、ガイドやホテルなどの資格付与手続きを基本業務としており、資金・機材不足から、遠方のフィールドで CBT 開発を実施することは困難である。

## B. SIMCOT-MF 設立の意義

本プロジェクトでは、（プロモーションを含む）マーケティング関連活動、ビレッジ・ツアー開発、コミュニティ・ツーリズム関連組織の能力強化を支援しているものの、プロジェクト開始前の想定を超える対象地の広域性およびインフラ施設の未整備による現段階での観光開発支援効果の低さから、研修実施や観光商品開発といった直接的支援の対象は限られている。プロジェクト期間中、C/P に対する技術移転が行われ、C/P の能力が向上したとしても、前述の通り、ワレダレベルの C/P 機関に割り当てられる予算額やマンパワー、職員の異動などから、上記の支援がプロジェクト終了後に持続される可能性は極めて低いといえる。また、マーケティング分野の課題として指摘されている、定期的な旅行者動向調査や市場調査の実施と定量的なデータ分析に基づくマーケティング戦略策定、更にはその戦略に基づいた具体的なプロモーション活動の実施等を継続的に行っていくためには、地元においてこれら一連のマーケティング・プロセスに基づく活動を自律的に行う主体が求められる。

プロジェクトでは、SIMCOT-MDP のなかで、上記のような支援の継続を可能とし、さらには継続的なマーケティング活動や商品開発を通じて代替生業としてのコミュニティ・ツーリズムを機能させることによって公園の自然環境に対する脅威の逓減を可能とする枠組みを示し、JCC および PCC の開催における説明や個別の面談を通して、それぞれの会議メンバーに提案してきた。

具体的にはデバルクとシミエン国立公園の様々な観光運営組織がユニオンを結成し、基金を管理するデスティネーション・マーケティング・オーガニゼーション (Destination Marketing Organization: DMO) としてのシミエン・コミュニティ・ツーリズム・マネジメント財団 (Simien Community Tourism Management Foundation : SIMCOT- MF (当時の仮称。後の Simien Mountains Community Tourism Charity Association: SIMCOT-CA) ) を立ち上げ、自立したファンドを運営しながら、その傘下で各観光運営組織が有機的な連携をとりながらコミュニティ・ツーリズムを展開することを提案した。このような組織が必要になる主な理由は、現状の連邦政府、州、自治体の予算およびマンパワーでは公園管理およびコミュニティ・ツーリズム開発の推進が困難である状況から、「観光を通じて予算を確保するための組織」が必要と考えたためである。公園管理とコミュニティ開発という公の目的を掲げつつ、マーケティング分析やツアーオペレーションによる観光収益を得ることができると考えた。

## C. 財源

財団の収入源としては、下記を提案した。

#### a. 遺産協力金

現在の公園入園料は、世界の世界自然遺産登録公園と比較しても極めて低いといえる。このため、現在 EWCA によって設定されている全国共通の入園料に加え、使途（自然環境保全と貧困削減）を明確にした上で遺産協力金として旅行者から一定の金額を徴収する。

#### b. ツアーオペレーションからの収益

SIMCOT-MF によるツアーオペレーションからの収益。パッケージツアーの販売により、財団にとっては収益を上げやすく、旅行者にとっては予約や支払いが簡便な仕組みをつくる。このほか一部のプロモーション・マテリアルの販売による収益も財団の財源として位置づける。

#### c. 寄付金

国内外のドナーに対し、財団の目的や活動計画を明確に説明し、寄付金の獲得を試みる。

### D. 組織構成

財団の構成を、以下のように提案した。

財団は主に① 公園管理を主目的とした部門、② シミエン観光圏への誘客を目的としたマーケティング活動を行う部門、の2つの部門から構成される。

現在の WG を構成する既存のアソシエーションは、将来的にはこの財団の部会（構成組織）となることを想定している（図 2.2 参照）。

また、プロジェクトがシミエン国立公園内において現在優先して支援しているアルギン・ジョーナ・カバレの CTMA は、既存の様々なアソシエーションとともにこの財団の構成員となり、将来的にはシミエン国立公園内に農地・放牧地を有する各カバレに CTMA が設置されることを想定している（図 2.2 参照）。この場合、各 CTMA は独立した事業体（アソシエーション）であると同時に、この連合体（ユニオン）の一員として財団運営にあたることを期待している。これにより統合的予約システム等の整備、政府や自治体、ドナー等への発言力強化、環境保全や観光客へのハラスメント等共通課題への効果的対処等の効果を期待できる。CTMA の考え方については、2.9.2 で後述する。

なお、マーケティング活動については、① 特定の地域や事業者の利益ではなく観光圏全体の利益を追求するという意味での公益性、② 全体最適の視点から観光圏を構成する各地域に対してそれぞれ異なる機能や役割、マーケティング戦略を付与できる大局的視点や客観性、が求められることから、財団専任のスタッフが担うことが望ましいと考えられる。

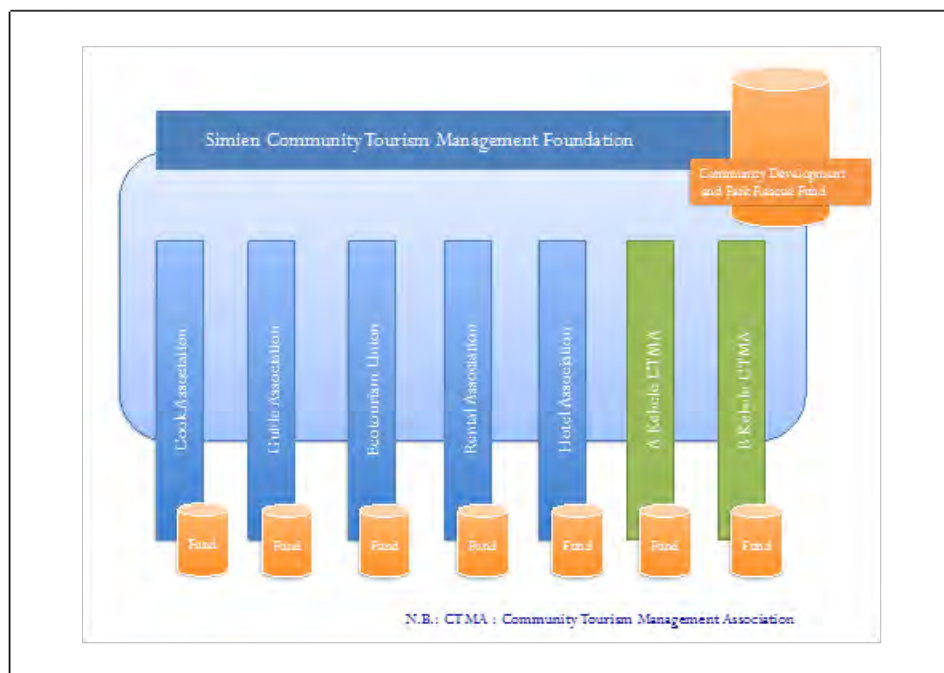


図 2.2 シミエン・コミュニティ・ツーリズム・マネジメント財団の構成イメージ

### (3) 3年次の活動

#### A. C/P との協議

3年次開始以降、SIMCOT-MF 設立の意義と組織の概要について、下記のメンバーを対象に説明を重ねた。

- 文化観光省ムルゲタ国務大臣
- EWCA 長官をはじめとする EWCA マネージャーら
- ANRS-BCTPD 文化観光局長代理
- 北部ゴンドール・ゾーン文化観光局長
- PCC メンバー
- TOWG メンバー

どのメンバーからも、設立の意義と必要性について理解が得られた。ただし、EWCA からは、現状の法制度及び EWCA の規定の枠組みで実現できることを確認することが必要であり、それさえ確認されれば、設立に向けて具体的な手続きをすすめたいとの意見が出されて、プロジェクトメンバー全体でもそれについて同意見である。EWCA マネージャーらのイニシアティブにより、EWCA の法律部長へ調査が依頼された結果、“cooperative”であれば、既存の法制度や EWCA の規定との抵触がなく、設立の手続きも比較的簡単であることが確認された。しかし、立ち上げる組織の形態によって管轄する省庁や法律が異なり、専門が異なる分野の法制を 1 人の法律家が把握することは困難であるため、EWCA 長官からは、コンサルタントへの再委託調査によってダブルチェックすることが求められた。こ

れを受け、2014年12月より、SIMCOT-MF 設立のための Deloitte による再委託調査を開始した。関係省庁、プロジェクト C/P およびデバルクの観光関連組織に対するヒアリングおよび資料収集から、“non-business organization” のなかの “Charitable Society” という組織形態が推薦されている。主な理由は、1) Charitable Society という枠組み自体の設立が、自然環境の保全を目的としている点、2) 民間と行政の共同出資が可能のため、運営においても PPP を実現することが可能である点、3) 規定に定められている組織構造が、柔軟性を有しつつも、堅実なモニタリングの実施を可能にする点であった。

その後、2014年6月に実施されたプロジェクトの終了時評価において、SIMCOT-MF が設立されなかった場合の代替メカニズムについて指摘を受けた。

これに対して、2014年8月に実施された本邦研修における議論を通じて、国務大臣も交えて内容の具体化を試みた。議論の最大の焦点は SIMCOT-MF の代替システムについてであったが、「SIMCOT プロジェクトの活動は、GTP における主要テーマでもある CBT を推進するものである。この活動の継続を実現する SIMCOT-MF の設立については、代替システムを検討するよりも、設立自体が最優先事項であるものとして取り組むべきである」という結論に至り、また国務大臣からも「2015年6月までに閣議決定を済ませる」との発言もあり、C/P からの強い意気込みが示された。一方で、SIMCOT-MF が設立されない場合は、C/P 組織が下表に示す通りの役割を担うことにより、SIMCOT-MF が担う予定の活動の一部を推進することが本邦研修参加者である C/P 高官およびチーフ・ワーデンによって合意された。

表 2.4 C/P 組織の役割分担

Activity	Responsible Body
Tourist data collection	EWCA
Tourist data analysis	EWCA
Promotion through Facebook	EWCA and ANRS-BCTPD
Tour arrangement of village tour	EWCA
Village tour development (trainings and cooperative establishment) in different villages	ANRS-BCTPD
Cultural trails development in Janamora, Adi Arkay, Telemt and Bayeda	ANRS-BCTPD

EWCA 内で SIMCOT-MF 設立について検討する協議会が設立され、2014年10月に、SIMCOT-MF の設立はシミエン国立公園周辺コミュニティの生計向上に寄与するため推奨するとの結論が出された。これを受け、2014年11月28日、EWCA 長官 Mr. Dawud、ANRS-BCTPD 局長 Mr. Alebel、プロジェクト副総括八百板、プロジェクトローカルコンサルタント Mr. Berhanu が協議し、EWCA が遺産協力金に関する新しい公布 (proclamation) の策定と閣僚会議における承認に対して責任を負うことが確約された。ただし、関係者間での協議が必要になるため、その会議費はプロジェクトから支出することに合意した。また、同会議において、主にエチオピア側からの判断で、下記のメンバーが取締役に就任することが決められた。

- Mr. Kassie Berihun, Head of North Gondar Culture and Tourism: Chairman
- Mr. Maru Biadgign, Warden of SMNPark: Deputy Chairman
- Mr. Yirdaw Sisay, Head of Debark Woreda Culture and Tourism: Secretary
- Mr. Yenesew Alene, Department Head of tourism department of Gondar University: Member
- Mr. Hunelegn Belay, Mayer of Debark Town: Member
- Mr. Belete Tilaye, Administrator of Debark Woreda: Member
- Ms. Kiho Yaoita, Chief Advisor, JICA/SIMCOT project: Member

## B. 他ドナーとの協議

他のドナーに対しても SIMCOT-MF について説明し、支援協力を要請した。UNDP GEF (Global Environment Facility) のナショナル・コーディネーターとの面談では、組織が立ち上がった後であれば、支援の可能性は充分にあるとのことであった。ただ、組織が設立されるまでのシードマネーについては、協力できないとのことであった。

AWF (African Wildlife Foundation) との面談では、立ち上げ前からの支援を視野に入れて情報交換をしていきたいとのことであった。

### (4) 4年次の活動

#### A. SIMCOT-CA の設立

2015年6月10日、SIMCOT-MF が正式に登録された。正式な登録名称は”Simien Mountains Community Tourism Charity Association”で、登録番号は”3448”である。また、取締役は、下記の通りに定められた。

表 2.5 SIMCOT-CA 取締役会メンバー

No	氏名	役職
1	Mr. Kassie Berihun, Head of North Gondar Culture and Tourism	Board Chairman
2	Mr. Maru Biadgign, Warden of SMNP	Deputy Board Chairman
3	Mr. Yirdaw Sisay, Head of Debark Woreda Culture and Tourism	Board Secretary
4	Mr. Yenesew Alene, Department Head of tourism department of Gondar University	Board Member
5	Mr. Hunelegn Belay, Mayer of Debark Town	Board Member
6	Mr. Belete Tilaye, Administrator of Debark Woreda	Board Member
7	Dr. Kiho Yaoita, Chief Advisor, JICA/SIMCOT project	Board Member

事務局長 (Executive director) は Mr. Berhanu、秘書は Ms. Hiwot として登録されている。また、下図の通りのロゴを作成し、登録した。





図 2.3 SIMCOT-CA ロゴ

## B. 遺産協力金にかかる協議

遺産協力金は、エチオピアが、ドナーに依存、あるいはコントロールされることなく、独自の財源として運用、コントロールできるものとして提案されている。政府機関が観光客から徴収するお金はすべて国庫に入ってしまうため、政府機関が主体になって遺産協力金を徴収することはできない。一方で、NGO である SIMCOT-CA がこれを徴収するためには新たな公布 (proclamation) の発布が閣議決定される必要があり、第 4 回本邦研修で国務大臣が約束し、さらに、2014 年 11 月の会議で EWCA 長官が責任をもって提案、承認を得ると約束したものの、現実的には簡単ではなく、時間がかかる。最短でこのシステムを取り入れることができる策としては、SIMCOT-CA が寄付としてこれを受け取るというものである。

EWCA 敷地内で遺産協力金を徴収するために大きな制度変更が必要であることから、長期的には制度面での改善に向けて動きつつ、短期的には TO らと協力し、ツアー代金に上乗せするかたちで徴収したものを SIMCOT-CA が寄付として受け取るというかたちをとることがプロジェクト側から提案された。

前述の通り、EWCA 長官は 2014 年の末までは本件に関して前向きな発言をしてきており、SIMCOT-CA の正式な登録をもって公布の草案の作成作業に入るとも発言していたが、SIMCOT-CA 設立後、2015 年 7 月の JCC 会議においては、遺産協力金にかかる協議は一切受け付けず、TO らとの協議推進も拒否した。その後 2015 年 10 月に入ってから協議で、状況が変わらなければ SIMCOT-CA は存続できないことを改めてプロジェクト側が説明し、TO らとの協議開始について合意が得られた。

TO には、遺産協力金の用途を説明し、CBT 開発だけでなく、トイレや水道などの簡易な観光インフラ整備や、新たなトレッキングルートの整備など、TO らに直接利益がもたらされるような内容についても説明したところ、ツアー料金の値上がりに対する反発があるのではないかと懸念に反して概ね合意が得られた。ただし、ここでの問題は、TO らが遺産協力金として上乗せし、SIMCOT-CA に寄付として渡す金額は、TO らの収益とみなされ、税金がかかるというものである。MoFES の担当官と協議したところ、検討の余地はあるとのことであったが、EWCA からの正式なレターによる要請が必要とのことであった。これについて EWCA 長官に諮ったところ、拒否された。現在、政府は NGO 全般を支

援しないという方針を持っており、1つの NGO のために制度を変えるようなことはできないということが理由と考えられる。プロジェクトとしては、税金分を引いた金額を TO から受け取る、あるいは、ブローチャーを SIMCOT-CA がビジネスライセンスのもとで「販売」し、それを「活動費」に宛てるということを代替案として検討している。ブローチャーを販売する場合は、収入に対する所得税を SIMCOT-CA が負担することになり、さらに、そこから得られた資金は運営費 (Administration cost) には使えないことになる。また、TO からは、何らかの形で政府から遺産協力金の徴収を義務づけてほしいとの要望があった。そうすることによって、全 TO が平等に貢献し、また、その結果価値が向上したシミエンの環境を享受することができるためという理由に加え、単純に忙しいため、義務でなければ忘れてしまうという理由も多く挙げられた。

### C. 国内における NGO のイメージ

国務大臣や C/P、TO との協議を通じて分かったことは、エチオピア国内では一般的に NGO に対するイメージが非常に悪く、特に資金の管理に対して疑念を持っているということである。これに対して、SIMCOT-CA が独立して運営されるものではなく、官民協働のもとで、外郭団体のようなかたちで政府と一体的に活動するものであることを、改めて EWCA 長官、ANRS-BoCT 局長、MoCT 大臣等に明確に説明し、認識してもらう必要がある。

### D. イントロダクトリー・ワークショップ

2015年11月25日に SIMCOT-CA の設立と役割、意義などをプロジェクト関係者のみならず広く一般に広報するため、イントロダクトリー・ワークショップを開催した。参加団体は 68 団体で、その構成は、プレジデントオフィス、大使館、国際 NGO、大臣、EWCA 各部局などであった。Ethiopian Broad Casting (EBC) でも 2 回放送され、エチオピア国内における広報という意味でも一定程度の効果が得られた。

### E. チャリティー・コンサート実施支援

前述の SIMCOT-CA イントロダクトリー・ワークショップに参加した EWCA 親善大使で歌手の Chachi Tadesse の協力を得て、2016年1月24日に SIMCOT-CA の資金獲得を目的とするチャリティー・コンサートを開催した。同イントロダクトリー・ワークショップの後、Chachi 氏が SIMCOT-CA スタッフおよびプロジェクト日本人専門家との懇談会を企画したことを切っ掛けに親睦が深まり、その後プロジェクト側からチャリティー・コンサートについて提案したところ、実施することが決まった。

GIZ 等のドナーや現地の民間企業などを含む 137 名が参加し、入場料と寄付金を合わせた収益は 317,000 ETB (約 1,90,200 円) であった。この収益が SIMCOT-CA の運営資金になる。

## (5) 今後の課題

SIMCOT-CA の継続については、下記の課題が残されている。

### A. 官民協働 (PPP) についての C/P の理解促進

前述の通り、SIMCOT-CA は、政府と一体になって目的を達成していく組織であることを C/P 側に認識してもらう必要がある。これについては、本邦研修内でもう一度理解を深める。

### B. 遺産協力金の徴収について

長期的には制度改革を視野に入れた協議が必要であり、短期的には TO らとの協力による遺産協力金システムの導入が必要である。TO らとの協力についても、政府側からのサポートが必須である。

あるいは、緊急的手段として、遺産協力金の徴収が可能になるまでの期間、SIMCOT-CA のスタッフを SIMCOT-CA のスタッフとしてではなく、政府職員として EWCA あるいは ANRS-BoCT で雇用するという考えも考え得る。

活動の継続のために考え得る方策と、必要なサポートについて下記に記した。

短期的対策：

- TO を通じて SIMCOT-CA が遺産協力金を徴収する際に、所得税分を引いた額のみ TO から SIMCOT-CA に渡す。
- SIMCOT-CA がビジネスライセンス (TO ライセンスとは異なる) を取得、ブローチャーを販売し、その収益を「活動費」として利用する。
- SIMCOT-CA によるオフィススペースの継続的利用、機材の利用など、政府による即物的な支援を実施する。

中期的対策：

- 政府組織内の協議により、TO を通じて SIMCOT-CA が遺産協力金を徴収する際に、TO からの「寄付金」を税金の対象外とする。
- TO を通じて SIMCOT-CA が遺産協力金を徴収することを、政府側の措置で強制的な制度とする。

長期的対策：

- 政府側が新しいプロクラメーションを策定し、SIMCOT-CA に遺産協力金徴収の権限を付与することで遺産協力金制度を導入する。

## C. プロジェクト期間終了後のオフィススペースと機材の使用について

プロジェクト期間終了後も、SIMCOT-CA はオフィススペースおよび機材を使用する必要があるため、それらの継続的使用について EWCA および ANRS-BoCT と協議する必要がある（これについては、2月下旬開催予定のJCCにて協議する）。

## D. SIMCOT-CA による TO ライセンスの取得について

SIMCOT-CA が正式にビレッジ・ツアー販売窓口になるためには、TO のライセンスを取得する必要がある。TO のライセンスを取得するための主な条件は下記の通りである。SIMCOT-CA にとっての最大の課題は車輛の確保であり、今後のファンドレイジングや企業からの寄付などを通じて車輛を確保する必要がある。

- ビジネスライセンスの取得
- ミニバス、中型バス、大型バスあるいは 4WD に該当する車輛 3 台（ただし、これは交渉により 1 台）
- 観光関連の学校から学位、修了証書などを取得している職員がいる
- オフィスが設置されている
- 12 名がツアーに参加できるような機材（テント、寝袋、調理道具など）が揃っている

### 2.7.2 研修及びセミナーの実施

#### (1) 1 年次の活動

1 年次においては、2 年次以降、各 WG の課題解決や能力強化のための研修を行うことを前提に、以下の 4 つの WG が関係者の合意により設立された。

- ツアーオペレーション WG (TOWG)
- ホテル・レストラン WG (HRWG)
- 村落商品 WG (VPWG)
- 自然・社会環境 WG (NSEWG)

#### (2) 2 年次の活動

2 年次に実施した研修及びセミナーの概要を以下に示す。2 年次では、主に各 WG 及び CTMA のメンバーを対象とした研修及びセミナーを実施した。各研修・セミナー実施後は、参加者に対し、研修の内容は適切であったか、新たな知識・技術を習得できたか、習得した知識・技術を今後活用できるか等各評価項目を 5 段階で評価するアンケートを実施し、各研修・セミナーの評価を行った。以下に各研修の詳細を述べる。なお、TO との意見交換会については、後述の成果 2（マーケティング・プロモーション）にて述べる。村落観光プログラム準備訓練については、成果 3（観光商品）にて述べる。

表 2.6 2年次の研修及びセミナー実施概要

研修・セミナー	対象者／参加人数	実施日／ 実施期間	研修内容・結果
観光キャンペーン	NSE WG メンバー、 地元住民・小学生、 等約 100 人	2012 年 6 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境保全や SIMCOT 村落観光アプローチの啓発。</li> <li>環境保全をテーマにした小学生による演劇、クイズ、詩の朗読等。</li> </ul>
コミュニティ・ツーリズム先進地への視察 (バハルダール・ラリベラ)	HR WG メンバー5 人 を含むホテル・レストランのマネージャー等 15 人	2012 年 6 月 11 日 ～18 日 (8 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテル協会があるバハルダールとラリベラの視察。</li> <li>視察後に関係者間で協議を重ね、デバルクホテル協会を設立することを決定。</li> </ul>
ガイド協会訓練	TO WG メンバー2 人 を含むガイド協会メンバー53 人	2012 年 7 月 23 日 ～8 月 3 日 (12 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地質、地理、動植物、文化、歴史等に係る知識の習得。</li> <li>観光客の安全確保やガイド技術の向上。</li> </ul>
コック協会 調理実技訓練	TO WG メンバー2 名 を含むコック協会メンバー38 人	2012 年 7 月 23 日 ～8 月 7 日 (16 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存メニューの質の向上やシミエン地域食材を活用した料理の提供に向けた様々な調理法の習得。</li> </ul>
コミュニティ・ツーリズム先進地への視察 (メケット)	アルギン・ジョーナの CTMA メンバー9 名、コアメンバー9 名及び TO WG メンバー7 名を含む計 33 名	2013 年 3 月 4 日 ～8 日 (5 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>先進地メケットの視察を通じたコミュニティ・ツーリズムや官民連携、地域マーケティングの習得。</li> <li>シミエンで目指す観光像等に係る共通認識の形成。</li> </ul>
TO との意見交換会	TO WG メンバー2 名、HR WG メンバー1 名、C/P 4 名の計 7 名	2012 年 12 月 11 日 (1 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>TO の視点に基づく、観光地としてのシミエンの現状把握及び改善点等の明確化。</li> <li>TO との連携強化。</li> </ul>
ホテル・レストラン従業員のための技能訓練	ホテル・レストラン従業員 41 人	2012 年 9 月 15 日 ～29 日 (15 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>接客の基礎と各種技能の習得。</li> <li>ホテル、レストランにおけるサービスレベルの向上。</li> </ul>
村落観光プログラム準備訓練	アルギン・ジョーナの CTMA メンバー12 名、コアメンバー22 名	2012 年 9 月から 2013 年 3 月までの 継続実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>村落観光体験プログラムのシナリオ作成と実技訓練。</li> <li>サテライトセンターの建設準用地選定と建設。</li> <li>観光プログラム運営体制構築に向けた訓練。</li> </ul>
GIS 訓練	C/P4 名を含む計 9 名	2013 年 2 月 23 日 ～3 月 4 日 (10 日間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIS の基礎とソフトウェア操作方法の習得。</li> <li>GIS データの加工と地図作成 (観光資源やトレッキングルート等)。</li> </ul>

## A. 環境キャンペーン

このキャンペーンは EWCA 公園事務所の承認のもと、プロジェクトとワレダ環境事務所が共同で準備を進め、世界環境デー（2012 年 6 月 5 日）の直近の日曜日にアンバラスカバレで開催された。現地の NSE WG メンバー及び、地元住民、小学生等を対象とし、シミエン国立公園の環境保全やプロジェクトの村落観光のアプローチについて啓発を行った。

文化観光事務所のアザナウ氏が、プロジェクトで準備した村落観光ポリシー（観光を通じた資源回復モデル）を元にそのアプローチを説明し、シミエンの自然に育まれた村落の暮らしそのものが観光資源であることが説明された。また、小学生による環境演劇なども行われた。



イルドゥ氏の開会あいさつ



アザナウ氏の SIMCOT 説明

## B. コミュニティ・ツーリズム先進地への視察

本研修は HRWG メンバーを対象とし、観光地であり、またホテル協会があるバハルダールとラリベラを訪問した。現地では、各ホテル協会からの聞き取りや、現地ホテルのファシリティやサービスについて視察を行った。本研修後に関係者間で協議を重ねた結果、デバルクホテル協会設立への取り組みへつながった。

## C. ガイド協会訓練

本研修は、ゴンダール大学にて、ガイドとして必要な地質、地理、動植物、文化、歴史等に係る知識の習得及び観光客の安全確保やガイド技術の向上を目的として、12 日間の日程で実施された。

ガイド協会訓練の参加者に対して実施したアンケートの結果の一部を下表に整理する。両表中の質問項目に対して 5 段階で評価したものであり、5 段階評価で評価が高い回答を 5 点、評価の低い回答を 1 点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

参加者 53 人に対し、有効回答数はそれぞれ 35 から 40 で、参加者から高い評価を得る結果となった。「研修全体の評価」は 4.1 点であり、「研修への期待に対する満足度」では同じく 4.0 点であった。また、「今後の SIMCOT の活動への関心」も 4.4 点と高い関心が示された。

表 2.7 研修アンケート結果（ガイド訓練）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
研修全体の 評価	適当 ←————→				不适当	40	4.1
	11 (27.5%)	23 (57.5%)	5 (12.5%)	0 (0.0%)	1 (2.5%)		
新しい知識や 技能の習得	習得できた ←————→				習得できなかった	39	4.2
	13 (33.3%)	20 (51.3%)	5 (12.8%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)		
今後の活動で の習得内容の 活用	活用できる ←————→				活用できない	39	4.3
	12 (30.8%)	25 (64.1%)	2 (5.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
研修への期待 に対する満足 度	満足 ←————→				不満足	38	4.0
	10 (26.3%)	20 (52.6%)	7 (18.4%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)		
今後の研修へ の参加意向	興味あり ←————→				興味なし	37	4.7
	27 (73.0%)	8 (21.6%)	2 (5.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
今後の SIMCOT の活 動への関心	興味あり ←————→				興味なし	35	4.4
	17 (48.6%)	16 (45.7%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)		

\* 5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

#### D. コック協会訓練

本研修は、既存メニューの質の向上やシミエン地域食材を活用した料理の提供に向けた様々な調理法の習得を目的とし、講義及び調理実技の2つの形式で実施された。コック協会実技訓練の参加者に対して実施したアンケートの結果の一部を下表に整理する。参加者38人に対し、有効回答数は22から23で参加者から高い評価を得る結果となった。「研修全体の評価」は4.9点であり、「研修への期待に対する満足度」では3.9点となっていた。また、「今後のSIMCOTの活動への関心」も5.0点であり、高い関心が示されていた。

表 2.8 研修アンケート結果（コック訓練）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	点数*
研修全体の 評価	適当 ←————→				不适当	23	4.9
	21 (91.3%)	2 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
新しい知識や 技能の習得	習得できた ←————→				習得できなかった	23	4.2
	13 (56.5%)	2 (8.7%)	8 (34.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
今後の活動で の習得内容の 活用	活用できる ←————→				活用できない	23	5.0
	23 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
研修への期待 に対する満足 度	満足 ←————→				不満足	22	3.9
	4 (18.2%)	14 (63.6%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	1 (4.5%)		
今後の研修へ の参加意向	興味あり ←————→				興味なし	22	4.0
	6 (27.3%)	11 (50.0%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
今後の SIMCOT の活 動への関心	興味あり ←————→				興味なし	22	5.0
	22 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		

\* 5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

### E. ホテル・レストラン従業員のための技能訓練

デバルクにおけるホテル及びレストランの従業員を対象とし、ホテルでのベッドメイキングや清掃方法、観光客に対する接客方法等のサービスレベルを向上させることを目的とした。研修は、講義と実技の両形式で実施された。参加者に対して実施したアンケートの結果の一部を下表に整理する。従業員技能訓練のアンケート調査は2択になっており、全ての回答者が訓練を通じて能力が向上し、また訓練目標が達成したと回答した。

表 2.9 研修アンケート結果（従業員技能訓練）

質問項目	回答数とその割合		有効回答数
訓練を通じた 能力向上	向上した	向上せず	33
	33 (100.0%)	0 (0.0%)	
今後の業務への 活用	活用可能	活用不可	33
	33 (100.0%)	0 (0.0%)	
訓練目標の達成	達成した	達成せず	33
	33 (100.0%)	0 (0.0%)	



## F. GIS 訓練

本研修は、今後公園内でのトレッキングルートの開発や観光資源調査に必要となる GIS の基礎とソフトウェア操作方法の習得を目的として実施された。同時に数台の PC が必要であったことから、ゴンドール大学にて実施した。初めて GIS を扱う参加者がほとんどであったため、研修期間についてはやや短いと感じた参加者もあったが、研修全体としては 4.1 と高い評価を得られた。また、ほとんどの参加者が新たな知識と技術を習得し、今後の活動に活かしていけると回答した。

表 2.10 研修アンケート結果 (GIS 訓練)

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
	不适当		适当				
研修全体の 評価	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.1%)	6 (12.8%)	2 (4.3%)	9	4.1
新たな知 識と技術 の習得	習得できなかった		習得できた			9	4.1
	1 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (8.7%)	4 (8.7%)		
今後の活 動での習 得内容の 活用	活用できない		活用できる			9	3.9
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	8 (18.2%)	0 (0.0%)		
研修期間 適性度	不适当		适当			9	3.2
	1 (2.4%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	4 (9.8%)	1 (2.4%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

### (3) 3年次における研修・セミナー

3年次に実施した研修及びセミナーの概要を以下に示す。3年次では、主に C/P 及び CTMA のメンバーを対象とした研修及びセミナーを実施した。各研修・セミナー実施後は、参加者に対し、2年次と同様にアンケートを実施し、各研修・セミナーの評価を行った。なお、商談会、旅行博出展については、後述の成果 2 (マーケティング・プロモーション) にて述べる。

表 2.11 3年次の研修及びセミナー実施概要

研修・セミナー	対象者/参加者	実施日/ 実施期間	研修・セミナー内容と 結果
CTMA・コアメンバー・ビレッジ・ガイド研修			
観光基礎知識	CTMA メンバー、コアメンバー、ビレッジ・ガイド41人	2013年7月8日 ～7月11日（4日間）	コミュニティ・ツーリズムに関する基本的な考え方の習得。
公衆衛生研修	CTMA メンバー、コアメンバー、ビレッジ・ガイド計60人	Ambarass:2014年 10月1日～6日 （6日間） Argin:2014年10 月8日～16日 （内6日間）	公衆衛生に関する知識の習得。
コミュニティ・ツーリズム先進地への視察（メケット）	CTMA メンバー、コアメンバー、ビレッジ・ガイド、関係機関オフィサー、C/P34人	2013年7月11日 ～7月15日 （5日間）	コミュニティ・ツーリズムを展開している地区を訪問し、関係者とも意見交換をするなかで、良い事例の内容と背景を参加者が理解する。
商談会（4回）	C/P、WG 代表5人	2013年8月20日 （1日間）	アディスアベバ、ゴンダールの TO との意見交換、及びビレッジツアーの紹介等プロモーションの実施。
	C/P、TOWG 代表7人	2014年2月6日 （1日間）	
	C/P5人、TOWG 代表1人	2014年5月22日 （1日間）	
	C/P5人	2014年5月26日 （1日間）	
旅行博出展 （INDABA2回、 WTM1回）	C/P2人	2013年5月11日 ～5月15日 （5日間）	他の事例の視察及び実際のプロモーション活動の実施。
	C/P2人	2013年11月2日 ～8日 （7日間）	
	C/P1人	2014年5月8日 ～12日 （5日間）	
観光関連組織強化訓練	各アソシエーション代表者及びCTMA 代表22人	2013年7月26～8月2日、2013年8月4,5日、8月17,18日（10日間）	各アソシエーション及びCTMA の組織運営を強化するためにマネジメントに関する知識を習得。各組織のビジネスプランを作成。

研修・セミナー	対象者/参加者	実施日/ 実施期間	研修・セミナー内容と 結果
スカウト研修	スカウト及びツーリストセーフガード 66 人	2013 年 8 月 27～ 29 日、9 月 2～4 日 (6 日間)	ファーストエイドに関する基本的な知識と技術の習得。公園内におけるスカウトの役割及び SIMCOT の活動に関する知識の習得。
ガイド協会訓練	ガイド協会メンバー、 C/P 計 51 人	2014 年 6 月 20 日 ～7 月 1 日 (12 日 間)	エチオピア国内国立公園のガイドのガイド技術を視察、さらに各ガイドアソシエーションの活動や運営方法、現地住民との協力関係、政府機関との協力関係、観光資源保全への貢献活動についての知見を得る。
ホテル・レストラン幹部のためのマネジメント改善訓練	ホテル・レストランマネージャー、デバルク・タウン文化観光スポーツ事務所オフィサー計 26 人	2014 年 10 月 13 日～2014 年 10 月 17 日 (5 日間)	労務、施設、顧客、予約、財務等に関する訓練を行うことによる業務能力向上。
マーケティング・プロモーション研修	C/P13 人	2014 年 5 月 16 日 ～19 日 (4 日間)	公園入園者等のデータ分析技術の習得、及び分析結果に基づいたプロモーション方法の習得。

#### A. CTMA・コアメンバー・ビレッジ・ガイド研修（観光の基礎知識）

CTMA メンバーの能力強化の一環として、CTMA11 名、コアメンバー19 名、7 月初旬に選出されたビレッジ・ガイド 2 名、Waliya 土産物アソシエーション 8 名、Zelaki 土産物販売アソシエーション代表 1 名の計 41 名を対象に、コミュニティ・ツーリズムの基礎的知識に関する研修を、EWCA シミエン公園事務所の会議室において 7 月 8 日（月）～10 日（水）の 3 日間で実施した。

本研修は、ゴンダール大学の社会学および観光学講師により、以下の研修プログラムに基づき、講義とディスカッション、ロールプレイにより行われた。

表 2.12 研修プログラム（観光の基礎知識）

日程	講義内容	参加者	講師（専門）
7月8日（月） 午前	1) 社会学基礎（社会、文化、社会制度）	41	Mr. Molalign（社会学）
7月8日（月） 午後	2) 観光およびコミュニティ・ツーリズムの基礎	41	Mr. Yeniesew（観光学）
7月9日（火） 午前	3) 自然資源の保護と管理	41	Mr. Asfaw（地理学）
7月9日（火） 午後	4) ビジネス管理と起業家精神	41	Mr. Tazebachew（マーケティング）
7月10日（水）	5) ライフスキルの基礎と経験共有	41	Mr. Molalign（社会学） Mr. Taebachew（マーケティング）

本研修については、今後、新たな地域で展開する場合の CTMA やコアメンバーに対する研修にも利用できるように、英語とアムハラ語の講義資料を作成した。また、研修参加者に対しては、アムハラ語の講義資料を配布し、本研修で学んだ知識や内容について、自ら復習できるように配慮した。

研修の前後で実施した参加者のアンケート調査結果の一部を以下に示す。

表 2.13 事前アンケート結果（観光の基礎知識）

質問項目	回答数とその割合					有効回答数	平均点数*
	理解していない				理解している		
プロジェクトの理解	0	1	6	2	23	32	4.5
	(0.0%)	(3.1%)	(18.8%)	(6.3%)	(71.9%)		
コミュニティ・ツーリズムの概念の理解	0	1	3	8	19	31	4.5
	(0.0%)	(3.2%)	(9.7%)	(25.8%)	(61.3%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

事前アンケート結果によると、プロジェクトの理解度は、「理解している」が約 72%、「やや理解している」と合わせると、全体の 80%が理解している状況にあった。

また、コミュニティ・ツーリズムの概念についての理解度は、「理解している」が約 60%、「やや理解している」が約 25%であった（表 2.13 参照）。研修終了後に実施したアンケート結果によると、97%が研修全体を評価するとともに、コミュニティ・ツーリズムの概念を「理解している」と回答しており、本研修で参加者の理解が深まったことが明らかとなった（表 2.14 参照）。

事後評価アンケートでは、新しい知識やアイデアの習得、今後の活動における習得した内容の活用、コミュニティや組織のニーズへの適合は 97%以上、また将来の活動への参加意欲やコミュニティ内での習得内容の共有についても、90%を超えており、高い評価となった。

表 2.14 研修事後評価アンケート結果（観光の基礎知識）

質問項目	回答数とその割合					有効回答数	平均点数*
	不適当				適当		
研修全体の評価	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	40 (97.6%)	41	5.0
コミュニティ・ツーリズムのコンセプトの理解	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	40 (97.6%)	41	5.0
新しい知識やアイデアの習得	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	37 (97.4%)	38	4.9
今後の活動での習得内容の活用	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	37 (97.4%)	38	4.9
コミュニティや組織のニーズへの適合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	35 (100.0%)	35	5.0
実施時期の適性度	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.3%)	36 (94.7%)	38	4.9
研修期間の適性度	1 (2.6%)	1 (2.6%)	3 (7.9%)	0 (0.0%)	33 (86.8%)	38	4.7
将来のプロジェクト活動への参加意欲	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)	0 (0.0%)	34 (97.1%)	35	4.9
コミュニティでの習得内容の共有	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.7%)	0 (0.0%)	33 (94.3%)	35	4.9

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

## B. CTMA・コアメンバー・ビレッジ・ガイド研修（公衆衛生研修）

プロジェクトで、現在優先して支援しているアルギン・ジョーナ・カバレでは、村落観光商品として村の生活を紹介するビレッジ・ツアーを開発し、本格的に販売を開始したところである。3月末に文化観光省大臣とEWCA長官がアルギン・サブカバレを訪れ、トライアルのビレッジ・ツアーを体験した時のコメントや5月末に実施したファムトリップの際のTOのコメントでは、村の食文化を紹介するプログラムにおける衛生面の改善が指摘されていた。さらに、TOに加え、C/P関係者の間でも、観光客が集落を訪れた時のトイレの確保が問題となっていた。今後、本格的にこの地域を訪れる観光商品の中にビレッジ・ツアーを組み込んでもらうためには、集落と各住居の衛生面の改善を図るとともに、サテライトセンター周辺のトイレの確保が必要となる。

このような状況を踏まえ、プロジェクトでは、アルギン・ジョーナ・カバレのビレッジ・ツアー関係者を対象として、公衆衛生面の改善を目的とした研修を行った。

本研修は、ビレッジ・ツアーを行う関係者を中心に、アンバラス（キフロ・サブカバレ、ダバ・サブカバレ）とアルギンでそれぞれ5日間の講義と1日間の先進地視察のプログラムを実施した。研修プログラムの構成については、デバルク・ワレダの保健事務所にご相談し、2人のオフィサーが講師となって、プログラムとアムハラ語の資料を作成した。研修は、講義形式、ディスカッション、現場での実技研修、先進地視察を実施、主な内容と日程は以下の通りである。

参加者：アンバラス 30 名

Village tour facilitator 1 名、Village Guide 6 名、Demonstrator 16 名、Kebele 保健担  
当 1 名、他 6 名

アルギン 30 名

Village Guide 5 名、Demonstrator 18 名、Cooperative control committee 1 名、  
他 6 名

講師：デバルク・ワレダ保健事務所 臨床看護・環境担当オフィサー (Melkamu Alene)

デバルク・ワレダ保健事務所 臨床看護・普及啓発オフィサー (Adisu Merse)

オブザーバー：EWCA 公園事務所、デバルク・ワレダ文化観光事務所

表 2.15 研修プログラム（公衆衛生研修）

	主な研修項目	日程／アンバラス	日程／アルギン
1 <sup>st</sup> day	イントロダクション (EWCA,C&T) ビレッジ・ツアーとの関連について 公衆衛生関係の規則、基準について 廃棄物、汚物、汚水の処理について	10月1日(水) 9:00~15:15 参加者：25名	10月8日(水) 9:00~15:15 参加者：31名
2 <sup>nd</sup> day	安全で衛生的な水の供給について 水に関連する健康問題について 家の中での水の管理について	10月2日(木) 9:00~14:00 参加者：30名	10月9日(木) 9:00~14:00 参加者：30名
3 <sup>rd</sup> day	家畜や犬の管理について 狂犬病の管理について	10月3日(金) 9:00~14:30 参加者：31名	10月10日(金) 9:00~14:30 参加者：30名
4 <sup>th</sup> day	健康的な家の作り方について 家の中での健康問題について	10月4日(土) 9:00~14:00 参加者：29名	10月11日(土) 9:00~14:00 参加者：29名
5 <sup>th</sup> day	料理器具と家具の管理について デモンストレーターの家での現地研修	10月5日(日) 9:00~14:00 参加者：30名	10月13日(月) 9:00~14:00 参加者：30名
6 <sup>th</sup> day	先進地視察 (Dip Bahir) ラップアップ・ワークショップ	10月6日(月) 11:00~17:00 参加者：28名	10月16日(木) 11:00~17:00 参加者：30名

研修の参加状況を見ると、アンバラスとアルギンでは若干の違いが見られた。アルギンでは、研修の日程全てにほぼ全員が参加していたのに対して、アンバラスでは、遅刻や欠席が目立った。

研修後の取り組み状況についても、アルギン、アンバラスの両コミュニティで若干の差が見られた。どちらも雨で傷んでいたサテライトセンターの壁の補修に加え、サテライトセンター周辺にトイレ用の穴を掘りはじめていた。しかしながら、その後の取り組み状況を見ると、アルギンでは、多くの関係者が参加して、トイレを少しずつ完成に向けて作業を進めているのに対し、アンバラス側は、最初の作業後は、あまり進捗していない状況であった。研修に参加したデモンストレーターの家の中には、壁の補修や竈の設置、屋外にトイレやごみ処理用の穴を設置するところもいくつか見られた。また、アルギン側のデモ

ンストラクターの一人は、ビレッジ・ツアーでプログラムを実施するには家が小さいということから、家を改築しビレッジ・ツアーの受け入れ体制を整える人も出てきた。

これまでのビレッジ・ツアーのトレーニングに加え、今回の公衆衛生研修における現地での実施研修や先進地視察の効果により、それぞれのコミュニティにおいて、より積極的に活動に取り組むようになった。

本研修は、食文化を紹介するビレッジ・ツアーを実施するための環境整備を目的として、プロジェクトが企画し、デバルク・ワレダ保健事務所のオフィサーを講師として実施したものであった。しかしながら、担当した保健事務所オフィサーは、今回の研修をきっかけとして、独自に研修効果のフォローアップを行っていくことを計画しており、保健事務所との協力関係の構築に加え、積極的な関与を促したという点で、インパクトのある研修となった。



住宅内のかまど (Dip Bahir)



トイレ (Dip Bahir)



設置作業中のトイレ (Argin)

### C. コミュニティ・ツーリズム先進地への視察（メケット）

2013年3月の第1回に引き続き、コミュニティ・ツーリズム先進地であるメケット視察の第2回を7月12日から14日の2泊3日の日程で実施した。この視察では、実際の現場を訪ねコミュニティ・ツアーを体験するとともに、それぞれの組織や立場におけるコミュニティ・ツーリズム実施体制づくり、運営に関わる基本的考え方や問題点について、直接

ヒアリングすることにより理解を深め、関係者全体の意識向上を図ることを目的とするものである。

研修参加者は、アルギン・ジョーナの CTMA から 4 名、コアメンバーから 11 名、7 月初旬に選出されたビレッジ・ガイドから 2 名、Waliya 土産物アソシエーションから 1 名、デバルク協同組合事務所から 1 名、デバルク・ワレダ長およびワレダ職員 2 名、デバルク農業局から 2 名、アルギン・ジョーナ・カバレ関係者 5 名、コソイエのコミュニティ代表者 2 名、レイ・アマルチョウ・ワレダ (Lay Armachew Woreda) 文化観光局の専門家 1 名、C/P 機関のデバルク文化観光局 2 名と EWCA 公園事務所から 1 名の総勢 34 名であった。

事前ワークショップを開催し、アルギン・ジョーナからの第 1 回視察参加者によるフィードバックを行うとともに、今回の参加者全員を 3 グループに分けて、リーダーと書記を選出、グループ内で視察の目的と期待する成果や情報収集すべきテーマを明らかにして視察に望んだ。

12 日はグループ別にコミュニティ・ツアーの宿泊施設に宿泊、翌 13 日はランチ施設を視察した。コミュニティ・ツアーの各施設では、実際に活動しているコミュニティの関係者との意見交換を行うとともに、ワレダの関係機関へヒアリングを行うことにより、実際の活動に関する話が直接聞ける機会を設けた。

今回の視察先および主なスケジュールは以下のとおりである。

表 2.16 研修プログラム (メケット視察)

日程	活動	内容	参加者	場所
2013 年 7 月 11 日 (火)	事前ワークショップ	メケット CBT の紹介 グループワーク (目的、 チェックリスト作成)	28	デバルク公園事務所
7 月 12 日 (水)	移動 (メケット) 村落観光施設宿泊 (Yedekulay, Boya, Ayenamba)	現地視察 各コミュニティの運営委員 へのヒアリング	31	デバルク→ メケット
7 月 13 日 (木)	ランチ施設視察 (Warkaye, Meskel, Kertan Washa) フラキット泊	ランチ視察の視察と関係 者へのヒアリング Wareda 関係者へのヒア リング	31	メケット→ フラキット (メケット・ワレ ダ)
7 月 14 日 (金)	移動		31	フラキット→ ゴンダール、コソイ エ、デバルク
7 月 15 日 (土)	事後評価ワークショップ	グループ別レポート作成 発表	28	デバルク公園事務所

視察終了後は、事後評価のワークショップを開催し、各グループによるレポートを作成し、成果の共有を図った。

また、視察の実施前と実施後に参加者に対して実施したアンケートの結果は以下の通りである。



表 2.17 研修事前アンケート結果（メケット視察）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
<b>第1回</b>							
プロジェクトの理解	理解していない				理解している	22	4.0
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (27.3%)	10 (45.5%)	6 (27.3%)		
コミュニティ・ツーリズムのコンセプトの理解	理解していない				理解している	22	3.9
	1 (4.5%)	0 (0.0%)	7 (31.8%)	7 (31.8%)	7 (31.8%)		
<b>第2回</b>							
プロジェクトの理解	理解していない				理解している	24	4.5
	0 (0.0%)	1 (4.2%)	5 (20.8%)	0 (0.0%)	18 (75.0%)		
コミュニティ・ツーリズムのコンセプトの理解	理解していない				理解している	24	4.7
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (12.5%)	2 (8.3%)	19 (79.2%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

事前アンケート結果によると、2013年3月初旬に実施した第1回と今回の第2回との間の約4か月間で、プロジェクトおよびコミュニティ・ツーリズムのコンセプトについては、理解が進んでいることがわかった。（表 2.18 参照）

また、第2回の参加者には、CTMA およびコアメンバー以外に、新たに選出されたビレッジ・ガイド2名、Waliya 土産物アソシエーション1名、カバレ関係者5名が含まれている。これまでのトレーニングを受けていない新たな参加者が増えた状況の中で、プロジェクトとコミュニティ・ツーリズムに関する理解が進んでいるという点を考えると、村全体においてもある程度、理解が浸透しはじめたと言える。

表 2.18 研修事後アンケート結果（第1回、第2回の総計）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
研修全体の評価	不適當				適當	41	4.7
	0 (0.0%)	1 (2.4%)	3 (7.3%)	3 (7.3%)	34 (82.9%)		
研修目的の理解	理解できなかった				理解した	40	4.7
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (10.0%)	3 (7.5%)	33 (82.5%)		
コミュニティ・ツーリズムのコンセプトの理解	理解できなかった				理解した	37	4.8
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.4%)	2 (5.4%)	33 (89.2%)		
今後の活動での習得内容の活用	活用できない				活用できる	38	4.9
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	0 (0.0%)	37 (97.4%)		
コミュニティや組織のニーズへの適合	合っていない				合っている	38	4.9
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.6%)	2 (5.3%)	35 (92.1%)		
実施時期の適性度	不適當				適當	34	4.3
	3 (8.8%)	2 (5.9%)	3 (8.8%)	0 (0.0%)	26 (76.5%)		
研修期間の適性度	不適當				適當	28	3.9
	1 (3.6%)	2 (7.1%)	10 (35.7%)	0 (0.0%)	15 (53.6%)		
将来のプロジェクト活動への参加意欲	関心なし				関心あり	30	4.8
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)	27 (90.0%)		
コミュニティでの習得内容の共有	実施しない				実施する	29	4.8
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.3%)	1 (3.4%)	25 (86.2%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

視察後のアンケート結果を見ると、90%を超える参加者が本プログラムを評価しており、コミュニティ・ツーリズムのコンセプトをはじめ、視察で習得した内容についても理解している。また、将来の参加意欲やコミュニティ内での習得内容の共有についても、ほぼ90%が積極的であることがわかる。

このメケット視察は、3月と合わせて今回が2回目の実施となる。第1回の視察では、ウナニヤのコミュニティ代表者2名が参加し、この視察で習得した情報をもとに、レイ・アマルチョウ・ワレダの文化観光局および協同組合事務所と協力して、視察参加から2か月後の5月中旬には、正式なコミュニティ・ツーリズム協同組合の設立に至っている。

この組織は3つのカバレが含まれており、4つのサブ-アソシエーション（エコツーリズム、ビレッジ・ガイド、フード・プレパレーション、土産物）から構成されている。設立時のメンバー数は63名で、各メンバーが30ETBずつを出資し、組織は8名のマネジメント委員会（コミュニティ・ロッジの管理者4名を含む）により運営される。この地域では、以前からオーストリア開発庁（ADC）の支援により6つのコミュニティ・ロッジが整備されている。また、この他、観光ガイド10名（当初は7名）がカバレにより選出されている。

ウナニヤにおけるコミュニティ・ツーリズム協同組合の正式な設立は、本プロジェクトのモデル・コミュニティであるアルギン・ジョーナのCTMAの正式な登録に大いに参考となった。

#### D. 観光関連組織強化訓練

デバルクにおける観光関連組織は、2002年以降デバルク文化観光事務所の管轄、主導で組織化され、2013年現在ガイド協会、コック協会、エコツーリズム連合組合、レンタル協会、タウンセキュリティ協会、車両レンタル協会の6つの協会が活動している。これ以外で、ホテル協会の設立が2012年に合意され、現在登記手続き中である。現在活動中の6つの協会は、将来的にはSIMCOT-MFの構成メンバーとなることを想定しているため、これらの組織の運営強化はSIMCOT-MFの財源確保また組織の持続性にとって重要である。しかしながら、公的機関の主導で組織化してきた背景から、これらの協会に組織としての具体的な目標がなく、各協会の持続性についての脆弱さが露呈された。そのため、各協会が毎年活動目標を定めそれに沿った活動実施を目的に、デバルクのマイクロファイナンス事務所から講師を招聘し、下記内容及び日程で「観光関連組織強化訓練」を実施した。尚、SIMCOT-MFの重要な構成メンバーとなるCTMA代表もビジネスプラン作成に関する基礎講義の対象とした。

##### a) 研修内容及び実施日程

- ビジネスプラン作成に関する基礎講義：2013年7月26日～7月28日
- ビジネスプラン作成演習
  - エコツーリズム連合組合：2013年7月29日～7月30日
  - レンタル協会：2013年7月31日～8月1日
  - タウンセキュリティ協会：2013年8月1日～8月2日

- コック協会：2013年8月4日～8月5日
- ガイド協会：2013年8月17日～18日
- 車両レンタル協会：基礎講義内で作成された。

b) 研修対象者

- 講義：観光関連組織 6 つの協会の会長、副会長及び財務担当（各計 3 人）及び CTMA リーダー、副リーダー、会計、秘書（計 4 人）
- 演習：各協会の会長、副会長及び財務担当（各計 3 人）

下記表に示すように、各協会のエチオピアの会計年度（2013年7月～2014年6月）における活動目標が設定された。

**表 2.19 各協会の活動目標**

協会名	売上総利益 (ETB)	一般管理費 (ETB)	営業利益 (ETB)
ガイド協会	179,120.02	60,890.00	118,230.02
コック協会	195,584.50	8,250.00	187,334.50
エコツーリズム連合	2,978,692.00	674,980.00	2,303,712.00
レンタル協会	726,703.80	4,700.00	722,003.80
レンタカー協会	140,474.50	30,000.00	110,474.50
タウンセキュリティ	89,700.00	2,800.00	86,900.00

尚、次表に研修生からの事後アンケート結果を記す。

表 2.20 研修アンケート結果（観光関連組織強化訓練）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
研修全体の評価	不適當	0	0	0	4	11	4.6
	適當	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(36.4%)		
					<b>(63.6%)</b>		
新しい知識や技能の習得	習得できなかった	0	0	0	4	11	4.6
	習得できた	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(36.4%)		
					<b>(63.6%)</b>		
今後の活動での習得内容の活用	活用できない	0	0	0	3	10	4.7
	活用できる	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(30.0%)		
					<b>(70.0%)</b>		
研修プログラム目的の適性	不適當	0	0	0	5	11	4.5
	適當	0	0	0	6		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(45.5%)		
					<b>(54.5%)</b>		
研修プログラム時間の適性	不適當	0	0	0	3	11	4.7
	適當	0	0	0	8		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(27.3%)		
					<b>(72.7%)</b>		
研修プログラム講師の評価	悪い	0	0	0	2	11	4.8
	良い	0	0	0	9		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(18.2%)		
					<b>(81.8%)</b>		
研修教材の適性	不適當	0	0	1	2	10	4.6
	適當	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(10.0%)	(20.0%)		
					<b>(70.0%)</b>		
研修機材の適性	不適當	0	0	0	2	9	4.8
	適當	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(22.2%)		
					<b>(77.8%)</b>		
研修実施設備の適性	不適當	0	0	0	2	9	4.8
	適當	0	0	0	7		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(22.2%)		
					<b>(77.8%)</b>		
研修マネジメントの評価	不適當	0	0	0	5	10	4.5
	適當	0	0	0	5		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(50.0%)		
					<b>(50.0%)</b>		
研修コーディネーターの評価	不適當	0	0	0	3	9	4.7
	適當	0	0	0	6		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(33.3%)		
					<b>(66.7%)</b>		
研修への期待に対する満足度	不満足	0	0	0	1	10	4.9
	満足	0	0	0	9		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(10.0%)		
					<b>(90.0%)</b>		
今後の研修への参加意向	関心なし	0	0	1	3	10	4.5
	関心あり	0	0	0	6		
		(0.0%)	(0.0%)	(10.0%)	(30.0%)		
					<b>(60.0%)</b>		
プロジェクト活動への興味	関心なし	0	0	0	3	11	4.7
	関心あり	0	0	0	8		
		(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(27.3%)		
					<b>(72.7%)</b>		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

「研修全体の評価」について、4.6点、全項目において4.5点以上と高い評価となった。これまで具体的に見えてこなかった組織としての活動が具体化したために、高い満足度となったと推察される。研修講師もデバルク出身者でデバルクの事情をよく理解しており、各協会の活動内容や協会の教育レベルに合わせた説明も功を奏した。さらに講義終了後、研修生から、各協会の代表者を一堂に集めて研修を実施し、ケーススタディとして車両レンタル協会のビジネスプラン作成について、各協会活動の枠組みを超えてアイデアを出し

合い協議できたことが有意義であったとのコメントが寄せられた。またその協議を通して明らかになった課題を話し合う「観光協議会」を立ち上げてはどうかというコメントが出たことは、本来の研修目的以上の効果が挙げられたと考える。



講義風景



講習終了後

## E. スカウト研修

当初スカウトに対する研修の実施予定はなかったものの、カウンターパートと協議を行う中で、ファーストエイドに関しては、公園内で観光客に同伴するスカウトにとっても有意義な研修であると判断したため今回の研修実施に至った。

研修対象者は公園内で活動するスカウト及びツーリストセーフガードの計 66 名とし、2 グループに分けて 8 月 27 日～29 日、9 月 1 日～3 日の各 3 日間にて実施した。

研修は 2 つの内容から成り、1.ファーストエイドに関する基礎的な知識と技術、2.観光に関する基礎知識である。1.については、ゴンダール大学から講師を招聘し講義及び実際にファーストエイドキットを使用しての実技訓練を行った。2.については、EWCA 公園事務所のカウンターパートにより、観光、特にコミュニティ・ツーリズムに関して、また当プロジェクトの活動説明、そしてスカウトの公園内での役割について講義が行われた。

参加者に対して研修終了後に実施したアンケートの結果の一部を表 2.21 に整理する。

スカウト研修の参加者 66 名に対し、有効回答数は 41～48、研修の評価としては概ね高い評価を得る結果となった。研修期間については、不適當（期間が短い）という意見が半数を占めている。実施期間や研修内容については、カウンターパート及び研修講師との協議において妥当であると判断されていたものの、今後スカウトに対して研修を行う場合においては、この研修での参加者からの意見を踏まえ、今回の研修で不足した部分を補足することが考えられる。これまでスカウト全員に対しては、当プロジェクトの目的や活動内容に関する説明を行う機会がなかったが、カウンターパート自身が講師となって彼らに説明を行った結果、プロジェクト活動への関心が高まったと言える。また、今回初めて観光とは何か、観光客へどう接するべきか等の知識を得、シミエン観光におけるサービスプロバイダーとしての自らの役割を再認識したことにより、今後公園内における活動へ本研修の成果が活かされ、観光客からの満足度向上が期待できる。

表 2.21 研修アンケート結果（スカウト研修）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
研修全体の評価	不適當				適當	47	4.3
	0 (0.0%)	10 (21.3%)	1 (2.1%)	3 (6.4%)	33 (70.2%)		
研修目的の理解	理解できなかった				理解した	48	4.8
	0 (0.0%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	5 (10.4%)	42 (87.5%)		
ファーストエイドにおける知識と技術の習得	習得できなかった				習得できた	46	4.8
	1 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (6.5%)	42 (91.3%)		
自然保護、コミュニティ・ツーリズムへの理解	理解できなかった				理解した	46	4.5
	1 (2.2%)	5 (10.9%)	1 (2.2%)	4 (8.7%)	35 (76.1%)		
安全管理と観光客への接し方についての理解	理解できなかった				理解した	44	4.7
	2 (4.5%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	3 (6.8%)	38 (86.4%)		
今後の活動での習得内容の活用	活用できない				活用できる	44	4.9
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.3%)	1 (2.3%)	42 (95.5%)		
研修内容、講師への満足度	不満足				満足	44	4.7
	0 (0.0%)	4 (9.1%)	0 (0.0%)	3 (6.8%)	37 (84.1%)		
研修期間適性度	不適當				適當	41	3.0
	11 (26.8%)	11 (26.8%)	2 (4.9%)	1 (2.4%)	16 (39.0%)		
今後の研修への参加意欲	関心なし				関心あり	46	4.9
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (10.9%)	41 (89.1%)		
今後のSIMCOTの活動への関心	関心なし				関心あり	45	5.0
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	45 (100.0%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

## F. ガイド協会訓練

本研修は、ガイド協会としての組織のマネジメント方法や、現地の文化観光事務所などの政府組織、現地コミュニティとの協力体制や、観光資源保全への寄与について新たな知見を得ることで、今後のガイド協会の在り方や活動に活かすことを目的とした。2014年6月20日～7月1日（12日間）の日程で、主に Bale National Park、Awash National Park、Lalibela を視察した。各地域のガイドのガイド技術を視察するとともに、各ガイド協会や現地政府関係者から組織間連携などについて聞き取りを行った。各視察地が遠方であるため、長時間の移動が多かったものの無事12日間の日程を終えた。

参加者に対して、研修終了後に実施したアンケート結果の一部を表 2.22 に整理する。研修参加者 51 名（ガイド協会メンバー46名、C/P5名）に対し、有効回答数は41～47、研修全体の評価としては、概ね高い評価を得る結果となった。

表 2.22 研修アンケート結果（ガイド研修）

質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
研修全体の評価	不適当				適当	47	4.1
	0 (0.0%)	2 (4.3%)	4 (8.5%)	28 (59.6%)	13 (27.7%)		
新たな知見と技術 の習得	習得できなかった				習得できた	45	4.1
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (15.6%)	27 (60.0%)	11 (24.4%)		
今後の活動での習 得内容の活用	活用できない				活用できる	46	4.2
	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (15.2%)	21 (45.7%)	18 (39.1%)		
研修目的の適正度	不適当				適当	42	3.9
	0 (0.0%)	2 (4.8%)	6 (14.3%)	23 (54.8%)	10 (23.8%)		
研修期間適正度	不適当				適当	41	3.5
	1 (2.4%)	7 (17.1%)	6 (14.6%)	23 (56.1%)	4 (9.8%)		
研修内容、講師へ の満足度	不満足				満足	44	3.8
	1 (2.3%)	3 (6.8%)	4 (9.1%)	32 (72.7%)	4 (9.1%)		
今後のSIMCOIの活 動への関心	関心なし				関心あり	45	4.2
	0 (0.0%)	3 (6.7%)	1 (2.2%)	24 (53.3%)	17 (37.8%)		

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

ガイド協会と現地コミュニティや政府組織等との連携については、他観光地と比較し、特に政府組織との連携が不足していることが認識された。特に観光資源保全のためには、現地コミュニティ及び観光事務所との連携だけでなく Administration office などの多様な現地政府組織との連携の必要性を認識しているガイドがいる。一方で、現地政府組織よりもむしろ NGO や海外ドナー、民間企業などとの連携が必要との意見を持つガイドもいる。Bale や Lalibela では、現地コミュニティへ啓発活動を行うなど、ガイド協会としての活動が行われており、Bale においては、スカウトと協力し違法な狩猟者から公園の自然環境を守り、時にはガイドがスカウトの役割を補うなど、様々な側面において他組織と良好な協力体制ができています。組織間の連携だけでなく、ガイド協会の体制の問題も認識された。メンバー間のコミュニケーションや信頼関係の不足、互いに情報共有することに消極的であること、規則の軽視など、組織として結束がとれていないことは、組織間の連携以前に解決すべき課題と考えられる。今回の研修を契機とし、10 日以上行動を共にしたことにより、メンバー間のコミュニケーションについては徐々に改善されることが期待される。しかしながら、Bale においては、ガイド協会のメンバーは 17 名で、組織内のコミュニケーションも円滑で、組織として結束しているように、シミエンの場合、ガイド協会のメンバーは 60 名を超えており、その統制を難しくしている一因と考えられる。

## G. ホテル・レストラン幹部のためのマネジメント改善訓練

本研修は、2014 年 10 月 13 日～10 月 17 日（5 日間）の日程で、講義、デバルクのホテル及びレストランでの現地指導、ゴンダールのホテルの現地視察という内容で実施された。HRWG メンバー及び新たに開業したホテル・レストランから計 23 名、デバルク・タウン

文化観光スポーツ事務所から 3 名の計 26 名を研修対象とした。研修講師として、ゴンダール大学ホテルマネジメント学科の講師を招聘した。

現在、デバルクにおいてツーリストホテルとして認識されているのは 6 件のホテルで、これらのホテルやホテル併設のレストラン以外に、観光客が訪れるケースはまだ少ない。しかしながら、今後、シミエンへの観光客の増加に伴い、前述のホテルだけでなく、デバルク全体のホテル・レストランが観光客を受入れる体制が必要となることが予想される。ただ、ツーリストホテルも含め、現状では各ホテル・レストランにおけるマネジメント能力が不足しているため、その改善を目的とした研修を実施した。

参加者に対して、研修終了後に実施したアンケート結果の一部を下表に整理する。研修参加者 26 名に対し、有効回答数は 16～18、研修全体の評価としては、概ね評価が高かった。

表 2.23 研修アンケート結果（ホテル・レストラン幹部のためのマネジメント改善訓練）

質問項目	回答数とその割合					有効回答数	平均点数*
	不適当				適当		
研修全体の評価	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.6%)	4 (22.2%)	13 (72.2%)	18	4.7
研修目的の理解	理解できなかった 0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (33.3%)	12 (66.7%)	18	4.7
研修目的の適正度	不適当 0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (22.2%)	14 (77.8%)	18	4.8
新たな知見や技術の習得	習得できなかった 0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (17.6%)	1 (5.9%)	13 (76.5%)	17	4.6
フロントオフィスマネジメントの理解	理解できなかった 0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	14 (82.4%)	17	4.7
フード、ビバレッジサービス・コントロールの理解	理解できなかった 0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	14 (82.4%)	17	4.7
公衆衛生の理解	理解できなかった 0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	4 (23.5%)	12 (70.6%)	17	4.6
カスタマーケア・サービスの理解	理解できなかった 0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	13 (81.3%)	16	4.8
今後の活動での習得内容の活用	活用できない 0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (16.7%)	15 (83.3%)	18	4.8
研修内容、研修講師の適正度	不適当 0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (11.1%)	2 (11.1%)	14 (77.8%)	18	4.7

\*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。

講義内容として、ファイナンスマネジメントを含めていたが、ホテル・レストラン幹部の代理として参加していた参加者もいたため、より彼らに馴染みのあるカスタマーケア等の講義に焦点をあてた。最も有益な講義内容として、カスタマーケア・サービスを挙げる



参加者が多く、前述の理由から、幹部レベル向けの講義の一部は実施が困難であった。デバルクにおいては、近年、新たなホテルやレストランが開業しており、設備の充実を図っているホテルもある。今回の研修で実施した、デバルクにおけるホテル・レストランでの現地指導は、実際に参加者が働く場で講師からの指導、アドバイスを得られたことだけでなく、デバルクにおいて他の競合ホテルやレストランの設備などを視察できたことも、参加者にとって良い刺激となった様子であった。研修後、レストランのテーブルセッティングをきちんと行うところも出てきたが、一時的なものにとせず、これを持続していくことが重要である。

必要な研修内容として、語学を挙げた参加者もあり、デバルクにおけるツーリストホテルにおいては、幹部は英語によるコミュニケーションが可能であるが、確かに、多くの従業員が英語による観光客とのコミュニケーションは難しい状況である。しかしながら、今後、今回の研修で得た知見も含め、必要最低限の語学などについては、外部からの研修に頼るだけでなく、ホテル・レストラン幹部自らが、きちんと従業員に対し訓練していく体制をとることも必要である。



テーブルセッティングの指導の様子



デバルクのホテル現地指導後  
意見を述べ合う様子

#### H. マーケティング・プロモーション研修

C/P 及び関係諸機関より 13 名、2014 年 5 月 16 日～5 月 18 日（4 日間）で延 45 人が出席した。観光統計の重要性、調査票の設計、入力、集計、分析、また分析結果を踏まえての Facebook でのプロモーションまで、マーケティングに係る基礎的且つ実務的な技術を習得するための研修とした。研修の目的を、マーケティングの必要性、重要性に関する理解を深めるとともに、定量的なデータの扱いに関する基礎的なスキルを習得することとした。具体的には、Excel を使用したデータの入力、クリーニング、単純集計、クロス集計、分析、レポートの作成に関するスキルを身につける。また、それらのデータ分析のアウトプット化の一例として実際に Facebook を用いたプロモーションを行い、プロモーションを含むマーケティングに関する実務的な能力の開発・向上を行うことである。

対象者：

- Mr. Maru Biyadglgne (シミエン公園事務所パークワーカー)
- Mr. Abebaw Azanaw (シミエン公園事務所副パークワーカー)
- Mr. Azanaw Kefyaleu (シミエン公園事務所 シニア観光担当)
- Mr. Tadesse Yigzaw (シミエン公園事務所 職員)
- Mr. Negussie Engdawork (シミエン公園事務所 職員)
- Ms. Aschal Dagneu (シミエン公園事務所 職員)
- Ms. Abebech Abebaw (デバルク文化観光局 職員)
- Mr. Getahun Tassew
- Mr. Habtu Alemu
- Mr. Alebachew Molla
- Mr. Sisay Yeshanew
- Mr. Belayneh Abebe
- Mr. Mulawshum Zemedie

**表 2.24 研修プログラム (マーケティング・  
プロモーション研修)  
SIMCOT**

**JICA Project on Community Tourism Development through Public-  
Private Partnership in Simien Mountains National Park and  
Surrounding Areas**

**Training for Marketing Analysis and Promotion  
16th - 19th May 2014  
at Simien Park Office Library**

Agenda (tentative)

Subject of lecture	Content	Time
<b>Day1 16th May 2014</b>		
1 Marketing and Promotion	Marketing process Data analysis process	09:00 - 12:00
2 Data entering through excel	Basic edition for excel How to enter data	14:00 - 17:00
<b>Day2 17th May 2014</b>		
3 Data cleaning through excel 1	How to make cleaning rule Cleaning	09:00 - 12:00
4 Aggregate analysis	Aggregate calculation	14:00 - 17:00
<b>Day3 18th May 2014</b>		
5 Data analysis through excel 1	Understanding demographic data Cross-tabulation	09:00 - 12:00
6 Data analysis through excel 2	Cross-tabulation table Analysis and reporting	14:00 - 17:00
<b>Day4 19th May 2014</b>		
7 Basic edition of Facebook	Basic edition of Facebook Posting article Page administration	09:00 - 12:00
8 Facebook advertisement	Analysis of Facebook Paid advertisement Evaluation of advertisement	14:00 - 17:00



**研修の様子**

これまで計算機で行われて来た入園者のカウントが Excel で行われるようになったほか、公園事務所職員の入園者管理シートの重要性に関する理解が深まり、研修後は無回答数の減少が確認された。また、Facebook を活用した実用的なプロモーション活動に関する研修を行ったことで、C/P の中に Facebook を活用してもっと情報発信に取り組むべきであるという意識が構築され、研修参加者の多くがプロジェクトオフィスで積極的に Facebook ページ作成に取り組むようになった。

表 2.25 研修アンケート結果（マーケティング・プロモーション研修）

第1日							
質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
プログラム全体の 評価	活用できない	-----			活用できる	11	4.4
	0	0	0	7	4		
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(63.6%)	(36.4%)		
新しい知識や技能 の習得	活用できない	-----			活用できる	11	4.5
	0	0	0	6	5		
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(54.5%)	(45.5%)		
*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。							
第2日							
質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
プログラム全体の 評価	活用できない	-----			活用できる	7	4.1
	0	0	2	2	3		
	(0.0%)	(0.0%)	(28.6%)	(28.6%)	(42.9%)		
新しい知識や技能 の習得	活用できない	-----			活用できる	7	4.6
	0	0	0	3	4		
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(42.9%)	(57.1%)		
*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。							
第3日							
質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
プログラム全体の 評価	活用できない	-----			活用できる	8	4.3
	0	0	1	4	3		
	(0.0%)	(0.0%)	(12.5%)	(50.0%)	(37.5%)		
新しい知識や技能 の習得	活用できない	-----			活用できる	8	4.4
	0	0	1	3	4		
	(0.0%)	(0.0%)	(12.5%)	(37.5%)	(50.0%)		
*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。							
第4日							
質問項目	回答数とその割合					有効 回答数	平均 点数*
プログラム全体の 評価	活用できない	-----			活用できる	12	4.4
	0	0	1	5	6		
	(0.0%)	(0.0%)	(8.3%)	(41.7%)	(50.0%)		
新しい知識や技能 の習得	活用できない	-----			活用できる	12	4.5
	0	0	0	6	6		
	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(50.0%)	(50.0%)		
*5段階評価で評価が高い回答を5点、評価の低い回答を1点とし、回答数との加重平均値を点数としている。							

#### (4) 4年次における実施

4年次は、村落でのビレッジ・ツアー訓練や村落住民を対象としたワークショップを実施した。詳細については、後述の成果3（観光商品）にて述べる。

##### 2.7.3 総括

1年次では、ベースライン調査として観光関連および公園管理組織の概要を把握し、2年次から各種研修を実施するとともに、SIMCOT-MF 設立に向けた検討を開始した。3年次でも、引き続き支援対象集落およびサービスプロバイダーに対する研修を実施するとともに、SIMCOT-MF 設立に向けた協議を進めた。3年次には、SIMCOT-MF 設立について国務大臣や EWCA 長官からも合意が得られ、役割分担も決定したため、延長期間に入り、まず SIMCOT-MF を SIMCOT-CA という正式名称で登録した。遺産協力金制度導入にかかる具体的な作業を進める段階で、C/P 側の意向で作業が中断したため、中途半端な状態で時間が経過し、結果的には TO を通して遺産協力金を徴収する方向で協議を進めることになった。TO らは、アイデアには同意するものの、遺産協力金分の売り上げが、所得税の対象になるため、税金分の損失がでないような仕組みにならない限り、実施は難しいとしている。よって、この税金分をひいた金額を遺産協力金として徴収するなど工夫をしつつ、将来的には免税扱いとしてもらえるように協議を開始する必要がある。

#### 2.8 成果 2（マーケティング・プロモーション）に関する成果

##### 2.8.1 入園者シートによるマーケティング分析

シミエン国立公園を訪れる旅行者は、デバルクにある EWCA シミエン公園事務所にて入園料等の支払いを行い、氏名、年齢、園内の滞在予定日数等を入園者名簿に記入する制度となっている。そのため本来であれば、名簿に蓄積された旅行者情報こそマーケティング戦略を立てる上で最も信頼性の高いデータとなるはずであるが、現状では以下のような問題を抱えているため、そもそも有用なデータとして扱うことが難しい。

- ① 厳密には名簿への記帳が義務づけられておらず、公園事務所のスタッフも記入するよう指示をしないことがある。そのため、一部の個人旅行者は入園者名簿の存在自体を知らずに入園している
- ② 所定の用紙等が無く、市販のノートやプリンター用紙を代用しているため、原本の紛失や記入漏れ、項目のばらつきなどが散見される
- ③ ツアーコンダクターやツアーリーダーの多くが入園者名簿への記入を怠っており、年間の入園者数にしておよそ 1/3 程度の旅行者情報が欠落している
- ④ 旅行者が手書きで記帳するため、一部の内容が判読不能である

以上の点を踏まえ、現存する 2009 年度以降の入園者名簿の情報を excel ファイルに入力しデータベース化した上で、EWCA シミエン公園事務所と協議を重ね、チェックシート方式の新しい入園者名簿を作成し 2012 年 12 月 1 日より導入した。なお、入園者名簿の改善

にあたっては以下の点についての指導、技術移転も合わせて実施した。新しい入園者名簿については p82 に示す。

- ① 入園者への記帳案内の徹底と回答漏れ等のチェック
- ② ツアーコンダクターやツアーリーダーへの協力依頼と事前記入用のシート配布
- ③ 入園者名簿の原本管理と定期的な excel 入力



入園者名簿（左）と  
入園者登録リスト（右）



新しい登録システムの運用開始

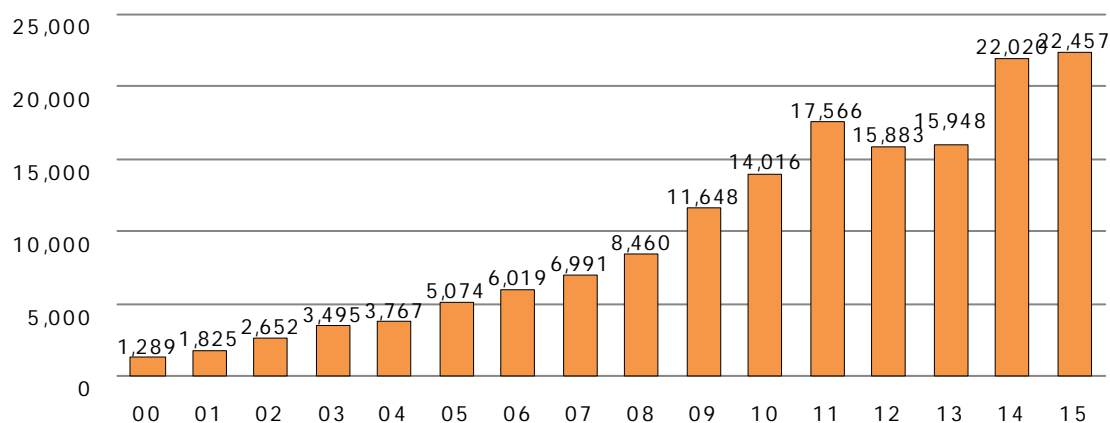


図 2.4 シミエン国立公園 年間入園者数

シミエン国立公園の年間入園者数は、記録の存在する 2000 年以降増加傾向にあり、2012 年、2013 年に若干の減少となったものの、2014 年には初めて 20,000 人を突破した。ただしこれらのデータは EWCA の公園事務所の公式記録であり、エチオピア暦で集計されている上、月別や国籍別のデータは存在しない。

表 2.26 シミエン国立公園 月別入場者数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	15/14(%)
JAN	1,154	1,694	1,635	2,089	2,108	2,166	2.8
FEB	836	1,020	1,088	1,649	1,911	1,690	▲ 11.6
MAR	723	781	684	1,172	1,285	1,451	12.9
APR	554	913	857	1,015	1,710	1,658	▲ 3.0
MAY	376	330	313	794	1,494	731	▲ 51.1
JUN	238	339	280	365	328	504	53.7
JUL	509	390	406	644	776	628	▲ 19.1
AUG	537	539	479	544	601	584	▲ 2.8
SEP	530	473	605	928	903	1,167	29.2
OCT	1,323	1,250	1,354	2,376	2,379		
NOV	1,423	1,677	1,402	2,503	2,560		
DEC	1,384	982	1,580	1,972	1,775		
TOTAL	9,587	10,388	10,683	16,051	17,830	16,969	

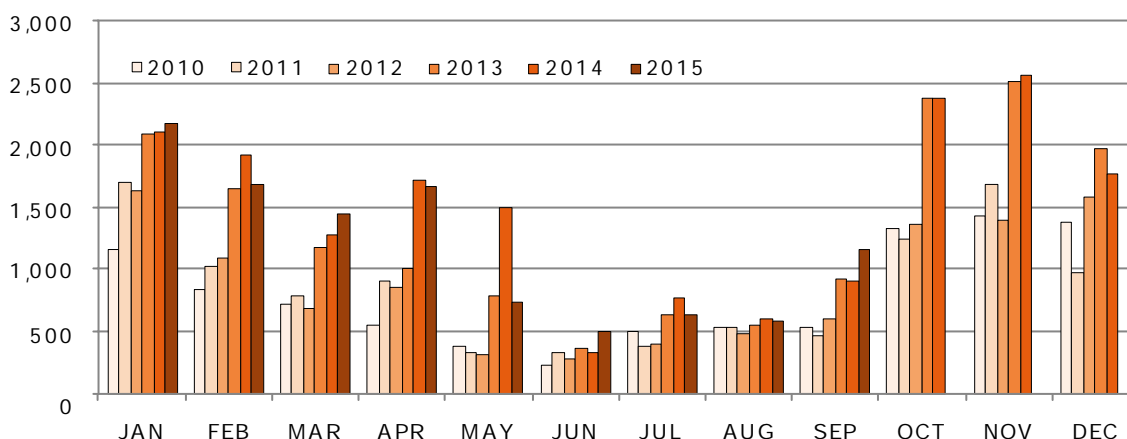


図 2.5 シミエン国立公園 月別入場者数

他方、本プロジェクトで導入した入園者管理シートでは、月別、国籍別の詳細な入園者データの把握が可能となっている。C/P とローカルスタッフの協働により、シート作成、データ入力、集計までが仕組みとして行われており、依然、データのクリーニングプロセス等に課題は残されているが、定量データが皆無であったプロジェクト開始当初に比して、マーケティングに必要なデータ収集に係る能力は飛躍的に向上している。

月別のデータを見ると、2015 年の上半期は前年をやや下回る結果となっている。特に 5 月は対前年で-51.1%を記録しており、2 月や 8 月も 2 桁の減少となっている。ただ、表からも分かるとお、りここ数年の傾向と比較すると、むしろ 2014 年の 5 月の伸びが際立っており、2015 年は需要が急激に落ち込んだとみるよりは、揺れ戻しによる前年比減ととらえることが妥当である。9 月までは対前年-5%で推移していることから、2015 年の年間入場者数は前年をやや下回る 16,900 人前後になると予想される。

表 2.27 シミエン国立公園 国籍別入場者数

RANK	2013	No.	Share(%)	2014	No.	Share(%)	2015	No.	Share(%)
1	Germany	1,870	11.6	Germany	2,152	12.6	Ethiopia	1,552	14.7
2	UK	1,864	11.5	France	1,997	11.7	France	1,230	11.6
3	France	1,780	11.0	UK	1,703	10.0	UK	1,006	9.5
4	Ethiopia	1,210	7.5	Ethiopia	1,594	9.3	Germany	920	8.7
5	USA	1,108	6.9	USA	1,170	6.8	USA	900	8.5
6	Netherlands	930	5.8	Israel	958	5.6	Israel	599	5.7
7	Belgium	865	5.4	Netherlands	906	5.3	Netherlands	578	5.5
8	Israel	854	5.3	Belgium	859	5.0	Spain	440	4.2
9	Italy	761	4.7	Spain	724	4.2	Belgium	399	3.8
10	Poland	589	3.6	Italy	677	4.0	Italy	354	3.3
11	Spain	572	3.5	Poland	593	3.5	Poland	317	3.0
12	Australia	372	2.3	Canada	365	2.1	Austria	247	2.3
13	Canada	364	2.3	Australia	362	2.1	Canada	231	2.2
14	Switzerland	264	1.6	Switzerland	337	2.0	Australia	200	1.9
15	China	254	1.6	Norway	242	1.4	Switzerland	179	1.7
16	Austria	203	1.3	Austria	236	1.4	Denmark	107	1.0
17	Denmark	160	1.0	Sweden	190	1.1	Ireland	97	0.9
18	Sweden	146	0.9	Denmark	188	1.1	Japan	79	0.7
19	Norway	125	0.8	Czech	110	0.6	China	71	0.7
20	Slovenia	105	0.7	South Africa	110	0.6	South Africa	66	0.6
	Other	1,756	10.9	Other	1,610	9.4	Other	1,007	9.5
	Total	16,152	100.0	Total	17,083	100.0	Total	10,579	100.0

国籍別では、2015 年はエチオピアが暫定で 1 位となっているが、これは国外旅行者のピークである 10 月以降のデータが反映されていないためであり、通年では、相対的にエチオピア国内のシェアは下がるものと予想される。ただし、上位 10 カ国の顔ぶれはここ数年殆ど変わっておらず、ドイツ、フランス、イギリスの欧州 3 カ国と、アメリカ、エチオピアが安定的な 5 大市場となっている。これらの国に、イスラエルやオランダ、スペイン、ベルギーと行った国が追随しており、この傾向は 2015 年も変わらないと考えられる。

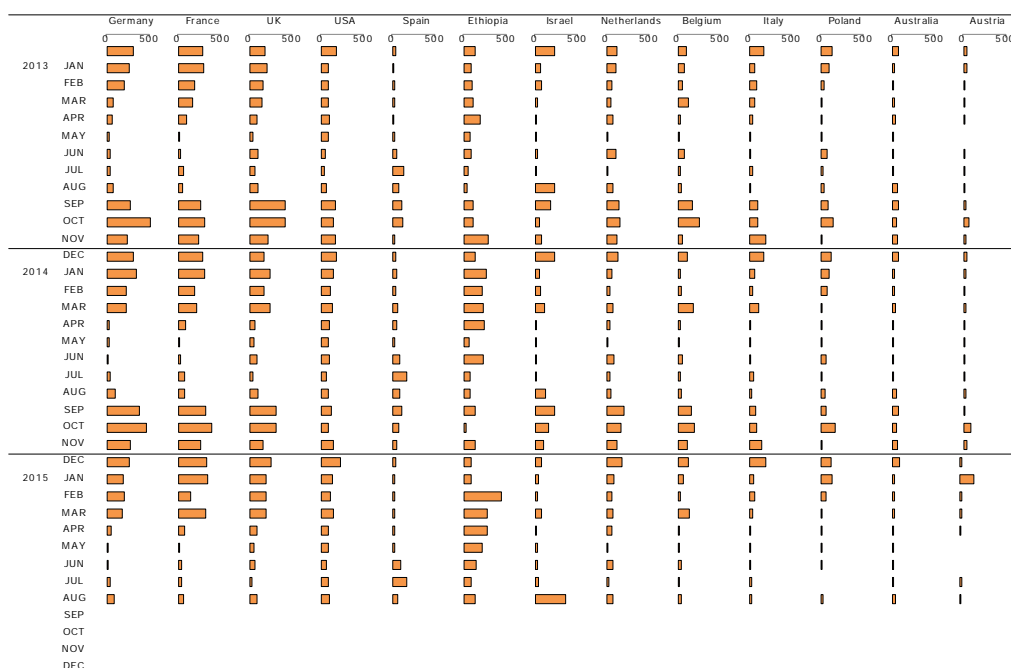


図 2.6 主要国旅行者の月別推移 (単位: 人)

主要な国籍について月ごとの傾向をみると、ドイツ、フランス、イギリスの欧州主要 3 カ国は、10 月からピークシーズンを迎え、4 月を境にローシーズンに入ることが分かる。アメリカも欧州ほど際だつてはいないが、緩やかながらも同様の傾向が伺える。他方でスペインは、一般的な労働者や学校が一斉に夏期休暇となる 8 月がピークシーズンの中心となっている。またイスラエルもスペイン同様、夏にピークを迎える。また、エチオピアは、3 月から夏前までの数ヶ月間が最も多い。

これらの結果から、欧州 3 カ国とアメリカを主要なターゲットに設定し、10 月上旬からの乾期に公園を訪れる旅行者をボリュームゾーンとして各種のプロモーションを行うことが有効と思われる。また、スペインやイスラエルについては、オフシーズンの底上げ需要市場として有望であることから、これらについては個別の取り組みが必要である。

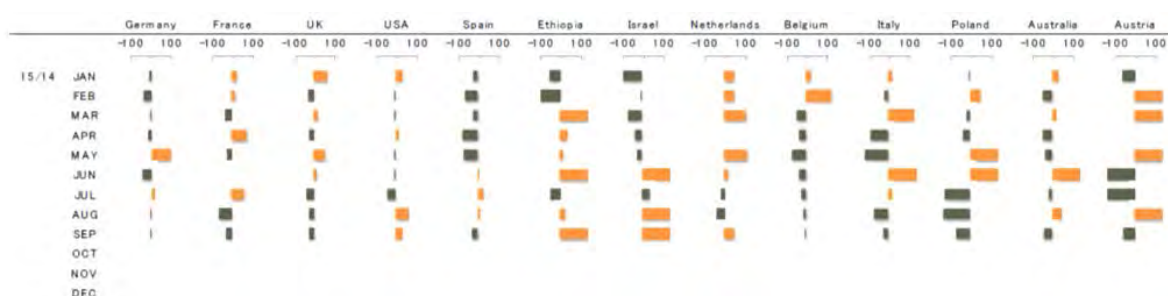


図 2.7 主要国旅行者の月別構成 対前年比 (2015/2014) (単位：%)

主要国の月別旅行者数の増減を見ると、2015 年は欧州主要 3 市場こそ小幅な増減となっているが、スペインやイスラエルなどが上期に大幅な減少を記録している。また規模こそ主要国に及ばないものの、年間旅行者数で 10 位前後のベルギーが 3 月以降 7 ヶ月連続で減少に転じている。エチオピアやオランダの前年比増が下支えをする形で何とか微減にとどめているが、年間の入園者数の合計が近年安定的に成長していたことを踏まえると、成長の停滞期に突入しつつあると見ることもできる。

表 2.28 主要国旅行者の性別構成 (単位：%)

	Male	Female	Total
Germany	47.2	52.8	100.0
France	49.3	50.7	100.0
UK	51.0	49.0	100.0
USA	48.9	51.1	100.0
Spain	47.9	52.1	100.0
Ethiopia	59.6	40.4	100.0
Israel	48.5	51.5	100.0
Netherlands	46.6	53.4	100.0
Belgium	48.7	51.3	100.0
Italy	47.4	52.6	100.0
Poland	47.7	52.3	100.0
Australia	51.2	48.8	100.0
Austria	48.1	51.9	100.0
Total	50.2	49.8	100.0



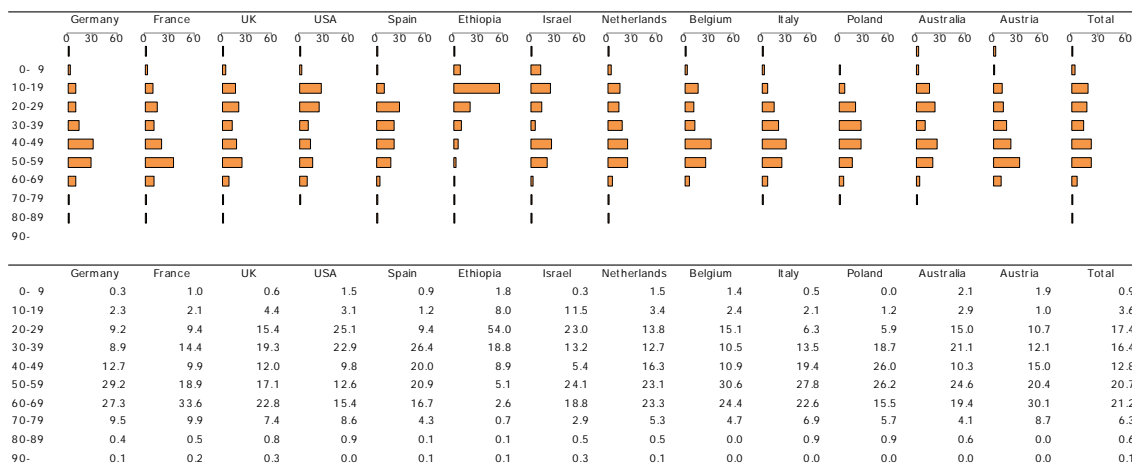


図 2.8 主要国旅行者の年代別構成（単位：％）

主要国の性別、年齢構成をみると、まず性別構成では国による差異は殆ど見られない。唯一エチオピアについては突出して男性の比率が高くなっているが、その他に有意な差は見られない。

他方で、年齢構成については、いくつかのタイプが認められる。

まず、ドイツ、フランス、イギリスの欧州 3 市場については、ボリュームゾーンが 50 代から 60 代にあるのに対し、アメリカは 20 代が最も高い割合になっている。またエチオピアは 20 代の割合が際立って高く、性別構成を踏まえて考えると、20 代の男性が半数近くを占めていることが伺える。

その他の市場は、20 代から 60 代がボリュームゾーンとなっているが、中でも 50 代、60 代の割合が相対的にやや高い結果となっている。標高 3000m を超える国立公園であるが、比較的年齢層の高いセグメントが一定の割合でいることが分かる。特にフランスとイギリスの 2 カ国は 10 人に一人が 70 代以上である。

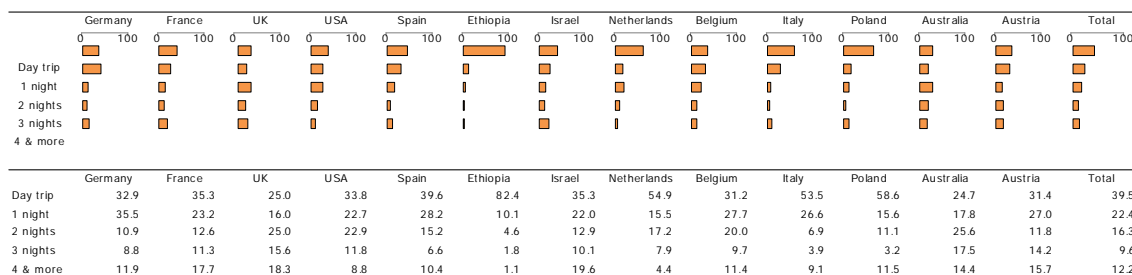


図 2.9 主要国旅行者の滞在日数別構成（単位：％）

公園内の滞在日数を見ると、およそ 39.5%が日帰りとなっている。これに 1 泊の 22.4%を加えると全体のおよそ 6 割を超え、シミアン国立公園を訪れる旅行者の過半数が 1 泊以下の比較的短期の滞在であることが分かる。

この傾向は主要国では特にドイツ、フランス、アメリカで顕著である。両国ともに日帰り  
と1泊の旅行者が全体の5割以上を占めており、特にドイツは68%以上が1泊以下の滞  
在である。また、スペインやベルギーといった国々も同様の傾向となっている。

他方で、イギリスは、他の欧州各市場に比べて2泊以上の割合が飛躍的に高く、4泊以  
上の割合も18.3%に達した。イスラエルも19.6%が4泊以上となっている。この他の国で  
はエチオピアの日帰り比率の高さが突出しているほか、オランダやイタリア、ポーランド  
も半数以上の旅行者が日帰りとなっている。全体として日帰りの比率が最も高く、滞在日  
数が長くなるにつれてシェアが小さくなる傾向にあるが、イギリスとオーストラリアだけ  
は、2泊と3泊の旅行者にもう一つのボリュームゾーンが存在することが分かる。これら  
の市場に向けては比較的日程に余裕のあるツアーの売り込みが可能であることが示唆され  
る。

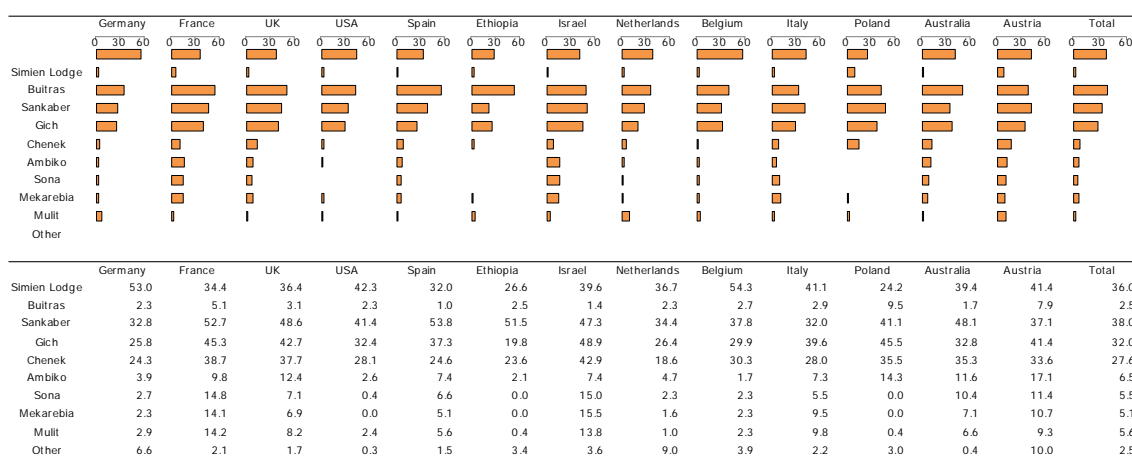


図 2.10 主要国旅行者の宿泊場所別構成（単位：%）

公園内で1泊以上した旅行者の宿泊場所の構成をみると、全体ではサンカベルが38.0%  
を占めて最も高い割合となっている。次いで園内唯一のフルサービス施設であるシミエン  
ロッジが36.0%、ギッチが32.0%となっている。

国籍別ではドイツとベルギーのシミエンロッジ滞在率が飛躍的に高く、両国の旅行者の  
半数以上がシミエンロッジを利用しているという結果となった。基本的には、サンカベル、  
シミエンロッジにギッチとチェネックを加えた4サイトが最大のボリュームゾーンとなっ  
ているが、フランスとイスラエルについてはソナ、マカレビア、ムリットについても二桁  
の利用率になっている。両国は滞在日数が相対的に長いという結果も出ていることから、  
比較的公園内の広い範囲をゆっくりと時間をかけて訪れていることが分かる。

**表 2.29 主要国旅行者の手配携帯別構成（単位：％）**

	Self	Package in origin			
oland	6.0	27.3	66.6	0.2	100.0
Australia	16.0	29.3	51.2	3.4	100.0
Austria	25.9	24.9	48.3	1.0	100.0
Total	22.2	19.5	56.7	1.6	100.0

旅行手配については、全体で 56.7%がエチオピア国内で企画されたパッケージ旅行と答えており、アディスアベバ等にあるエチオピア国内の TO による手配が過半数を占める結果となった。国籍別では、フランスとポーランドの個人手配比率が一桁に留まっておりこれらの市場では旅行会社の利用が一般的であることが伺える。このほか、イギリスは発地からのパッケージと答えた人の比率が唯一 30%を超えており、同国については発地側へのアプローチが需要の取り込みに有効であることを示している。

**表 2.30 主要国旅行者のデバルクまでのアクセス別構成（単位：％）**

	Gondar	Aksum	Lalibela	Other	Total
ustralia	81.9	17.8	0.3	0.0	100.0
Austria	91.1	7.3	0.5	1.0	100.0
Total	91.4	7.4	0.5	0.7	100.0

シミエン国立公園の拠点となるデバルクまでの経路としては、最も一般的なゴンダール経由が全体の 91.4%を占めている。次いでデバルクまでおよそ車で 6 時間の北部アクスム、世界遺産で知られる東部ラリベラの順となっている。

国別の特徴はそれほど見られないが、エチオピアを除くと、ベルギーとオーストラリアのみアクスム経由が 2 桁となっている。また両国ほどではないが、ドイツ、フランスもアクスム経由が 10%弱あり、旅行商品の一部が北部を周りアクスムからシミエンを訪れるルートを採用していることがうかがえる。

This information helps us ensure the sustainable relationship between park conservation and tourism.

Please mark  each box.

Sheet NO.

Date	Name & Sex	Nationality	Age	Duration of stay inside of the park	Accommodation inside of the park	Arrangement	Access to Debar
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self arranged trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						
D	M	<input type="checkbox"/> Ethiopia <input type="checkbox"/> Canada <input type="checkbox"/> Germany <input type="checkbox"/> Japan <input type="checkbox"/> Russia <input type="checkbox"/> Switzerland	<input type="checkbox"/> 0-9 <input type="checkbox"/> 50-59	<input type="checkbox"/> day trip <input type="checkbox"/> 5 nights	<input type="checkbox"/> Simien Lodge <input type="checkbox"/> Ambiko camp	<input type="checkbox"/> Self organized trip	<input type="checkbox"/> from Gondar
		<input type="checkbox"/> Australia <input type="checkbox"/> China <input type="checkbox"/> Hungary <input type="checkbox"/> Korea <input type="checkbox"/> Slovenia <input type="checkbox"/> UK	<input type="checkbox"/> 10-19 <input type="checkbox"/> 60-69	<input type="checkbox"/> 1 night <input type="checkbox"/> 6 nights	<input type="checkbox"/> Buitras <input type="checkbox"/> Sona camp	<input type="checkbox"/> Package tour from your country	<input type="checkbox"/> from Aksum
		<input type="checkbox"/> Austria <input type="checkbox"/> Czech <input type="checkbox"/> Ireland <input type="checkbox"/> Netherlands <input type="checkbox"/> South Africa <input type="checkbox"/> USA	<input type="checkbox"/> 20-29 <input type="checkbox"/> 70-79	<input type="checkbox"/> 2 nights <input type="checkbox"/> 7 nights	<input type="checkbox"/> Sankaber camp <input type="checkbox"/> Mekarebia camp	<input type="checkbox"/> Package tour arranged in Ethiopia	<input type="checkbox"/> from Lalibela
		<input type="checkbox"/> Belgium <input type="checkbox"/> Denmark <input type="checkbox"/> Israel <input type="checkbox"/> Norway <input type="checkbox"/> Spain <input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> 30-39 <input type="checkbox"/> 80-89	<input type="checkbox"/> 3 nights <input type="checkbox"/> more	<input type="checkbox"/> Gich camp <input type="checkbox"/> Multit camp	<input type="checkbox"/> Other	<input type="checkbox"/> Other
		<input type="checkbox"/> Brazil <input type="checkbox"/> France <input type="checkbox"/> Italy <input type="checkbox"/> Poland <input type="checkbox"/> Sweden	<input type="checkbox"/> 40-49 <input type="checkbox"/> over 90	<input type="checkbox"/> 4 nights <input type="checkbox"/> nights	<input type="checkbox"/> Chenek camp <input type="checkbox"/> Other		
	<input type="checkbox"/> Male <input type="checkbox"/> Female						

## 2.8.2 入園者実態調査の実施

全ての入園者が記入することになっている入園者名簿は、国籍や性別、年齢、旅行形態等に関する網羅的なデータが収集可能である一方、制度上、入園時の記入となるため、園内での消費額や満足度、再訪意向など訪問後に把握すべきデータの収集はできない。また、公園内の施設・設備等について「旅行者がどの程度の快適性を求めているか」や「どのレベルのトレッキングをしたいのか」といった詳細な情報については、入園手続きの一環として行われる入園者名簿への記帳で把握するには回答者負担が大きくなってしまう。

そこで、シミエン国立公園を訪れる旅行者の志向や園内での活動等を把握することを目的に、入園者実態調査を実施した。なお、調査の企画・実施にあたっては、北部ゴンダール・ゾーン文化観光事務所のシマリス氏を核に、デバルク・ワレダ文化観光事務所のアザナウ氏やプロジェクトのローカルスタッフを加えた小規模なチームを組織し、調査企画・設計、調査票作成、実査、回収データ入力までの一連のプロセスを1つのパッケージとして技術移転を行った。これにより個々のプロセスに係る実務ノウハウの習得に加え、調査の全体構成に関する理解促進やマネジメント技術の向上といった成果が得られた。

表 2.31 入園者実態調査

<実査> 2012年12月4日～  
<調査対象> シミエン国立公園への入園者（エチオピア人旅行者を含む）  
<目標サンプル数> 500  
<調査方法> EWCA シミエン公園事務所及び公園ゲートでの対面配布・回収  
<調査票> 次ページ参照



入園者実態調査



入園者実態調査



**Ethiopian Wildlife Conservation Authority**  
**Simien Mountains National Park**  
**Official Visitor Survey**



A1. Please specify the country of your nationality. **(single answer)**

1. Ethiopia 2. Australia 3. Austria 4. Belgium 5. Canada 6. China  
 7. Czech 8. Denmark 9. France 10. Germany 11. Hungary 12. Israel  
 13. Italy 14. Netherlands 15. Norway 16. Poland 17. Russia 18. Spain  
 19. Sweden 20. Switzerland 21. UK 22. USA 23. Other \_\_\_\_\_

A2. Sex, age and your arrival date in the Simien Mountains National Park,

1. Male 2. Female Age \_\_\_\_\_ Date Year \_\_\_ Month \_\_\_ Day \_\_\_

A3. How many times have you visited Ethiopia and Simien including this visit? **(single answer)**

- to Ethiopia 1. 1 time(first time) 2. 2 times 3. Over 3 times 4. Resident in Ethiopia  
 to Simien 1. 1 time(first time) 2. 2 times 3. Over 3 times 4. Local resident

A4. What type of trekking/hiking trip have you ever taken mainly in your life? **(single answer)**

1. Not at all 2. Short hiking (1-2hours). 3. Half-day or one-day trekking/hiking  
 4. Long distance trekking (with overnight stay)

A5. How did you arrange this trip? **(single answer)**

1. Self-arranged 2. Package-tour arranged in Ethiopia 3. Package-tour from your country

A6. Who is currently traveling with you? **(multiple answer)**

1. Just me 2. Spouse/Partner 3. Family 4. Friend(s) 5. Co-Worker(s) 6. Other \_\_\_\_\_

A7. How long did you stay inside the Simien Mountains National Park? **(single answer)**

1. Day trip 2. 1 night 3. 2 nights 4. 3 nights 5. 4 nights 6. 5 nights  
 7. 6 nights 8. 7 nights 9. More \_\_\_\_\_nights

A8. Where did you stay inside the Simien Mountains National Park? **(multiple answer)**

1. Simien lodge 2. Buitras 3. Sankaber 4. Gich 5. Chenek  
 6. Ambiko 7. Sona 8. Mekarebia 9. Mulit 10. Other \_\_\_\_\_

A9. What was the main purpose of your visit to the Simien Mountains National Park? **(multiple answer)**

1. Natural landscape 2. Animals 3. Plants 4. Trekking/Hiking 5. Bird-watching  
 6. Village landscape 7. Local culture and people 8. Other \_\_\_\_\_

A10. How did you get information about the Simien Mountains National Park? **(multiple answer)**

1. From family or friends 2. Tourist Information center 3. Accommodation staff, brochure, website  
 4. Travel agent staff, brochure, website 5. Guidebook 6. Other book 7. TV  
 8. Ethiopian government official tourism website (<http://www.tourismethiopia.org>)  
 9. Facebook 10. Trip adviser 11. Twitter 12. Other website 13. Other \_\_\_\_\_

A11. How important each of following factor is for your visit in the Simien Mountains National Park? **(single answer)**

	Not at all Important	Fairly Important	Moderately Important	Extremely Important
Automobile access	1	2	3	4
Pavement of the trail	1	2	3	4
Clean toilet	1	2	3	4
Comfortable campsites & lodges	1	2	3	4

B1. How satisfied are you with your visit to the Simien Mountains National Park this time? **(single answer)**

1. Very dissatisfied 2. Dissatisfied 3. Fairly dissatisfied 4. Neither 5. Fairly satisfied 6. Satisfied 7. Very satisfied

B2. What did you think about the quality and the quantity of the services, facilities and environment inside the Simien Mountains National Park? **(single answer)**

	Did not use	Very poor	Poor	Fairly poor	Neither	Fairly good	Good	Very good
Accommodation	0	1	2	3	4	5	6	7
Guiding	0	1	2	3	4	5	6	7
Scout	0	1	2	3	4	5	6	7
Mule	0	1	2	3	4	5	6	7
Cook	0	1	2	3	4	5	6	7
Souvenir	0	1	2	3	4	5	6	7

B3. Would you like to visit the Simien Mountains National Park again? **(single answer)**

1. Definitely not 2. No 3. Not really 4. Neither 5. Probably 6. Yes 7. Definitely

B4. Would you like to recommend the Simien Mountains National Park to others? **(single answer)**

1. Definitely not 2. No 3. Not really 4. Neither 5. Probably 6. Yes 7. Definitely

C1. How much money did you spend inside the Simien Mountains National Park. ( per person/birr)

Accommodation	1. _____ birr	2. Unknown
Food, coffee, water, etc.	1. _____ birr	2. Unknown
Shopping (souvenir, handcraft etc.)	1. _____ birr	2. Unknown
Activity (trekking, mule, guide, etc.)	1. _____ birr	2. Unknown
Other _____	1. _____ birr	2. Unknown
Total (if you don't remember detail)	1. _____ birr	2. Unknown

D1. Would you like to join activities in local village and what do you think appropriate price is?

Activity	Definitely not	No	Not really	Neither	Yes	Probably	Definitely	Price
Coffee ceremony	1	2	3	4	5	6	7	_____ birr
Weaving cotton	1	2	3	4	5	6	7	_____ birr
Hair dressing	1	2	3	4	5	6	7	_____ birr

Please write your comment freely on back side and

hand it over at the park exit (gate keeper) or the park office in Debarq. Thank you very much!

This survey is conducted with support from SIMCOT, the Simien Mountains National Park Community Tourism Project.

### 2.8.3 ゴンダール空港外客調査

1 年次よりベースライン調査の一環として実施したゴンダール空港で外国人旅行者を対象とした調査を計 3 年にわたって継続実施した。本調査はゴンダールを訪れる外国人旅行者の動向を把握することを通じてシミエン国立公園及びその周辺地域の訪問に対する潜在需要を探ることを目的としており、同時に効果的なプロモーション方策を展開するための分析の材料として、観光目的地を決定したタイミングや有用な情報源等についての設問も盛り込んだ。

なお、本調査については、企画・実施に極めて高い専門性が求められる点、国際的にも専門的な調査機関に委託する方が一般的である点等を踏まえ、現地のコンサルティング会社へ委託する形で行った。委託にあたっては、北部ゴンダール・ゾーン文化観光局のシマリス氏に対し、委託先の選定、調査票の作成、スケジュール管理等、同種調査の再委託に要する技術等の移転を行った。

**表 2.32 ゴンダール空港外客調査**

<p>&lt;実査&gt; 2013 年 1 月～2 月、2014 年 1 月～2 月、2015 年通年 &lt;調査対象&gt; ゴンダール空港を出発する外国人旅行者（商用客、現地在住外国人を含む） &lt;目標サンプル数&gt; 1,000 / 年 &lt;調査方法&gt; ゴンダール空港出発ゲートでの調査員による聞き取り（実査・分析は再委託）</p>
---



1. Date: Year <input type="text" value="20"/> <input type="text"/> <input type="text"/> Month <input type="text"/> <input type="text"/> Day <input type="text"/> <input type="text"/>	Researcher Name <input type="text"/>
2. Flight No. <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>	Sample No. <input type="text"/>

## Gondar Airport Survey for Foreign Visitors

The Simien Mountains Community Tourism Project supported by Ethiopian and Japanese governments is surveying foreign tourists that have visited Gondar. This survey will investigate trends in travel and consumption of foreign tourists visiting Gondar and will be used as basic data for ongoing tourist policy making. All data will be processed statistically and no personal information will be released. Please help out with this short survey before you depart.

[A. About You]

●A1. Sex / Age     Male     Female     Years Old

●A2. What is your Country of Nationality? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Germany	<input type="checkbox"/> 5 Canada
<input type="checkbox"/> 2 France	<input type="checkbox"/> 6 Italy
<input type="checkbox"/> 3 UK	<input type="checkbox"/> 7 China
<input type="checkbox"/> 4 USA	<input type="checkbox"/> 8 Other <input type="text"/>

●A3. Where do you currently live? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Germany	<input type="checkbox"/> 5 Canada	<input type="checkbox"/> 9 Ethiopia
<input type="checkbox"/> 2 France	<input type="checkbox"/> 6 Italy	
<input type="checkbox"/> 3 UK	<input type="checkbox"/> 7 China	
<input type="checkbox"/> 4 USA	<input type="checkbox"/> 8 Other <input type="text"/>	

[B. About this trip to Ethiopia] (for those who doesn't currently live in Ethiopia)

●B1. Including this visit, how many times have you visited Ethiopia? (Enter the number)  Times

●B2. How many nights will / did you stay totally in Ethiopia? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Day Trip	<input type="checkbox"/> 4 7-10 nights	<input type="checkbox"/> 7 21-30 nights
<input type="checkbox"/> 2 1-3 nights	<input type="checkbox"/> 5 11-14 nights	<input type="checkbox"/> 8 Over month
<input type="checkbox"/> 3 4-6 nights	<input type="checkbox"/> 6 15-20 nights	

●B3. How many days/ months prior to the departure did you make the decision to visit Ethiopia? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 1-7 days	<input type="checkbox"/> 4 1-2 months	<input type="checkbox"/> 7 7-11 months
<input type="checkbox"/> 2 8-14 days	<input type="checkbox"/> 5 3-4 months	<input type="checkbox"/> 8 1 year or more
<input type="checkbox"/> 3 15-30 days	<input type="checkbox"/> 6 5-6 months	<input type="checkbox"/> 9 I don't know (I forgot)

●B4. Which source(s) do you feel were helpful in obtaining information about your destination prior to coming to Ethiopia? (Multiple answer)

<input type="checkbox"/> 1 TV program	<input type="checkbox"/> 11 Personal blogs
<input type="checkbox"/> 2 Discover Simien Brochure	<input type="checkbox"/> 12 YouTube
<input type="checkbox"/> 3 Travel guide book	<input type="checkbox"/> 13 Trip Advisor
<input type="checkbox"/> 4 Magazine or newspaper	<input type="checkbox"/> 14 Twitter
<input type="checkbox"/> 5 Other book	<input type="checkbox"/> 15 Discover Simien Facebook
<input type="checkbox"/> 6 Ethiopian government site (http://www.tourismethiopia.org/)	<input type="checkbox"/> 16 Other Facebook page
<input type="checkbox"/> 7 Travel agent's staff or brochure	<input type="checkbox"/> 17 Other websites
<input type="checkbox"/> 8 Travel agent's website	<input type="checkbox"/> 18 Family/friends in own country
<input type="checkbox"/> 9 Accommodation staff or brochures	<input type="checkbox"/> 19 Family/friends in Ethiopia
<input type="checkbox"/> 10 Accommodation website	<input type="checkbox"/> 20 Other <input type="text"/>
	<input type="checkbox"/> 21 None in particular

[C. About this visit to Gondar]

●C1. Who is with you on this trip? (Multiple answer)

<input type="checkbox"/> 1 Just me	<input type="checkbox"/> 4 Work colleagues
<input type="checkbox"/> 2 Spouse / partner	<input type="checkbox"/> 5 Friends
<input type="checkbox"/> 3 Family / relatives	<input type="checkbox"/> 6 Other

●C2. How many members are there in your group?

Total number of traveler(s) including you  person(s)

●C3. How many times have you been to Gondar and its surrounding area? (includes Wunnania, Kosoye, Deabark and Simien Mountains N.P.) (Multiple answer)

times including this trip

●C4. What is your main reason for visiting Gondar and its surrounding area? (Enter number)

<input type="checkbox"/> 1 Tourism / leisure	<input type="checkbox"/> 5 Event	<input type="checkbox"/> 9 Pilgrimage / religion
<input type="checkbox"/> 2 Visiting family / friends	<input type="checkbox"/> 6 Study	<input type="checkbox"/> 10 Other
<input type="checkbox"/> 3 Honeymoon	<input type="checkbox"/> 7 Conference	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 4 School-related trip	<input type="checkbox"/> 8 Business	

●C5. How many nights did you stay in Gondar and its surrounding area? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Day Trip	<input type="checkbox"/> 4 3 nights	<input type="checkbox"/> 7 6 nights
<input type="checkbox"/> 2 1 night	<input type="checkbox"/> 5 4 nights	<input type="checkbox"/> 8 7 nights
<input type="checkbox"/> 3 2 nights	<input type="checkbox"/> 6 5 nights	<input type="checkbox"/> 9 Over 8 nights

●C6. Did you make this trip on an organized group tour? (Choose one)

1 Yes     2 No (independent / individual)

●C7. Did you make this trip on a package tour? (Choose one)

1 Yes     2 No (Self-arranged)

    ↳ ●C7-2. How did you arrange the package? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Through travel agent in my country
<input type="checkbox"/> 2 Through Ethiopian travel agent
<input type="checkbox"/> 3 Through online travel agent such as "Expedia"
<input type="checkbox"/> 4 Through airline company

●C8. When did you make the decision to visit Gondar and its surrounding area? (Choose one)

<input type="checkbox"/> 1 Before making decision to visit Ethiopia
<input type="checkbox"/> 2 After making decision to visit Ethiopia, but before arriving at Ethiopia
<input type="checkbox"/> 3 After arriving at Ethiopia
<input type="checkbox"/> 4 I had not planned to visit Gondar

Please also answer the questions on the reverse side.



●C9. What form of transportation did you use to come to Gondar? (Multiple answer)

1  Air plane                      4  Rental car  
2  Public bus                      5  Other   
3  Tour-bus / Tour-car

●C10. Where did / will you visit in this trip? (Multiple answer)  
Where is the most important destination for you in this trip? (Choose one)

	Visited / will visit	Most important destination	
1 Addis Ababa	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
2 Bahi rDar	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
3 Lalibela	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
4 Axum	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
5 Hawassa	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
6 South Omo	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
7 Harar	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
8 Ziway	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
9 Other <input type="text"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	
Gondar & its surrounding area	10 Fasil Ghebbi (Gondar palaces & castles)	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	11 Debre Birhan Selassie Church	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	12 Wunnania	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	13 Kosoye	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
	14 Debark	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>
15 Simien Mountains National Park	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	

for those who did NOT visit SMNP during this trip  
[E. About awareness of Simien Mountains National Park]

●E1. Do you know Simien Mountains National Park? (Choose one)

1  I do NOT know at all  
2  I have Never visited, but I have heard the name only.  
3  I have Never visited, but I know well.  
4  I have visited before (not this time)

Only for those who has any information about Simien  
[F. About Simien Mountains National Park]

●F1. Where did you find information about Simien Mountains National Park? (Multiple answer)

1  TV program  
2  Discover Simien Brochure  
3  Travel guide book  
4  Magazine or newspaper  
5  Other book  
6  Tourist Information Center in Ethiopia  
7  Ethiopian government site (<http://www.tourismethiopia.org/>)  
8  Travel agent's staff or brochure in own country  
9  Travel agent's website in own country  
10  Travel agent's staff or brochure in Ethiopia  
11  Travel agent's website in Ethiopia  
12  Accommodation staff or brochures  
13  Accommodation website  
14  Personal blogs  
15  YouTube  
16  Trip Advisor  
17  Twitter  
18  Discover Simien Facebook  
19  Other Facebook page  
20  Other websites  
21  Family/friends in own country  
22  Family/friends in Ethiopia  
23  Other   
24  None in particular

●F2. Why did NOT visit Simien Mountains National Park in this trip? (Multiple answer)

1  I have never known about the Park  
2  I already visited (do NOT want to go again)  
3  I feel it's NOT attractive  
4  It is tough trip for me (no confidence in physical strength)  
5  It is very far and takes long time  
6  It is expensive to visit  
7  Lack of tourist Information (access, hotel, etc..)  
8  Lack of available package tour  
9  Other  
10  None in particular

●F3. What is your image of Simien Mountains National Park? (Multiple answer)

1  Natural landscape    6  Enjoying contact with local people  
2  Rare animals        7  Trekking & Hiking  
3  Bird Watching        8  Listed as a UNESCO World Heritage  
4  Rare plants            9  Other   
5  Village landscape    10  None in particular

Only for those who visited Simien Mountains National Park  
[D. About the trip to Simien Mountains National Park]

●D1. When did you make the decision to visit Simien Mountains National Park? (Choose one)

1  Before making decision to visit Ethiopia  
2  After making decision to visit Ethiopia, but before arriving at Ethiopia  
3  After arriving at Ethiopia  
4  I had not planned to visit Simien Mountains National Park

Thank you for your help, and have a nice trip.

## 2.8.4 マーケティング戦略策定

1 年次、2 年次の各種データの分析結果を基に C/P との協議を重ね、「シミエン観光圏マーケティング戦略」および「シミエン観光圏プロモーション計画」を策定した。

従来、地元住民はもとより C/P となる政府機関においてもマーケティングへの理解が不足しており、シミエン国立公園を含む一体的なマーケティング戦略とそれに基づくプロモーション計画が策定されたこと自体が一つの成果と言える。特に定量的なデータ分析に基づく科学的アプローチや、B to B/B TO C 別のプロモーション活動などは、エチオピア国内においてもこれまで存在しなかったものである。

表 2.33 マーケティング戦略の構成

1	Introduction
1-1	Background
1-2	Marketing process
1-3	Target area
1-4	Objective and process to achieve
1-5	Conceptual organization
1-6	Measurements of success
1-7	Summary
2	Vision
2-1	Main concepts
2-2	Conceptual message
3	Analysis
3-1	SMNP visitors
3-2	Periodic survey
3-3	SWOT analysis
4	Planning
4-1	Segmentation and Targeting
4-2	Targeting criteria
4-3	Priority market
4-4	Positioning
5	Execution
5-1	Product development
5-2	Price
5-3	Distribution
5-4	Promotion
6	Evaluation
6-1	Measurable indicator
6-2	Return on investment and accountability

表 2.34 プロモーション計画の構成

1	Introduction
1-1	Target Area
1-2	Positioning of Simien Destination Area
1-3	Action based on AISAS
2	Target Market
2-1	1 <sup>st</sup> Priority Market
2-2	2 <sup>nd</sup> Priority Market
2-3	Next Market
3	B to B promotion
3-1	Tour-operators meeting
3-2	Travel Expo.
3-3	Materials
4	B to C promotion
4-1	e-marketing through Facebook
4-2	Materials
5	Indicators
5-1	B to B
5-2	B to C
6	Promotion Activity Matrix

### 2.8.5 プロモーション活動成果

#### (1) B to B/B to C プロモーション共有

##### A. 3年次の活動

B to B/B to Cに共通するプロモーション活動は、2年次後半に策定した「マーケティング戦略」及び「プロモーション計画」に基づいて3年次より実施したため、1年次、2年次には特定の活動は行っていない。以下、3年次の活動について述べる。

##### a. 写真データベースの作成

###### 1) 活動概要

従来は、特定のマテリアル作成のみを目的に場当たりに写真撮影等を行っていたが、撮影者やデータの作成時期、目的がそれぞれ異なるために汎用性が低く、またデータの出所や著作権、マスターデータの管理が殆ど行われていなかったことから、複数のマテリアルや異なる媒体に使用する等の取り組みは殆ど行われてこなかった。こうした課題を受けて、B to B、B to Cを問わず、幅広いプロモーション活動に活用可能なシミアン観光圏の写真を集集・整理することを目的に、プロのカメラマンを活用した写真データベースの構築を行った。

訴求力の高いプロモーション・マテリアルの作成を可能にする高品質な画像データを作成するため、著名写真家である Antonio Fiorente 氏に写真撮影を委託した。また、撮影時期

は、C/P や TO とも協議をした上で、雨季明けの緑が映える 2014 年 10 月とし、撮影コースや受け入れに向けた準備等を C/P との協働に基づき進めた。

## 2) 活動成果

ビレッジ・ツアーのプログラム 8 項目に加え、「ツーリスト・アクティビティ」、「トレッキングルート」、「キャンプサイト」、「植物」、「動物」、「景観」、「川・滝」、「住民と生活」の全 16 項目からなる写真データベースが構築された。データは CD に保存され、ゴンダール及びデバルクオフィスにて管理されている。またこれらの写真はブローチャー作成やエチオピア国内 TO を対象とした営業活動にも活用されている。

### b. 旅行博覧会への出展

#### 1) 活動概要

シミエン観光圏への誘客拡大や新たに開発されつつある村落観光商品の販路開拓には、エチオピア国内の旅行関連事業者への周知とともに、発地側の世界各国の旅行事業者や一般消費者を対象としたプロモーション活動も必要不可欠である。特に、ヨーロッパ各国を中心としたツアー客の取り込みにはこれらの国々の旅行会社とのネットワーク構築や業界における認知度の向上が非常に重要である。

そのため、2 年次後半に策定した 3 年次プロモーション実施方針に沿って、プロモーション能力向上を目的に研修を計画した。その一環としてアフリカ最大の国際観光見本市である INDABA（於南アフリカ）を視察及びヨーロッパ内で最大級の国際見本市の一つである WTM（World Travel Market、於イギリス）に出展した。研修日程、研修対象者及び実施目的を以下に要約する。

INDABA には 2013 年と 2014 年の 2 回視察を実施した。2 年間ともに INDABA 会期中に JICA 南アフリカ事務所主催で、アフリカにおける観光セクター技術協力プロジェクト間の意見交換会、旅行事業社を対象とした観光プロジェクト実施国の紹介セミナーが実施された。特に旅行事業社を対象としたセミナーでは、各旅行事業社とビジネスミーティングが企画され、プロモーション OJT の良い機会となった。

#### a) 研修概要

	研修内容	研修日程	研修対象者
1.	INDABA2013 参加  見本市開催日： 2013 年 5 月 11 日～14 日	2013 年 5 月 11 日～ 5 月 15 日	- Mr. Kassie Berihun 北部ゴンダール・ゾーン文化観光事務所 所長  - Mr. Shimelis Aklilu 北部ゴンダール・ゾーン文化観光事務所 所／観光開発プロモーション担当

	研修内容	研修日程	研修対象者
2.	WTM 参加  見本市開催日： 2013 年 11 月 4 日～6 日	2013 年 11 月 2 日～ 8 日	- Mr. Alebel Desiie アムハラ州文化観光局・局長  - Mr. Zeleke Tegabe EWCA 野生生物研究・モニタリング 部・部長
3.	INDABA2014 参加  見本市開催日： 2014 年 5 月 10 日～12 日	2014 年 5 月 8 日～ 12 日	- Mr. Azanaw Kefyaleu EWCA シミエン公園事務所 シニア観光担当官 (Mr. Dawud Mume、EWCA 局長は突然 の国会召集のため不参加)

## b) 研修目的

### 1) INDABA 参加

- アフリカおよび出展国の B to B プロモーション手法の習得
- 他アフリカ国の観光商品およびそのプロモーション手法の習得
- エチオピア、シミエン国立公園並びに村落観光商品の宣伝
- 他アフリカ国のコミュニティ観光商品及び運営体制の習得
- 南アフリカの地方観光局を訪問し、マーケティング・プロモーションにおける公共機関の役割についての聞きとり調査

### 2) WTM 参加（実践）

- ブースの設置手法の習得
- プロモーション・マテリアル配布
- 旅行業界関係者との商談の進め方の習得

## 2) 活動成果

### a) INDABA 視察

INDABA 開催の元来の目的は、南アフリカのインバウンド観光促進を目的としていたため、他国からの出展について 2013 年まで南部アフリカの国々に限定していた。INDABA 2013 を機に INDABA をアフリカ最大の国際観光見本市にするという方針が出され、2014 年以降南部アフリカ以外のアフリカの国からの出展も承認されるようになった。エチオピア観光省は 2014 年の出展を見合わせたが、エチオピア TO 協会はブースを借りて出展していた。同じアフリカで実施されている B to B プロモーションの最先端である観光見本市視察は、見本市自体の規模の大きさやプロモーションにかかる予算配分など、研修生にとってエチオピアとの違いを認識する機会となった。また他アフリカ諸国のブースを訪問し、各ブースの装飾を視察、他国で実施されているコミュニティ観光商品の運営体制について協議することで、他アフリカ諸国のプロモーション手法及び他国の観光商品の多様性を学ぶ機会となった。

## b) WTM 出展

WTM 出展中の 3 日間で、計 43 名がシミアン観光圏のブースを訪れ、そのうち 23 件が具体的な商談に結びついた。また、近隣国立公園視察のため出展を行わなかった第 4 日にブースに設置した分を含め、紙のブローシャーは 327 部、ブローシャーのデータを e-ブローシャー化して Discover SIMIEN ロゴ付きの USB に保存したものを計 50 個、それぞれ配布した。更に在英エチオピア大使館の協力の下、同大使館に計 200 枚のブローシャーを設置した。一回の出展では費用対効果を測るのは難しいが、プロモーション実践の場として有意義であったと判断する。

## (2) B to B プロモーション

### A. 1 年次の活動

B to B プロモーションに係る活動は、2 年次前半に検討したプロモーション実行プランに沿って 2 年次後半から活動が開始された。さらに 2 年次後半に 3 年次プロモーション実施方針で詳細計画を策定した。詳細活動について、下記「2 年次の活動」以降を参照のこと。

### B. 2 年次の活動

#### a. エチオピア国内 TO との意見交換会

##### 1) 活動概要

B to B プロモーションの一環として、エチオピア国内 TO との意見交換会を開始した。第一回目はアディスアベバの TO を対象とした。下記に開催概要、開催目的及び主要議題を記載する。

##### a) 意見交換会開催概要

	開催日	開催場所	SMNP 関係者	参加 TO
第 1 回	2012 年 12 月 11 日	アディスアベバ	8 名	7 社

##### b) 意見交換会開催目的及び主要議題

	開催目的	主要議題
第 1 回	a) プロジェクト紹介 b) SMNP が着地として提供するサービスレベルに対する送客側の評価の認識 c) 送客側また顧客の視点に立った改善すべき課題の明確化、 d) 着地側で提供できるサービス情報を送客側に提供し、将来的な協働関係の構築	a) SIMCOT プロジェクト概要 b) SMNP 紹介と SMNP におけるプロジェクトの取組 c) SMNP における観光関連事業者が認識する課題 d) 問題解決に向けた意見交換

## 2) 活動成果

第1回意見交換会の開催を通して、SMNPの公的機関及び民間観光関連事業者の代表とアディスアベバTOとの直接対話が実現した。今後緊密にコミュニケーションをとり協力関係を築くことで、双方にとって益となるSMNPにおける訪問客受入体制の改善に取り組むことが確認された。具体的には、課題として挙げられたアディスアベバとSMNP間の情報乖離の問題はアディスアベバのTOとSMNPのサービスプロバイダーとのコミュニケーション強化によって改善されると期待される。また意見交換会后、アディスアベバのTO協会の協会長がEWCAシミエン公園事務所を訪問し、TO協会としてSMNPにおける訪問客受入体制の改善（新規トイレや新規キャンプサイト建設など）へのサポートを提案した。

### C. 3年次の活動

#### a. エチオピア国内TOとの意見交換会（商談会）

##### 1) 活動概要

2年次に引き続き、エチオピア国内TOとの意見交換会（商談会）を継続開催した。開催概要を下記に明記する。

##### a) 意見交換会（商談会）開催概要

アディスアベバ	開催日	開催場所	SMNP関係者	参加TO
第2回	2013年8月20日	アディスアベバ	6名	12社
第3回	2014年2月6日	デバルク	7名	6社
第4回	2014年5月26日	アディスアベバ	3名	30社
ゴンダール	開催日	開催場所	SMNP関係者	参加TO
第1回	2014年5月22日	ゴンダール	6名	6社

##### b) 意見交換会（商談会）開催目的及び主要議題

アディスアベバ	開催目的	主要議題
第2回	a) 村落観光商品の紹介 b) TO協会からSMNPデスティネーションにおける顧客サービス向上に寄与するプロジェクトやプログラムに対する金銭的支援の申し出があり、SMNPデスティネーションからの提案内容説明 c) 着地側で提供できるサービス情報を本意見交換会を通じて更新することで将来的な協働関係の構築	a) SIMCOTプロジェクト概要 b) SMNPの現状／マーケット分析から抽出される課題 c) 村落観光商品紹介 d) ビレッジ・ガイドの役割紹介 e) SMNPからTO協会への提案 f) 意見交換

第3回	a) 着地側のサービス情報の定期的提供 b) 村落観光商品のブリーフィング c) 将来的な公的機関と民間業者及び送客側と着地側の民間業者の協働関係の構築	a) SMNP 最新マーケット情報共有 b) 村落観光商品ブリーフィング c) ジャナモラ及びバイエダにおける観光資源紹介 d) 意見交換
第4回	a) プロジェクト紹介 b) 着地側のサービス情報の定期的提供 c) 村落観光商品のブリーフィング d) 公的機関と民間業者及び送客側と着地側の民間業者の将来的な協働関係の構築	a) プロジェクト紹介 b) SMNP 最新マーケット情報共有 c) デバルク最新宿泊施設やサービス情報共有 d) 村落観光商品ブリーフィング e) 意見交換
ゴンドール	実施目的	主要アジェンダ
第1回	アディスアベバ TO 対象に実施された第4回商談会と同様	アディスアベバ TO 対象に実施された第4回商談会と同様

## 2) 活動成果

第2回目の意見交換会（商談会）から、プロジェクトで開始した SMNP マーケティング分析結果を意見交換会の場を活用して共有している。1つの観光目的地がマーケットの最新状況を分析、民間事業社と共有しているのはエチオピアにおいて初めての試みであり、TO が意見交換会（商談会）に参加する一つの動機づけとなっている。また開発中の村落観光商品について、プログラム自体に真正性があるか（プログラムの時間や内容）、普段の生活を見せるのにキャンセル料を支払う必要があるのか、ツアー料金に何が含まれているのか、ツアー人数の制約などに対して、旅行事業社の視点で有意義なコメント／アドバイスが出され、それらのアドバイスを商品開発に反映させていくことができた。

第3回目の意見交換会（商談会）はデバルク（着地側）で開催した。TO にとっては最新の現地情報収集の機会、着地側のサービスプロバイダーにとっては直接 TO と意見交換することでお互いの理解が深まり、将来的な協働関係を構築する最初の一步となった。また公共の利益を追求する役割を担う公的セクターと、実際ビジネスを行っている民間セクターの考え方を忌憚なく意見交換することで、時には利益相反する両セクターがお互いの立場を理解しながら、協働で解決すべき課題に対処する素地が構築された。

ゴンドールでの第1回目の意見交換会（商談会）は、官民が協働で議論できる初めての取組であったという点、また新規開発された村落観光商品はコミュニティにも裨益し、また TO にも新たな価値を提供する点で大変好評であった。また官民双方から、継続してほしいというコメントが挙げられた。

第4回目の意見交換会（商談会）では、エチオピア TO 協会を通して広く募集したため、老舗大手の TO から新規の会社まで、幅広い参加を得た。ゴンドールと同様の理由で高評価となっており、またプロジェクトとしても広くプロジェクト活動を周知する良い機会となった。



## b. エチオピア国内 TO 対象ファムトリップ

### 1) 活動概要

B to B プロモーション研修の一環としてファムトリップを実施した。ファムトリップ実施の目的は、①C/P 機関及びプロジェクト終了後の活動継続機関が B to B プロモーション手法のひとつであるファムトリップについて実施に係る実務的なノウハウを習得するとともに TO との人的ネットワークを構築する、② TO に向けた村落観光商品販売促進、③ 旅行事業者の視点に基づいた商品改善、受入環境整備上の課題抽出である。実施したファムトリップ概要と各旅程を以下に記載する。

第 1 回ファムトリップは村落観光商品の販売準備が整う前に旅行事業実務者の目からアドバイスを得るためゴンダールの TO を対象とした。第 2 回目はアルギン村の村落観光商品がほぼ完成し、それまで意見交換会などで積極的にプロジェクトに関与してくれたアデイスアベバの TO を対象に実施した。第 3 回目は、アルギンの村落観光商品の販売準備が整ったため、エチオピア TO 協会を通してファムトリップ参加者を募集、受け入れを行った。

#### a) ファムトリップ概要

	開催日	研修対象者	招聘 TO (実質参加数)
第 1 回	2013 年 6 月 1 日～3 日	8 名	ゴンダール：2 社 (1)
第 2 回	2014 年 2 月 6 日～8 日	7 名	アデイスアベバ：15 社 (6)
第 3 回	2014 年 5 月 30 日～6 月 1 日	7 名	ゴンダール：2 社 (2) アデイスアベバ：22 社 (14)

b) ファムトリップ日程

【第1回】

	日程	スケジュール
1日目	2013年6月1日 (土) アルギン訪問	7:00 ~ 8:30 ゴンダール発、デバルク着
		8:30 ~ 10:15 車でトレッキング出発場所へ移動
		10:15 ~ 10:45 アルギンサテライトセンターへトレッキング
		10:45 ~ 10:55 アルギンサテライトセンターにてフリーフィング
		10:55 ~ 11:15 最初のツアープログラム場所へ移動
		11:15 ~ 12:00 インジェラ作り体験
		12:00 ~ 12:15 ツアープログラムへのフィードバック
		12:15 ~ 12:20 次のツアープログラム場所へ移動
		12:20 ~ 13:15 コーヒーセレモニー体験
		13:15 ~ 13:30 ツアープログラムへのフィードバック
		13:30 ~ 14:00 車とのミーティングポイントへ移動
		14:00 ~ 15:15 デバルクへ
		15:30 ~ 17:30 ビジネスミーティング
		2日目
9:00 ~ 9:10 ジョナサテライトセンターにてフリーフィング		
9:10 ~ 9:30 最初のツアープログラム場所へ移動		
9:30 ~ 10:00 機織り体験		
10:00 ~ 10:15 ツアープログラムへのフィードバック		
10:15 ~ 10:45 次のツアープログラムへ移動		
10:45 ~ 10:55 ヘアードレッシング体験		
10:55 ~ 11:00 ツアープログラムへのフィードバック		
11:00 ~ 11:05 次のツアープログラムへ移動		
11:05 ~ 11:20 鍛冶屋体験		
11:20 ~ 11:30 ツアープログラムへのフィードバック		
11:30 ~ 12:00 次のツアープログラムへ移動		
12:00 ~ 13:00 タッラ(ローカルビール)作り体験		
13:00 ~ 13:15 ツアープログラムへのフィードバック		
13:15 ~ 13:45 ジョナサテライトセンターへ		
13:45 ~ 15:15 デバルクへ		
15:30 ~ 17:30 ビジネスミーティング		
3日目	2013年6月3日 (月)	8:30 ~ 10:00 デバルク発、ゴンダール着 プログラム終了

【第2回】

	日程	スケジュール
1日目	2014年2月6日 (木)	7:40 ~ 8:45 アジスアベバ発、航空機にてゴンダールへ
		9:00 ~ 11:30 ゴンダール到着後、デバルクへ移動
		11:30 ~ 12:00 休憩
		12:00 ~ 14:00 コック協会によるウェルカムランチ
		14:00 ~ 17:00 商談会
		17:00 ~ 18:00 デバルクホテル訪問
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
2日目	2014年2月7日 (金)	7:30 ~ 10:30 デバルク発、チェネクキャンプサイトへ
		10:30 ~ 11:00 チェネクキャンプサイト訪問後、サテライトセンターへ移動
		11:00 ~ 11:20 サテライトセンターでのブリーフィング(お土産販売含む)
		11:20 ~ 11:30 2グループに分け、各グループで村落観光商品体験
		11:30 ~ 14:30 インジェラ作り、ローカルビール作り、コーヒーセレモニー
		14:30 ~ 15:00 ピレジットツアー体験終了後、ミーティングポイントへ
		15:00 ~ 17:00 デバルクへ(途中、シミエンロッジ訪問)
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
3日目	2014年2月8日 (土)	7:30 ~ 8:00 朝食
		8:00 ~ 9:00 ゴンダールへ移動
		9:00 ~ 10:30 途中、コソイエロッジ訪問
		10:30 ~ 11:00 ゴンダール空港へ
		13:15 ~ 14:20 航空機にてアジスアベバへ
		プログラム終了

【第3回】

	日程	スケジュール
1日目	2014年5月30日 (金)	7:40 ~ 8:45 アジスアベバ発、航空機にてゴンダールへ
		9:00 ~ 11:00 ゴンダール到着後、ゴンダールホテル訪問
		11:00 ~ 12:30 デバルクへ移動
		12:30 ~ 13:00 休憩
		13:00 ~ 14:30 デバルクのホテルでランチ
		14:30 ~ 17:00 公園事務所及びデバルクホテル訪問
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
2日目	2014年5月31日 (土)	7:30 ~ 10:30 デバルク発、チェネクキャンプサイトへ
		10:30 ~ 11:00 チェネクキャンプサイト訪問後、サテライトセンターへ移動
		11:00 ~ 11:20 サテライトセンターでのブリーフィング(お土産販売含む)
		11:20 ~ 11:30 2グループに分け、各グループで村落観光商品体験
		11:30 ~ 14:30 インジェラ作り、ローカルビール作り、コーヒーセレモニー
		14:30 ~ 15:00 ピレジットツアー体験終了後、ミーティングポイントへ
		15:00 ~ 17:00 デバルクへ(途中、シミエンロッジ訪問)
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
3日目	2014年6月1日 (日)	7:30 ~ 8:00 朝食
		8:00 ~ 9:00 ゴンダールへ移動
		9:00 ~ 10:30 途中、コソイエロッジ訪問
		10:30 ~ 11:00 ゴンダール空港へ
		13:15 ~ 14:20 航空機にてアジスアベバへ
		プログラム終了

2) 活動成果

第1回~第3回を通して、参加 TO の満足度は高く、商品化するという声も高かったが、実際の送客数増加にはつながらなかった。

第3回ファムトリップは、TO協会を通して参加募集を実施、参加TOの数も多かったので、参加TO及び研修対象者であったC/Pからのフィードバックを下記に要約する。

【参加TOからのフィードバック】

ポジティブ	ネガティブ
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 非常に面白い取り組みだった。全体としての印象は非常にポジティブである。</li> <li>- ぜひとも商品化したいと思う。そのためにコンタクト・パーソン、催行条件の明確化をお願いしたい。</li> <li>- ツアー代金の何%が実際に住民に届くのか、明確にして欲しい。</li> <li>- 村落観光商品のアクティビティも興味深かったが、アルギン村に至るまでのトレッキングルートが素晴らしかった。</li> <li>- 過去にもこのプロジェクトのファムトリップに参加したがその時と比較すると100倍良くなっている。本当に感動した。明日からでも送客したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 依然としてのトイレ、緊急事態への対応等の課題が解決されていない。そのあたりが解決されないとツアー客は難しい。</li> <li>- チップについては、個人的に住人に渡さずにコミュニティ全体で集めるという考え方を徹底した方が良い（ただし、チップはあくまで個人的に渡すものであるべきとの意見も少数あり）。</li> <li>- 全体としてちょっと長過ぎる。もう少しコンパクトなプログラムにできないか。</li> <li>- トレッキングの道が悪い。年齢層の高い旅行者には難しい。もう少し整備してはどうか。</li> </ul>

【C/Pからのフィードバック】

アルギンだけであったがビレッジツアーを実際にTOに見てもらえて良かった。今後も是非協力して、何とか送客してもらえるような土壌を整えたい。

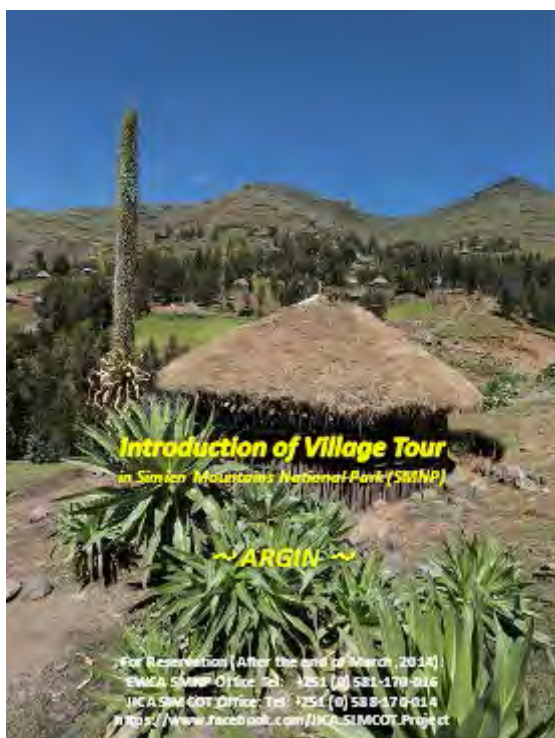
c. B to B プロローシャー作成

1) 活動概要

アディスアベバ及びゴンダールのTOに対して、アルギン村落観光商品を紹介するためにフライヤーを作成した。シミエン国立公園における新規村落観光商品開発の目的を各TOが理解し、現在販売しているシミエン国立公園を扱うツアーに組み込んでもらうことを目的としている。

2) 活動成果

2014年5月に開催したゴンダール及びアディスアベバのTOとの商談会に向けて、アルギンだけでなくアンバラスにおける村落観光商品を紹介するプロローシャーを作成予定であった。しかしながら、サテライトセンター建設の遅れに伴い、アンバラスにおける訓練にも遅れが生じ、2014年5月の段階でアンバラス村落観光商品の販売の目途が立たなかった。そのため、下記のアルギンのみの村落観光商品を掲載したフライヤーを作成、配布した。



**Programs**

<b>Coffee Ceremony</b> about 20 minutes  1. Welcoming & Introduction 2. Washing coffee beans 3. Roasting coffee beans 4. Grinding coffee beans 5. Boiling coffee 6. Pouring coffee 7. Tasting & Comments 8. Farewell greetings	<b>Injera Baking</b> about 20 minutes  1. Welcoming & Introduction 2. Showing barley 3. Grinding barley 4. Filtering flour 5. Making dough 6. Baking injera 7. Tasting & Comments 8. Farewell greetings	<b>Tella Making</b> about 20 minutes  1. Welcoming & Introduction 2. Showing ingredients 3. Showing Dadd (before and after fermentation) 4. Ready for extraction 5. Pour water and extracting 6. Tasting & Comments 7. Farewell greetings
--	---	--

**Where is Argin Village ?**  
Argin Village is located 4.5km distance from the Entrance 40 minutes walking between Argin and Churruu waterfalls.

**Program Duration & Price**  
[1 program: 2.5 hours]  
1 person: ETB 400, over 2 persons: ETB 200  
[3 programs: 4 hours]  
1 person: ETB 600, over 2 persons: ETB 300

**Terms and Conditions**  
Maximum number: 8 persons  
\*\*100% refund 9 persons or more (lasted and group)  
Cancellation Policy:  
By 2 and 3 days: 50% of tour price  
By 1 day before and the day of tour: 100% of tour price

**Simien Community Tourism (SIMCOT) Project**  
SIMCOT Project is one of the technical cooperation projects by Japanese International Cooperation Agency (JICA). The Project supports communities with generating income through tourism by developing village tour. Once communities get able to obtain sufficient income through tourism, it is expected they gradually reduce and abandon agricultural and grazing lands inside the national park. This leads to de-listing of SMNP from the list of World Heritage in Danger.

**D. 4年次の活動**

**a. エチオピア国内 TO との意見交換会（商談会）**

1) 活動概要

SIMCOT チャリティ協会が正式に認可を受け、今後エチオピア国内 TO との意見交換会（商談会）も協会が継続実施することになる。そのため、SIMCOT チャリティ協会の紹介及び今後の企画運営の技術移転を目的に下記の内容で開催した。

a) 意見交換会（商談会）開催概要

	開催日	開催場所	SMNP 関係者	参加 TO
第 5 回	2015 年 8 月 13 日	アディスアベバ	6 名	24 社

b) 意見交換会（商談会）開催目的及び主要議題

	開催目的	主要議題
第 5 回	a) SIMCOT チャリティ協会紹介 b) 着地側のサービス情報の定期的提供 c) 村落観光商品のブリーフィング d) 公的機関と民間業者及び送客側と着地側の民間業者の将来的な協働関係の構築	a) SIMCOT チャリティ協会紹介 b) SMNP 最新マーケット情報共有 c) デバルク最新宿泊施設やサービス情報共有 d) 村落観光商品紹介 e) 意見交換

## 2) 活動成果

第五回意見交換会（商談会）は、SIMCOT チャリティ協会が主導、C/P 機関と協力しながら、TO への招待状送付、参加確認、開催場所の手配・調整、企画運営を実施した。意見交換会（商談会）に参加した TO からも、権限委譲がなされているとの評価であった。

### b. エチオピア国内 TO 対象ファムトリップ

#### 1) 活動概要

3 年次と同様の目的で、4 年次もファムトリップを継続企画した。実施したファムトリップ概要と各旅程を以下に記載する。TO との意見交換会（商談会）と同様、プロジェクト終了後は、SIMCO-CA が活動を継続することになる。今後の企画運営の技術移転を目的に下記の内容で開催した。

2015 年 5 月に行われた第 4 回目のファムトリップは遅延していたアンバラスの村落観光商品の準備が整ったタイミングに合わせ、SMNP への送客数の多い TO を招聘して実施した。2015 年 9 月の第 5 回目は、SIMCOT=CA 並びに関連 C/P への最終的な技術移転を目的に、アルギン及びアンバラス村両村を含めて企画した。

また、第 4 回目と第 5 回目の間（2015 年 9 月 23 日～25 日）に、エジプトをベースにする日本人 TO とそのパートナーであるエチオピア TO を受け入れ、日本人旅行者への訴求活動を目的としたファムトリップも実施した。

#### a) ファムトリップ概要

	開催日	研修対象者	招聘 TO（実質参加数）
第 4 回	2015 年 5 月 6 日～8 日	2 名	ゴンドール：1 社（1） アディスアベバ：13 社（11）
第 5 回	2015 年 9 月 30 日～10 月 2 日	-	ゴンドール、アディスアベバ：8 社（8）

b) ファムトリップ日程

【第4回】

	日程	スケジュール
1日目	2015年5月6日 (水)	7:40 ~ 8:45 アジスアベバ発、航空機にてゴンダールへ
		9:00 ~ 11:00 ゴンダール到着後、ゴンダールホテル訪問
		11:00 ~ 11:30 コソイエロッジへ移動
		11:30 ~ 12:30 コソイエロッジ見学
		12:30 ~ 13:30 コソイエロッジにてランチ
		13:30 ~ 14:30 デバルクへ移動
		14:30 ~ 15:00 休憩
		15:00 ~ 17:00 公園事務所及びデバルクホテル訪問
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
2日目	2015年5月7日 (木)	7:00 ~ 10:00 デバルク発、チェネクキャンプサイトへ
		10:00 ~ 10:30 チェネクキャンプサイト訪問後、サテライトセンターへ移動
		10:30 ~ 10:50 サテライトセンターでのブリーフィング(お土産販売含む)
		10:50 ~ 11:00 3グループに分け、各グループで村落観光商品体験
		11:00 ~ 13:30 インジェラ作り、ローカルビール作り、コーヒーセレモニー、鍛冶屋、機織り、理髪体験
		13:30 ~ 14:00 サテライトセンターでのフィードバック
		14:00 ~ 17:00 デバルク経由ゴンダールへ
		19:00 ~ 21:00 関係者会議
		3日目
10:00 ~ 10:30 タイエホテル案内		
10:30 ~ 11:00 ゴンダール空港へ		
13:15 ~ 14:20 航空機にてアジスアベバへ		
プログラム終了		

【第5回】

	日程	スケジュール	
1日目	2015年9月30日 (水) アンバラス訪問	7:40 ~ 8:45 アジスアベバ発、航空機にてゴンダールへ	
		9:00 ~ 11:00 ゴンダール到着後、デバルクへ移動	
		11:00 ~ 12:00 デバルクにて昼食	
		12:00 ~ 13:30 アンバラスサテライトセンターへ移動	
		13:30 ~ 13:50 サテライトセンターでのブリーフィング(お土産販売含む)	
		13:50 ~ 15:30	グループに分け、各グループで村落観光商品体験
			1. インジェラ作り+伝統手工芸体験
			2. ローカルビール作り+ 伝統手工芸体験
		3. コーヒーセレモニー+伝統手工芸体験	
15:30 ~ 18:00 デバルクへ			
19:00 ~ 21:00 関係者会議			
2日目	2015年10月1日 (木) アルギン訪問	7:30 ~ 10:30 デバルク発、チェネクキャンプサイトへ	
		10:30 ~ 11:00 チェネクキャンプサイト訪問後、サテライトセンターへ移動	
		11:00 ~ 11:20 サテライトセンターでのブリーフィング(お土産販売含む)	
		11:20 ~ 11:30 グループに分け、各グループで村落観光商品体験	
		11:30 ~ 14:30 インジェラ作り、ローカルビール作り、コーヒーセレモニー	
		14:30 ~ 15:00 ビレッジツアー体験終了後、ミーティングポイントへ	
		15:00 ~ 17:00 デバルクへ(途中、シミエンロッジ訪問)	
		19:00 ~ 21:00 関係者会議	
		3日目	2015年10月2日 (金)
8:00 ~ 9:00 ゴンダールへ移動			
9:00 ~ 10:30 途中、コソイエロッジ訪問			
10:30 ~ 11:00 ゴンダール空港へ			
13:15 ~ 14:20 航空機にてアジスアベバへ			
プログラム終了			

## 2) 活動成果

ファムトリップ開催にあたり C/P 機関及び SMCOT チャリティ協会への技術移転に留意したが、SIMCOT チャリティ協会は専任であるため問題ないが、C/機関については機関内でのコミュニケーションの問題で調整に時間がかかり担当が直前まで決まらない等、適切な情報共有及び技術移転に限界があった。第 4 回ファムトリップには、団体旅行客を多くシミエン国立公園に送客している上位 3 社が参加した。団体旅行客の取り込みが可能である村落観光商品を第四回ファムトリップでは紹介しており、積極的な営業活動を継続することで 4 年次の繁忙期における送客数の増加を目指した。

### c. B to B ブローチャー作成

#### 1) 活動概要

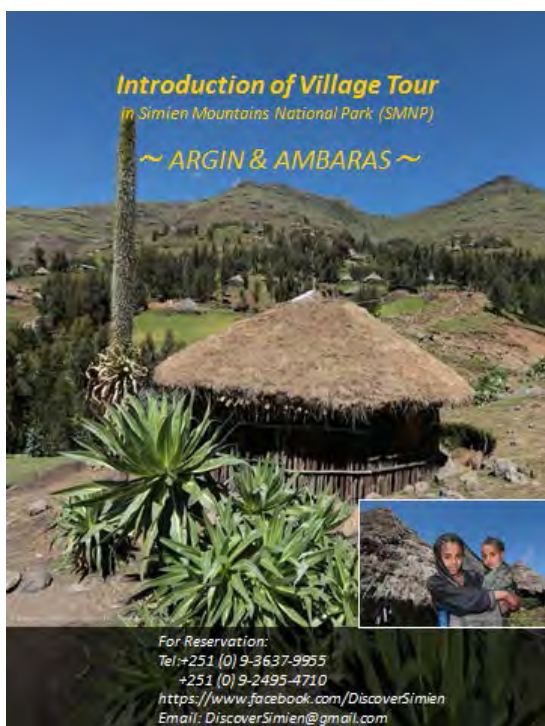
アディスアベバ及びゴンダールの TO に対して、アルギン村及びアンバラス村の村落観光商を紹介するためにブローチャーを作成した。シミエン国立公園における新規村落観光商品開発の目的を各 TO が理解し、現在販売しているシミエン国立公園を扱うツアーに組み込んでもらうことを目的としている。そのため、ブローチャーには、① 村落観光商品の目的、② 村落観光商品提供場所（地図付き）、③ 体験プログラム内容、④ 体験プログラムを組み合わせたコース（2.5 時間～4 時間）、⑤ 各コースの料金及び最大受入人数、⑥ 申し込み方法、⑦ 申し込み締め切り日、⑧ キャンセレーションポリシーの内容を含めている。各 TO からの詳細な問い合わせについては、前述のエチオピア国内 TO を対象とした営業活動でフォローする体制を整えた。

#### 2) 活動成果

2015 年 5 月にアルギン村の村落観光商品販売の目途がたったため、アルギン村と同様にアンバラス村の村落観光商品紹介のフライヤーを作成、2015 年 8 月に両フライヤーを統合し、下記のブローチャーを完成させた。

プロジェクト終了後、SIMCOT チャリティ協会ではブローチャーを更新していく必要があり、担当者が簡単かつ頻繁に内容が更新できるようにイラストレーターなどのソフトウェアを使用せずにパワーポイントで作成、プリンター印刷で対応できるようにした。





### Programs

Weaving about 30 minutes	Black Smith about 30 minutes	Hair Dressing about 20 minutes
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Cleaning cotton</li> <li>3. Spinning cotton</li> <li>4. Showing weaving</li> <li>5. Showing final products</li> <li>6. Comments</li> <li>7. Farewell greetings</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Showing materials</li> <li>3. Blowing work for burning charcoal and making metals hot and red</li> <li>4. Hammering for shaping metal pieces</li> <li>5. Putting the metals out of the fire and make it cold</li> <li>6. Comments</li> <li>7. Farewell greetings</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Showing working materials</li> <li>3. Separating hair into pieces</li> <li>4. Combing</li> <li>5. Showing hairdressing</li> <li>6. Comments</li> <li>7. Farewell greetings</li> </ol>
Coffee Ceremony about 40 minutes	Injera Baking about 1 hour	Local Beer Brewing about 1 hour
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Roasting snack</li> <li>3. Washing coffee beans</li> <li>4. Roasting coffee beans</li> <li>5. Grinding coffee beans</li> <li>6. Boiling coffee</li> <li>7. Pouring coffee</li> <li>8. Blessing by elder</li> <li>9. Tasting &amp; Comments</li> <li>10. Farewell greetings</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Showing barley</li> <li>3. Crushing barley</li> <li>4. Grinding barley</li> <li>5. Filtering flour</li> <li>6. Making dough</li> <li>7. Baking injera</li> <li>8. Blessing by elder</li> <li>9. Tasting &amp; Comments</li> <li>10. Farewell greetings</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcoming &amp; Introduction</li> <li>2. Showing 4 ingredients</li> <li>3. Crushing and grinding ingredients</li> <li>4. Tasting and smelling direct</li> <li>5. Ready for extraction</li> <li>6. Pour water and extracting</li> <li>7. Showing fresh chunko and koroffe with snack</li> <li>8. Blessing by elder</li> <li>9. Tasting &amp; Comments</li> <li>10. Farewell greetings</li> </ol>

### Location & Tour Duration

#### Where is Argin Village ?

- Argin village is located 43km distance from Park Entrance.
- 10 mins trekking from Chennek campsite to the entrance of Argin village (junction along main road)
- 40 mins trekking from Chennek campsite to the Argin satellite center.



#### Tour Duration (Argin)

Total tour duration includes trekking from / to the entrance of Argin village and satellite center.

1 Program: 2.5 hour  
2 Program: 3.5 hours  
3 Program: 4 hours

You can customize your tour by choosing favorite programs out of 6 programs. Depending on choice of programs, the duration of tour differs.



#### Where is Ambaras Village ?

- Ambaras village is located 38km distance from Park Entrance.
- 1 hour drive from Simien Lodge
- 30 mins drive from Sankaber Campsite
- 15 min drive from Chennek Campsite.



#### Tour Duration (Ambaras)

**Short Course:**  
It is conducted around Ambaras satellite center, located close to main road.

1 Program: 1 hour  
2 Program: 1.5~2 hours  
3 Program: 2~2.5 hours

**Long Course:**  
It includes walking around the Ambaras village.

1 Program: 2~2.5 hours  
2 Program: 3.5~4 hours  
3 Program: 4~4.5 hours

You can customize your tour by choosing favorite programs out of 6 programs. Depending on choice of programs, the duration of tour differs.

### Voices from Tourists

"You could see how really people live."  
"The intimacy and genuineness of families were great!"



### Prices

- [1 Program]**  
1 person: ETB 400  
2 persons and more: ETB 200
- [2 Programs]**  
1 person: ETB 500  
2 persons and more: ETB 250
- [3 programs]**  
1 person: ETB 600  
2 persons and more: ETB 300

### Terms and Conditions

**Maximum number:**  
6 persons \*\*per one group  
\*\*If it exceeds 6 persons, it can be divided into groups.

**Reservations:**  
Kindly be requested 2 days before

**Cancellation Policy:**  
1 day before: 50% of tour price  
The day of tour: 100% of tour price

### Payment

Tour fee is charged at each satellite center. An official receipt is issued by the registered cooperative in each village. Souvenir products made by villagers are also available at each satellite center.

### Your Contribution

Tour fee you pay goes directly to villagers who work as a guide and host family, as well as to the savings of newly established cooperatives. Tips also goes to the savings, which contribute to whole village in order to improve their livelihood.

### Simien Community Tourism Charity Association (SIMCOT-CA)

SIMCOT-CA has been established in June 2016. One of the objectives of its establishment is to rehabilitate the natural environment back to its original form and for villagers to be able to have a better life than they do now in a sustainable manner through the independent operation of community based tourism that utilizes the environment as a resource. Moreover, it is to make the SMNP and its surrounding areas recognized as one of the tourism destinations representing not only ethiopia but also all of Africa by utilizing not only the natural resources and already known, but also by maximizing potential cultural resources while at the same time having tourists contribute to the restoration of the values of the world natural heritage as oriented through their participation in the tourism promotion autonomously offered by the communities.



## d. エチオピア国内 TO 向け営業活動

### 1) 活動概要

アディスアベバ、ゴンダール、デバルクにおける合計六回にわたる商談会や合計五回のファミトリップの実施を通じ、プロジェクトはエチオピアの TO 協会や各 TO に対し一定

の発信力、認知度を有するまでになっている。しかしながら、具体的なツアーに村落観光商品を盛り込むためには、村落観光商品の契約、催行に関する質問や料金設定、決済等に関する調整等、各社に対して細やかなフォローを行う必要がある。そのため、プロジェクト終了後村落観光商品のマーケティング・プロモーション活動を担う組織である SIMCOT チャリティ協会の担当者が定期的にエチオピア国内 TO を訪問し営業活動を実施している。

## 2) 活動成果

アディスアベバやゴンダールの TO 訪問の際に配布する「プロモーション・マテリアル・パック」を作成した。「プロモーション・マテリアル・パック」には、プロジェクトで作成したシミエン国立公園ブローシャーに加え、① 村落観光商品価格表、② プロモーション・フィルム、③ シミエン国立公園およびビレッジ・ツアーの画像ファイル、④ e ブローシャーの四点が含まれている。シミエン国立公園およびビレッジ・ツアーの画像ファイルは、各 TO のウェブサイトを通じた宣伝活動に活用できる。

### e. 日本人旅行者を対象とした営業活動

#### 1) 活動概要

2014 年に日本とエチオピア両政府間で直行便の就航が合意され、2015 年 4 月にエチオピア航空が就航した。それ以前からエチオピアの経済成長の高さは注目を浴びていたが、エチオピア航空の就航を機に、日本国内における投資セミナーや 2015 年秋には日経 BP 社主催による「アフリカ-日本・ビジネス投資フォーラム」がアディスアベバで開催されるなど、貿易や投資などの動きが活発化している。日本の旅行会社でもエチオピア単独のパンフレットを作成する会社などもあり、エチオピア航空の就航により日本人旅行者を対象とした営業活動も現実味を増してきた。

上述の流れの中で、大手旅行会社の 1 つである HIS がこれまでのパターン化したツアーとの差別化を図るために社会貢献などの要素をツアーに含めたいということで、シミエン国立公園における村落観光商品に興味を示してくれた。そこで HIS 本社および HIS の中で秘境を扱う HIS ネイチャーワールドに対して村落観光商品を紹介した。

#### 2) 活動成果

シミエン国立公園及び村落観光商品を含めたエチオピアのツアーとして下記の新規ツアーが造成され、2016 年新年からウェブサイト (<http://www.natureworld.jp/tour/NW-ETE8043-HY>) を通じて販売開始となった（添付資料 (4)）。ツアーの催行時期は 2016 年 3 月～10 月の予定である。また HIS が発行する旅の情報誌である「旅通信」にも掲載予定である。

### (3) B to C プロモーション

#### A. 1 年次の活動

B to C プロモーション活動は、2 年次後半に策定した「マーケティング戦略」及び「プロモーション計画」に基づいて主に 3 年次より実施したため、1 年次には特定の活動は行っていない。

#### B. 2 年次の活動

##### a. Facebook ページの立ち上げと運用

###### 1) 活動概要

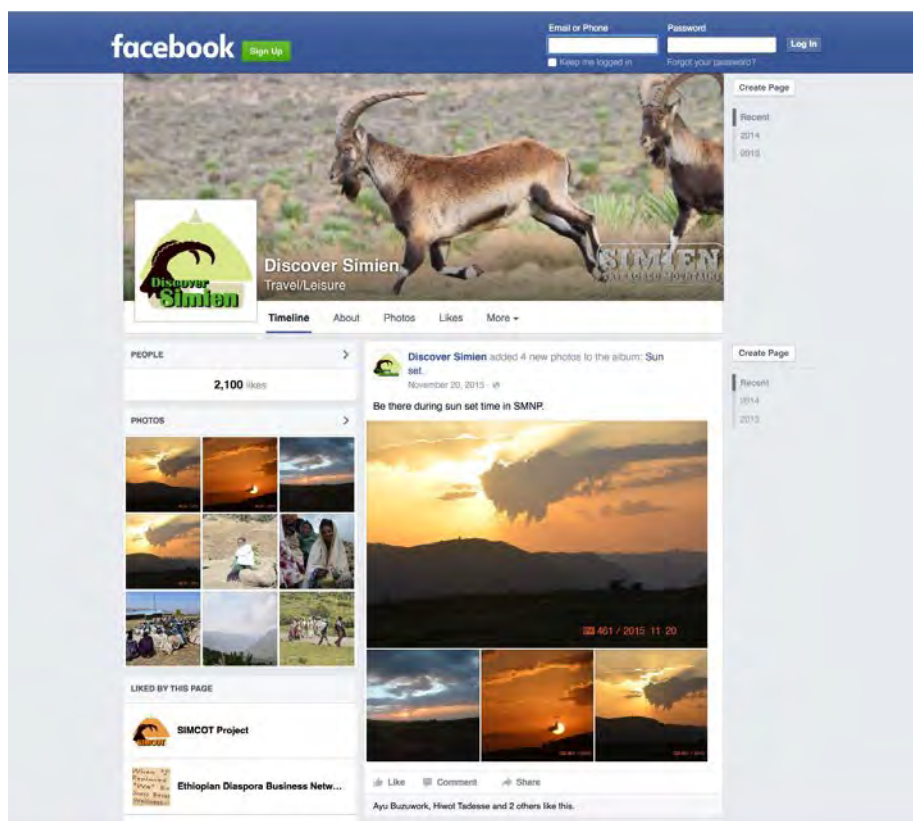
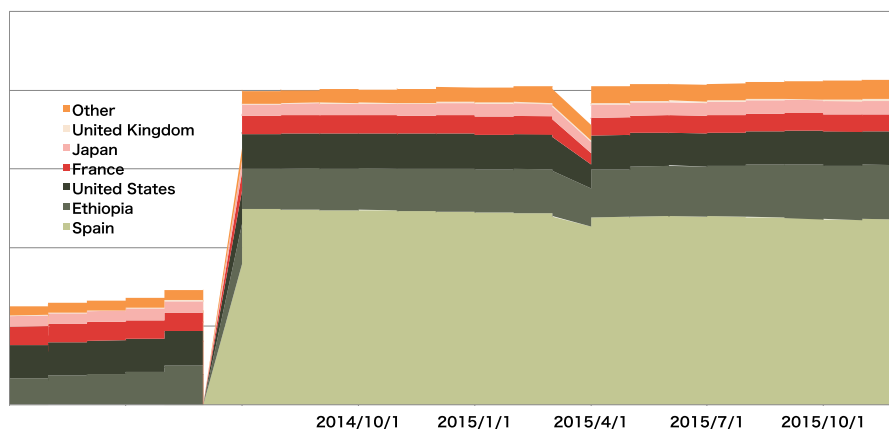
プロジェクト開始当初より C/P からはプロモーション・マテリアル開発を期待する考えが重ねて表明されてきたが、本来は、個々のプロモーション活動の戦略的位置づけを定めたマーケティング戦略が策定されて初めて、マテリアルの作成等が可能になる。そこで、マーケティング戦略策定に向けた協議を行う段階で、同時並行的に行える効果的なプロモーション活動として Facebook ページを立ち上げ、各種の情報提供を行うこととした。

Facebook ページの立ち上げにあたっては、北部ゴンダール・ゾーン文化観光事務所のシマリス氏、EWCA シミエン公園事務所のスタイヨ氏、プロジェクトのローカルスタッフと日本人専門家からなる「管理チーム」を構成し、Facebook ページの構築や掲載する情報の取捨選択等に関する具体的な技術移転と、B to C プロモーション活動の実施を同時に行う枠組みを構築した。

###### 2) 活動成果

Facebook ページ「Feel & Save Simien」は立ち上げから 1 週間で 50 を超える「いいね」を獲得し、その後、ページの名称を「Discover Simien」へと変更し、有料広告を打つなど実用的なプロモーション・ツールとして活用した結果、2015 年 12 月末の時点で 2099 の「いいね」を獲得した。エチオピア国内の観光関連ページでは、エチオピア航空に次ぐ「いいね」数を誇るページへと成長した。国籍別では、雨季の訪問が多いスペイン向けに行った広告が奏功しスペインが最多となっており、次いで、エチオピア、アメリカ、フランスとなっている。

また Facebook のメッセージ機能を通じたツアーへの問い合わせや申し込み等も増えており、着実に成果をあげている。



## C. 3年次の活動

### a. ブローチャー（第1版）の作成

#### 1) 活動概要

ビレッジ・ツアーのトライアル等が段階的に開始されると同時に、旅行博への出展等におけるプロモーション・マテリアルの頒布の必要性が生じたことから、発地及び国内経由地（アデイスアベバ等）での頒布を想定した「シミアン観光圏ブローチャー」と、ビレッジ・ツアーに主としてデバルクでの頒布を想定した「ビレッジツアー・ブローチャー」の2種類を作成した。

## 2) 活動成果

「シミエン観光圏ブローチャー」については、アディスアベバ市内のホテルのほか、ゴンダール市内の観光案内所等でも頒布を行った。またイギリスで開催された WTM でも入場者に配布し、好評を得た。「ビレッジツアー・ブローチャー」については、主としてデバルクの公園事務所で掲出・頒布を行った他、ゴンダール市内の外国人旅行者に人気のロッジでも掲出され、実際のツアーの申し込みにもつながった。



図 2.11 シミエン観光圏ブローチャー



図 2.12 ビレッジツアー・ブローチャー

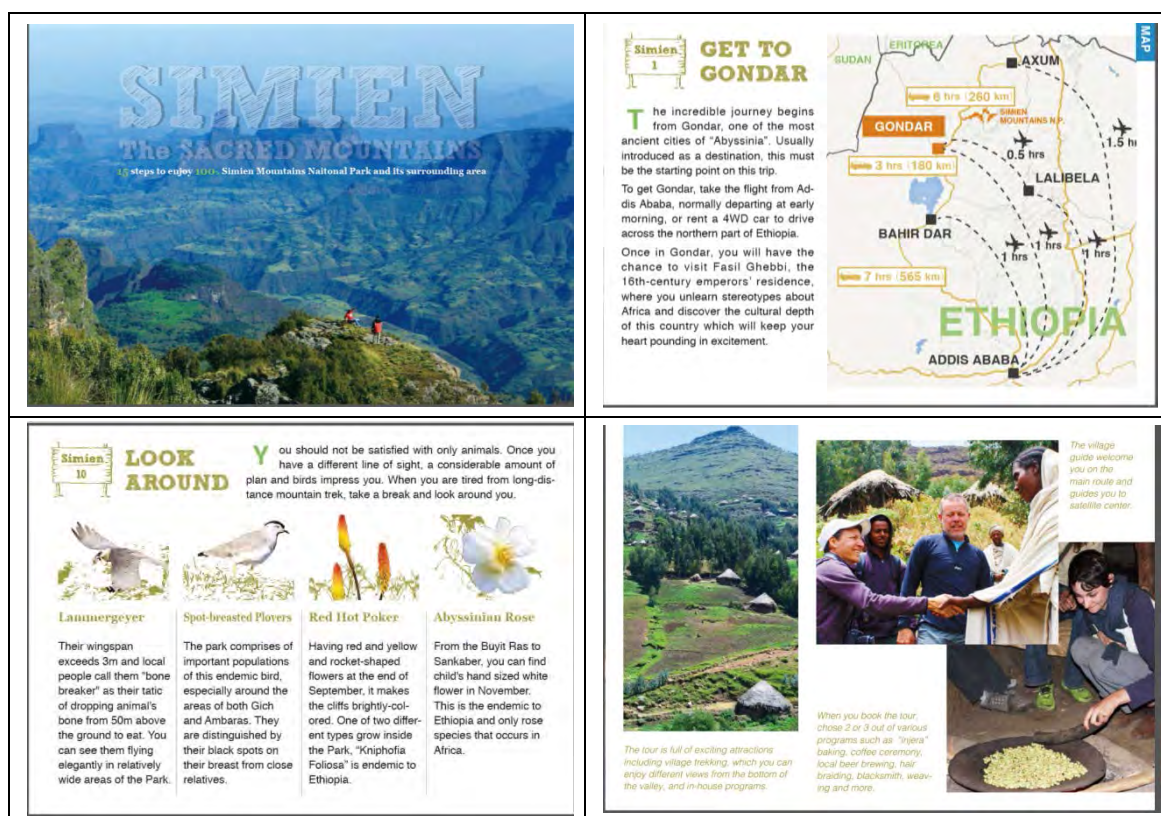
## b. ブローチャー（第2版）の作成

### 1) 活動概要

第1版については、デザインや掲載内容について多方面から好評を得たものの、より充実した内容のブローチャーの制作を多方面から依頼されたことを踏まえ、第2版を制作した。第2版については第1版で好評だったA6サイズを維持しつつ、内容を具体的なアクセスや公園の見所、動植物の紹介や実際に公園を訪れる際の装備等、更に充実したものとした。

### 2) 活動成果

全ページフルカラー印刷の54ページから構成されるブローチャーは旅行者のみならずTO各社からも好評を獲得し、全10,000万部の大半が既に配布された。



## c. エチオピア機内誌『SELAMTA』への記事掲載

### 1) 活動概要

一般的にB to Cプロモーションは、不特定多数を対象にデスティネーションの認知度を高めることを目的としたマス・プロモーションと、接触対象が限定された媒体を用いたターゲット・プロモーションとに大別され、現在は費用対効果の追求がデスティネーション・マーケティングの世界的な課題になっていること、ターゲット・プロモーションが可

能な媒体が増えたこと等を背景に、後者へ主たるプロモーション費用を投入することが潮流となっている。またプロジェクトサイトは世界自然遺産であるシミアン国立公園を有しているものの、それ単体がデスティネーションとして成立するほどの知名度は現時点では有していない。そのため、発地である欧米各国に直接的にプロモーションを行うには時期尚早であると判断される。以上を踏まえ、エチオピア国内外での潜在的旅行者に高い確度で接触可能なエチオピア航空機内誌「SELAMTA」を選択し、有料広告と特集記事の掲載の2本の戦略をもって編集社と調整にあたった。

## 2) 活動成果

2014年9月-10月号において、表紙及び特集記事18ページの掲載に成功した。掲載に当たっては、C/P及び関係機関との綿密な調整のもと、1月に現地取材の受け入れを行い、C/Pと連携して記事の内容に係る調整・確認作業を進めた。なお、同誌は各号10万冊を国内外で発行しており、エチオピア航空の機内のほか、世界各国のエチオピア料理レストラン、政府関係機関等に置かれている。購読者は、北米18%、ヨーロッパ11%、アジア10%など世界各国に及んでおり、HPからはオンライン・マガジンの閲覧も可能になっていることから、相当規模の接触率を有していると推測される。なお、有料広告は見開き1ページ14,875 USDとなっており、仮に本記事を広告として掲載すると、141,312ドル(約1,580万円)が必要になる。その点で、極めて費用対効果が高くマーケティング戦略上も優れたプロモーション活動であったと評価できる。

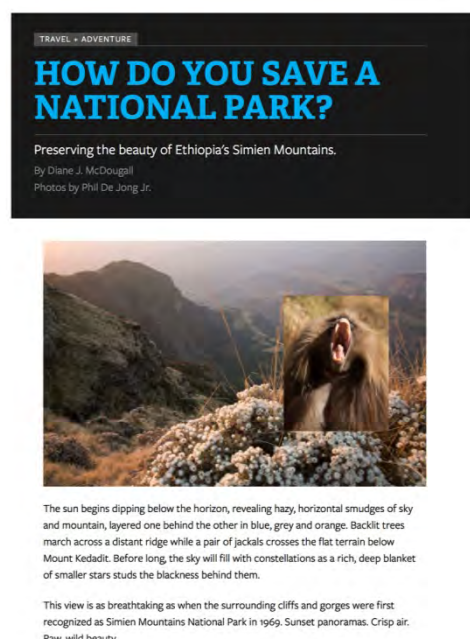


図 2.13 SELAMTA 2014年9-10月号掲載記事及びオンライン・マガジン(一部)

#### d. ゴンダール空港への広告掲示

##### 1) 活動概要

アルギン村のビレッジ・ツアーの開発が最終段階を迎えたことを受け、ゴンダール空港にビレッジ・ツアーの認知度を高めるための広告を掲載した。現状ではビレッジ・ツアーの認知度自体が極めて低いことから、シミエン国立公園の「自然遺産として以外の魅力」への認知を高める点に目的を絞り、詳細は、ゴンダール市内のホテルで問い合わせる仕組みとした。

##### 2) 成果

既に他社の広告が掲示されていたため、結果的にやや旅行者に気づかれにくい場所へ掲示することとなった。ただしファムトリップ参加者からは空港のポスターを見たとの発言が数多く寄せられたことから、一定程度の接触率は有していると思われる。



図 2.14 ゴンダール空港における広告掲示

#### e. 「ガイドブック」への情報提供

##### 1) 活動概要

年間 800 万部と海外旅行向けのガイドブックとして国内最大のシェアを誇る「地球の歩き方」にビレッジ・ツアーに関する情報を掲載した。

##### 2) 成果

4 年次に行った *Selamta* 誌での日本人向けの広告と相まって日本人旅行者および日本の旅行会社における当該ツアーへの認知度が向上し、ファムトリップへの参加や商品造成につながった。





図 2.15 地球の歩き方

## D. 4年次の活動

### a. エチオピア航空機内誌『SELAMTA』への記事掲載

#### 1) 活動概要

4月21日に成田・アディスアベバ線を新規就航させたエチオピア航空の乗客に対して本プロジェクトサイトおよびピレリジ・ツアーのプロモーションを行うことを目的に、機内誌『SELAMTA』に広告を掲載した。

#### 2) 成果

成田線の搭乗客をターゲットとしたため、日本語表記をメインとし、サブとして英語表記を記載するデザインとした。日本市場自体はシミエン国立公園の重点市場ではないが、新規就航に合わせた広告を行うことで、プロジェクト自体への関心、認知度が向上すると考えられる。実際、本広告を見た旅行会社や新聞社がファムトリップの申し込みや新聞取材を行うなど、一定の成果をあげた。



図 2.16 Selamta 広告

**b. エチオピア国内在住外国人向け情報誌『What's Out Addis』への広告掲載**

1) 活動概要

外国人旅行者の有望セグメントの一つであるエチオピア国内に在住の外国人向けのプロモーション活動として、アディスアベバ市内中心にファッションや食に関する情報を発信するフリーマガジンとして好評の『What's Out Addis』に広告を掲載した。

2) 成果

エチオピア国内在住の韓国人やケニア人よりツアーに関する問い合わせを受けるなど掲載から1ヶ月でかなりの効果を上げている。

**AN UNKNOWN SIMIEN IS HERE**

In addition to viewing precious wildlife and spectacular scenery, you can also tour a traditional village located on the outskirts of SIMIEN. Visit villagers in their dwellings, where they continue to practice their original lifestyles, and experience a wide variety of activities like baking injera, brewing local beer, blacksmithing, and many more. Won't you join us for a special tour this weekend?

BLACKSMITH

INJERA BAKING

70% of the tour's cost goes to the residents and the community based tourism management organization operated by the villagers themselves. With this money, the residents can live without needing to expand their agricultural and grazing lands, allowing the park's natural environment to be preserved.

www.discoverSIMIEN.com  
www.facebook.com/DiscoverSimien  
DiscoverSimien@gmail.com

**FOR MORE HERE**

The SIMCOT Village tour is a project run in cooperation with the Japan International Cooperation Agency (JICA) that aims to protect the park while also generating revenue for local residents.

Won't you join us for a special tour this weekend?

In addition to viewing precious wildlife and spectacular scenery, you can also tour a traditional village located on the outskirts of SIMIEN. Visit villagers in their dwellings, where they continue to practice their original lifestyles, and experience a wide variety of activities like baking injera, brewing local beer, blacksmithing, and many more.

**UNKNOWN SIMIEN**

BLACKSMITH

INJERA BAKING

70% of the tour's cost goes to the residents and the community based tourism management organization operated by the villagers themselves. With this money, the residents can live without needing to expand their agricultural and grazing lands, allowing the park's natural environment to be preserved.

www.discoverSIMIEN.com  
www.facebook.com/DiscoverSimien  
DiscoverSimien@gmail.com

**FOR MORE HERE**

The SIMCOT Village tour is a project run in cooperation with the Japan International Cooperation Agency (JICA) that aims to protect the park while also generating revenue for local residents.

図 2.17 What's Out 掲載広告（左 12 月版、右 1 月版）

### 2.8.6 総括

シミエン国立公園を訪れる旅行者は年間およそ 2 万人に達するが、同公園を管理する EWCA が元来国立公園内の自然環境の保護をその主目的としていることから、従来はマーケティングの重要性に対する認識が決定的に不足していた。今日のデスティネーション・マネジメントにおけるマーケティングでは、単に旅行者の数を増やすだけでなく、地域が望ましい旅行者を戦略的に取捨選択し、デスティネーションとしての持続可能性を担保す

ることが世界的にも一般的な考え方になってきており、その意味においてシミエン国立公園におけるマーケティングの強化は、本プロジェクトで開発したビレッジ・ツアーの販売促進策として以上の意味を持つものである。

本プロジェクトで実施したマーケティングに関する取り組みの成果は、大きくはマーケティングのためのデータ収集システムの構築、マーケティング戦略の策定、B2B/B2C 別のプロモーション活動の3つに収斂される。

まず前述のとおりマーケティングという概念そのものが存在しなかった国立公園に、慣習ではなく明確な目的と運用計画を持った制度としての「入園者管理シート」を導入し、定量的なデータの収集が日常的に行われるようになったことは、本プロジェクトの最大の成果の一つであろう。これによって月別、国籍別の傾向が明らかになったほか、園内の周遊パターンについても推測が可能になった。ビレッジ・ツアーについても、こうした定量的なデータに基づいてプログラムの数や全体行程の長さ、プロモーション上の重点ターゲット等を定め、その開発、販売を行っている。

また、マーケティング戦略が策定されたことで、関係者間でマーケティングを行うことの目的や意義が共有され、データの分析からターゲットの選定、それらに訴求するためのプロモーション活動までが一体的に捉えられるようになったこともプロジェクトの成果であると言える。特にプロモーションについては、従来はその意義や方法が漠然と認識され、稀に供給される国やドナーの資金に基づいて散発的且つ場当たりにパンフレット等を印刷してきたが、マーケティング戦略の策定によって特定のターゲット市場に訴求するためのツールとしてのプロモーション活動の位置づけが明確になった。

そして、最も重要且つ影響の大きな活動成果は、戦略的かつ計画的なプロモーション活動の実施である。従来はターゲットとなる顧客層はもちろん、個人の旅行者に対する B2C の活動なのか、観光関連事業者を対象とした B2B の活動であるかについても検討されないまま、限られた規模と方法のプロモーションが無計画に行われてきた。しかしながら本プロジェクトでは、プロモーション活動の戦略性、計画性、そして持続性の重要性を繰り返し関係者化に伝え、限られた予算で費用対効果の高い活動を行うこと、常に国際観光市場の動向や国内の競合デスティネーションの趨勢に注意を払い、常に戦略性と計画性を持って活動を立案、実施するためのノウハウを移転した。また、旅行会社を招請するファムトリップや商談会など、エチオピアでは殆ど行われていなかったプロモーション活動を継続的に実施したことで、国立公園の管理に携わる政府関係者と観光関連事業者という従来は全く交流のなかった主体間のネットワークが構築され、結果的に、エチオピアにおける国立公園管理や観光振興とマーケティングの融合、相互理解の深化の一助にもなったと考えられる。

以上のような活動を、主に3年次から4年次の2年間にわたって実施し、実際にシミエン国立公園の入園者数の増加、ビレッジ・ツアーの認知度の向上および参加者数の増加等の成果をあげた。また、Facebook ページの開設やブローチャーの作成、エチオピア航空の機内誌等での広告など、従来エチオピアの国立公園が行ってこなかった戦略的かつ効果的なプロモーションを行ったことで、政府関係者はもとより、デバルクやゴンダールの幅広い関係者にデスティネーション・マーケティングの実践的なノウハウや技術が移転されたことも、本プロジェクトの当該分野における成果の一つであると指摘できる。

## 2.9 成果 3（商品開発）に関する成果

### 2.9.1 観光商品の造成

#### (1) 対象地域における観光資源の調査・特定



##### A. 1年次の活動

対象地における自然資源以外の観光資源に関して、集落の生活文化に関する踏査を行った。調査対象集落は、村落商品 WG に参加している 4 つのカバレから、下記の条件に基づいて選定した。

- 日帰り団体バスツアーを視野に入れ、道路から徒歩 20 分～30 分程度の距離に位置する場所と、トレッキングツアー客を視野に入れたトレッキングルート上の集落をそれぞれ選定。
- 母屋など、ほとんどの建物の屋根材がトタンではなく、草葺きであること。

調査対象は、村落における日常生活、家内労働、農作業、祝祭、遊戯等に関するもので、調査の結果、新たに拾い上げられた観光資源を下表に示す。

表 2.35 新たに発見された観光資源

新たに価値づける観光資源（文化資源）	動産	農耕具、祭礼時の道具・衣服その他生業や進行、年中行事に関する動産物	農耕具、機織機など	  	
		絵画、彫刻、古文書など歴史性や芸術性の高い動産	教会に残る古文書、十字架、冠など		
	有形資源 不動産	景観資源	建造物		家屋、家畜小屋など
			道		集落間をつなぐ道
			川		川
			畦		農地境界の畦
	空間資源	土地利用形態／集落域	屋敷地、農地、牧野など		
		集落配置パターン／道筋／川筋／農地境界			
	無形物	衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など、人々が日常生活の中で生み出し継承してきた無形物	祭、料理、機織り、建築技術、農業に関連する無形物など		
		音楽、工芸技術など無形の文化的所産	舞踊、音楽など		

## B. 2年次の活動

### a. 対象地域における観光資源の特定

1年次に実施したベースライン調査（主要観光資源調査）の成果を踏まえ、村落観光の素材となりうる観光資源（テーマ）を抽出した。

抽出した観光資源（テーマ）を下表に示す。

表 2.36 村落観光資源（テーマ）

No.	Category	Theme
1	Food preparation	Grain grinding
2		Injera baking
3		Wot/ Sause Preparation
4	Drinks preparation	Coffee ceremony
5		Local beer “Tella” preparation
6	Household items	Sefet/ Knitting grass fiber
7		Gabi/ Weaving cotton
8		Useful plants and trees(Herbs)
9	Life in village	Agriculture
10		Livestock
11		Architecture and community
12	Culture	Hair dressing
13		Games
14		Traditional music
15	Social events	Ceremony
16		Wedding
17		Funeral
18		Church school/education in the village
19		Social justice/Traditional village open air court

### b. 対象地域における村落観光の考え方

エコミュージアムの概念に基づき、観光客が対象地域である SMNP 周辺のコミュニティを訪問し、生活文化を体験する村落観光の概念を設定した。下表に、エコミュージアムの構成要素とシミエン・マウンテンズ・フィールドミュージアム (SMF) における要素の対応を示す。図 2.18 で示される村落観光は、エコミュージアムにおける 1 つのサテライトにあたるが、構造としては集落サテライト自体が一つのエコミュージアムのようにっており、サテライトセンターを拠点として様々な文化・自然資源をトレイルに沿って巡ることになる。

表 2.37 エコミュージアムにおける構成要素と SMF における要素の対応関係

エコミュージアムにおける構成要素	SMF における要素
テリトリー	5 ワレダの行政区、ウナニヤ、コソイエのカバレ界
コア施設	デバルクに置かれる SMF 全体の拠点施設：コアセンター
サテライト	1 つの集落観光サイト全体、ギッチ・キャンプサイトなどのトレッキングルート拠点と周辺の自然資源、イメットゴゴなどの景観資源・自然資源サイト等
ディスカバリートレイル	各サテライトをつなぐ道

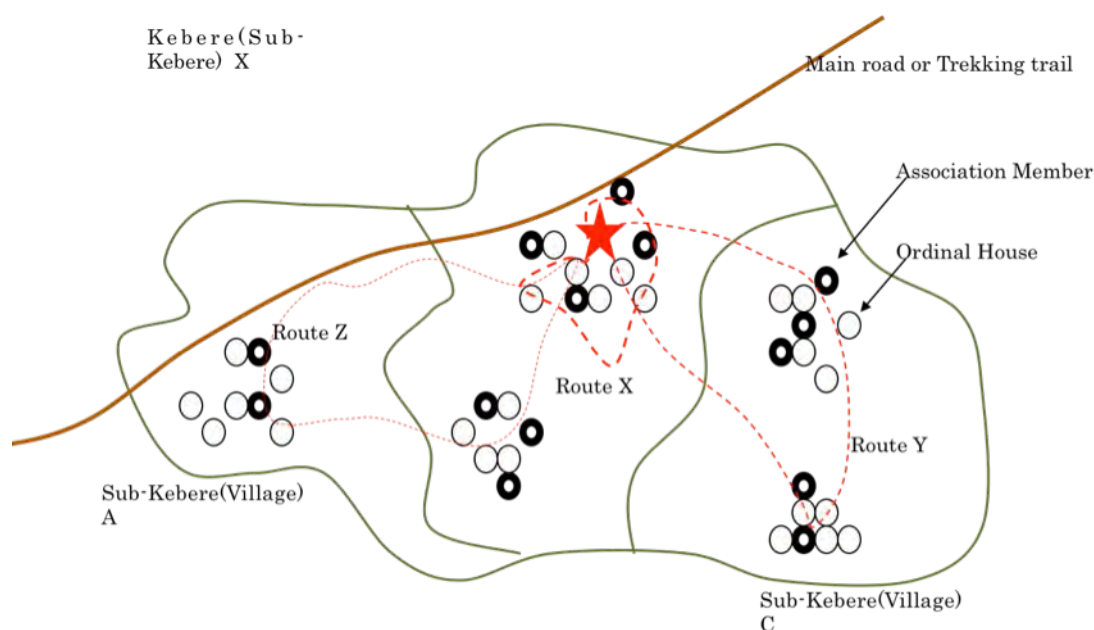


図 2.18 SMNP で展開する村落観光の概念図

### c. 対象コミュニティの選定

村落観光商品の開発を重点的に進める対象コミュニティとして、以下の 4 カバレを設定する。

- アベルギナ（ギッチ）Abergina (Gich)
- ミリゲブサ Milligebsa
- アルギン・ジョーナ Arginjona
- ロリ Lori

各対象コミュニティの概要は表 2.39 に示す。

表 2.38 対象コミュニティの概要比較

	アベルギナ (ギッチ)	ミリゲブサ	アルギン・ジョーナ	ロリ
ワレダ	デバルク	デバルク	デバルク	ジャナムラ
デバルクからの所要時間	車で 1.5 時間のあと、 徒歩 2 時間	車で 30 分 シミエンロッジの周り	車で 2 時間のあと チェネックの手前	車で 3 時間のあと、 徒歩 2 時間
宅地	全て公園内 (移転計画対象)	公園内にもある	公園内にもある (ギッチ の次の移転計画対象)	公園内にある (一部は移転済み)
農地 farm	全て公園内	約半分が公園内	約半分が公園内	一部公園内 (西側斜 面)
車道 Road	なし	あり	あり	なし
トレッキングルート	1 本あり	なし	2 本あり	1 本あり
宿泊施設	ギッチのキャンプとロッジ	サンカバルのキャンプ	チェネックのキャンプ	ソナのキャンプ
これまでの NGO ドナーからの受 益 (学校保健所建設、協会設立 等)	ほぼなし	非常に大きい	大きい	ほぼなし
主な観光資源 (景観、動物、村落文化)	景観、村落文化	村落文化	景観、動物、村落文化	景観、村落文化
宗教	すべてイスラム	キリスト教・一部イスラム	すべてキリスト教	キリスト教・一部イス ラム

1 年次においては支援対象とする (村落観光商品の開発を重点的に進める) コミュニティを上記 4 集落と想定していたが、2 年次においては、支援対象集落数をアルギン・ジョーナの 1 集落へと変更した。これは EWCA からの、公園内居住者が多い集落を支援すると、居住継続のインセンティブを与えてしまうため、支援しないようにとの要請に従ったためである。この変更により、2 年次以降はアルギン・ジョーナ集落を集中的に支援することとした。



表 2.39 対象コミュニティにおける村落観光商品開発の方向性

コミュニティ (カバレ) 名	ミリゲブサ	アルギン・ジョーナ		ロリ
テリトリー	カバレ全体	アンバラス (ダバ及びキフロ・サブカバレ)	アルギン・サブカバレ	カバレ全体
コンセプト	※	丘に暮らす生活	谷に暮らす生活	※
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツアーバス等で来訪する団体客</li> <li>・ 地域の様子をかいま見たい個人観光客</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ツアーバス等で来訪する団体客</li> <li>・ 地域の様子をかいま見たい個人観光客</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本格的なトレッキング客の立ち寄り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本格的なトレッキング客の立ち寄り</li> </ul>
宿泊拠点	デバルク (ゴンダール)	デバルク (ゴンダール)	チェネック・キャンプ	アルクァジエ・キャンプ

※前述した支援対象集落の方針変更に従い、アベルギナ (ギッチ) は割愛している。

また、ミリゲブサ、ロリについては参考情報として掲載している。

#### d. 対象コミュニティにおける空間構成の考え方

##### 1) 前提となる観光客の動向

- 主要なトレッキングルートからは離れていることもあり、現状でアルギン・サブカバレに観光客（トレッキング客）が立ち寄るケースはほとんどない。
- 一方、アンバラス（ダバ・サブカバレ、キフロ・サブカバレ）については、バスツアーなどの団体の観光客が立ち寄ることはある。

##### 2) 機能配置の考え方

- 基本的な考え方として、3つのサブカバレのうち、アルギン・サブカバレについては、ダバ、キフロの2つのサブカバレとは、物理的に距離が離れすぎている感があり、カバレ全体を一つのテリトリーとして位置付けるのは難しいと思われる（ダバとキフロについては隣接し、おおむね連担している）。※自動車で各サブカバレを結ぶという考え方もあるが、その場合体験としてはやや断絶したものとなる可能性がある。
- また、ダバ、キフロ・サブカバレは谷を上がった比較的なだらかな斜面に民家が偏在する集落形態であるのに対し、Argin サブカバレは谷底近くの急な斜面に民家が張り付く集落形態となっており、その様相についても大きな相違がある。
- さらに、ダバ、キフロ・サブカバレはメイン道路に近接しているのに対し、アルギン・サブカバレはメイン道路からのアクセス（図中①'）が急な斜面となっており、（トレッキング客ではない）バスツアーなどの一般観光客がアクセスするのは難しい。
- 以上を踏まえると、3つのサブカバレは同じカバレ内にあるが、村落観光の開発に当たっては、「ダバ、キフロ（アンバラス）」と「アルギン」の2つのテリトリーに分けてそれぞれの性格付けを行うことが望ましいと思われる。

##### a) ダバ、キフロ・サブカバレ（アンバラス）

- アクセスはメイン道路からを想定する。
- コア施設の適地選定に当たっては、「観光客にとっての利便性」と「コミュニティにおける中心性（すなわち、地域住民が観光から利益を享受する機会の公平性）」の両面を考慮し、例えば、小学校の周辺などのキフロ・サブカバレ内の候補地（図中A）、もしくは適切な候補地があればダバ・サブカバレ内の候補地（図中A'）を想定した。

##### b) アルギン・サブカバレ

- アクセスはメイン道路からの急な斜面（図中①'）を避け、またトレッキング客の宿泊拠点からの利便性を考慮し、チェネック・キャンプから谷の斜面をトラバースする形で伸びているルート（図中①）を想定する。※現在はトレッキングルートではなく、どちらかというと地域住民の生活道として利用されている。

- コア施設の適地選定に当たっては、「観光客にとっての利便性」を考慮する場合にはチェネック・キャンプの近傍（図中 B、具体的な位置は未定）、もしくは「観光客にとっての利便性」を考慮する場合には例えば、小学校の周辺などの Argin サブカバレ内の候補地（図中 B'、具体的な位置は未定）が想定される。

※将来に向けた展開案

- 現状では、「アンバラス」と「アルギン」の間を結ぶルートはメイン道路のみとなるが、将来的に谷沿いのトレッキングルート（図中②）が整備されれば、（相応の所要時間は必要となるが）両側に谷が迫る雄大な景色を楽しみながら両テリトリーを結び付けるルートとして位置付けることが可能となる。
- ただし、その際には、キフロあるいはダバから谷への急な斜面を、観光客が安全かつ快適に下りることのできるルートもしくは手段（ラバの利用など）が確保されることが前提となる。

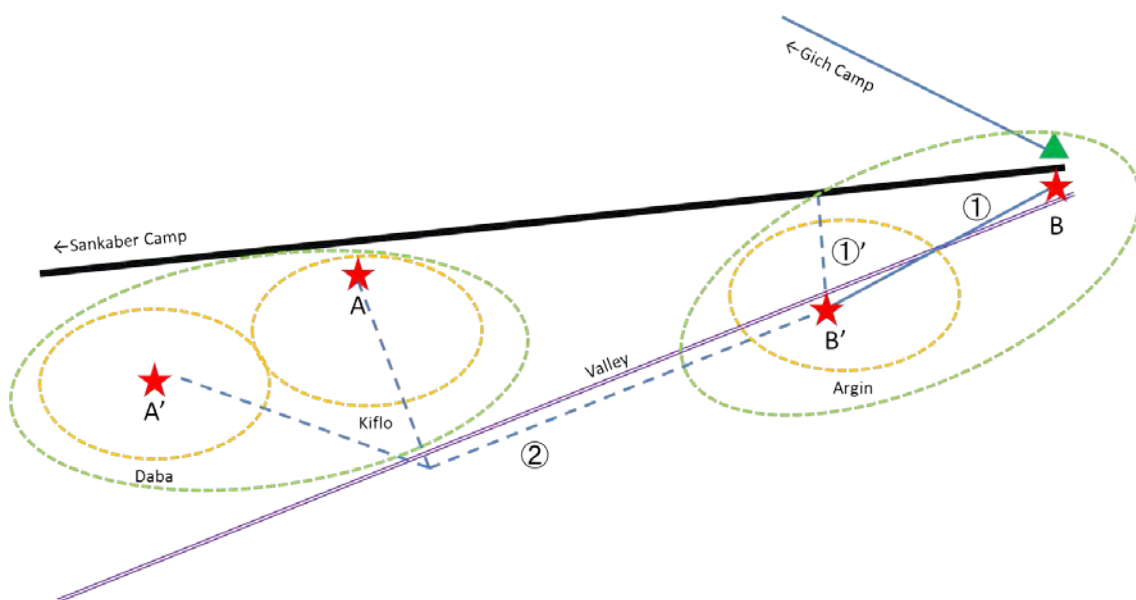


図 2.19 アルギン・ジョーナにおける空間構成の考え方

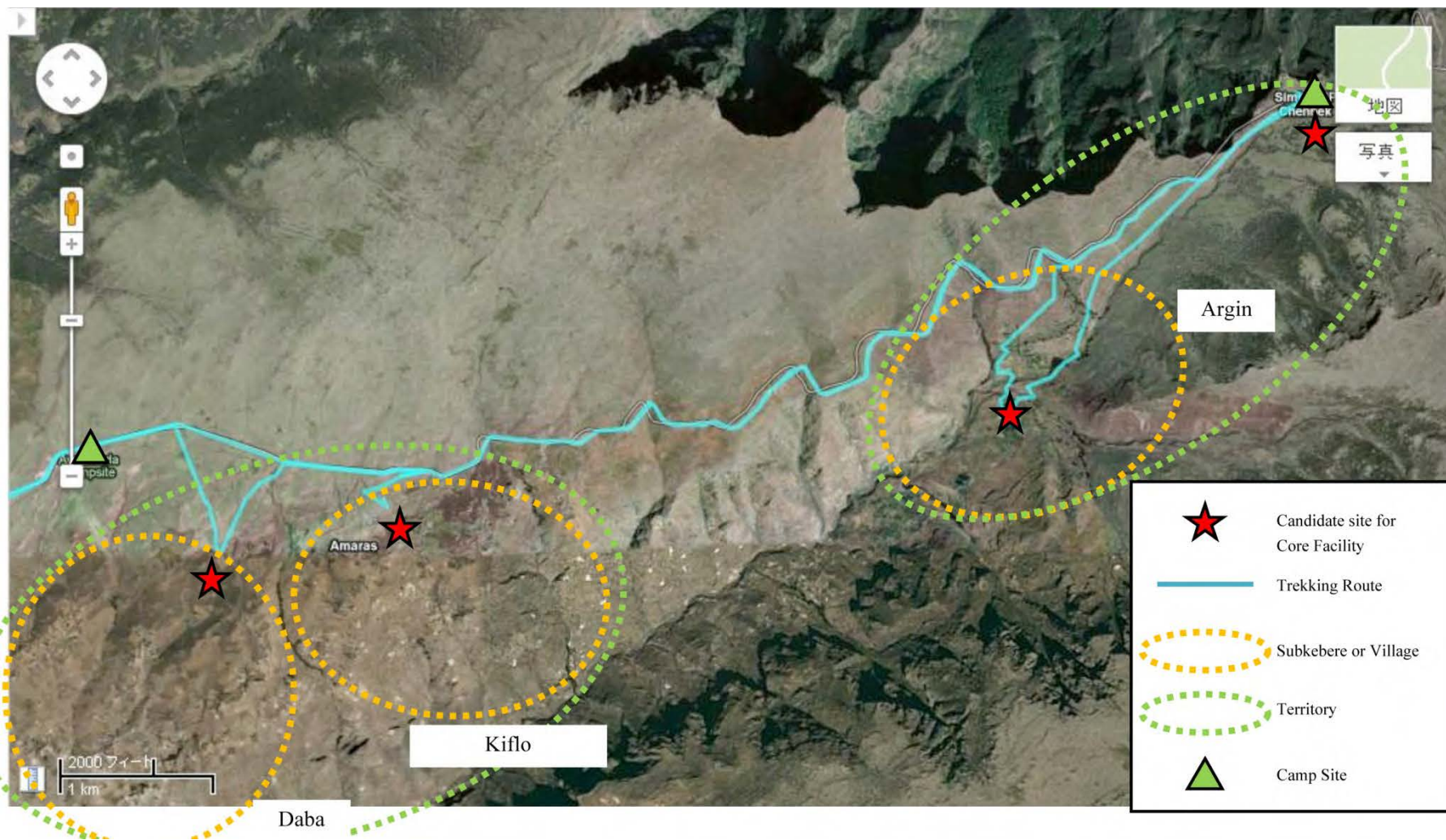


図 2.20 アルギン・ジョーナにおける空間構成

## 2.9.2 村落観光の運営主体

### (1) CTMA の設立

#### A. 1 年次の活動

##### a. CTMA の考え方の整理

各コミュニティにおいて村落観光を実施する体制の考え方を以下のように整理した。

シミアン・マウンテンズ・フィールドミュージアム (Simien Mountains Field Museum: SMF) へ参画する集落の住民に広く観光開発が裨益するようにするため、従来のエコツーリズム開発のように、特定の関心を持つ住民だけが参画するのではなく、集落コミュニティの総意に基づき、集落コミュニティ全員の利益を代表するコミュニティ・ツーリズム・マネジメント組織 (CTMA) を設立する。

CTMA は、観光開発に関するコミュニティの意思を代表し、観光従事者（直接的、間接的）の任命、商品開発、サービスの質の管理、観光開発への再投資資金（コミュニティ・ファンド）の管理等の役割を果たす。また原則として、1 つの CTMA が SMF の 1 つのサテライトを開発・管理する。

また、プロジェクトがシミアン国立公園内において現在優先して支援しているアルギン・ジョーナ・カバレの CTMA は既存の様々なアソシエーションとともに SMF の構成員となり、将来的にはシミアン国立公園内に農地・放牧地を有する各カバレに CTMA が設置されることを想定している。この場合、各 CTMA は独立した事業体（アソシエーション）であると同時に、この連合体（ユニオン）の一員として財団運営にあたることを期待している。これにより統合的予約システム等の整備、政府や自治体、ドナー等への発言力強化、環境保全や観光客へのハラスメント等共通課題への効果的対処等の効果を期待できる。

#### B. 2 年次の活動

##### a. アルギン・ジョーナ・カバレにおける CTMA メンバーの選出

アルギン・ジョーナ・カバレの CTMA メンバーとして、住民集会により各サブカバレから 4 名ずつが選出された。

CTMA メンバーに対しては、村落観光プログラムの開発訓練への参加を求め、商品開発やサービスの質の管理に関する技術移転と能力向上を行った。

日付	内容
2012 年 6 月 12 日	住民集会で、3 つのサブカバレ（ダバ、キフロ、アルギン）に分かれ、合議により 4 人ずつ、計 12 名のメンバーを選出
2012 年 7 月 15 日	住民集会において、CTMA メンバーを確認
2012 年 9 月 4 日～ 12 月 22 日 計 10 回	CTMA メンバーが村落観光開発のプログラム訓練に参加

### C. 3年次の活動

#### a. CTMA メンバーへの研修及びトレーニング

アルギン・ジョーナ・カバレの CTMA は、第3年次にデバルク協同組合事務所への正式な登録を目指し、必要な手続きに関して、協同組合事務所の職員へヒアリングを行うとともに、協同組合事務所の職員による現地での活動視察と CTMA メンバーへの現地でのヒアリングを実施した。

また、CTMA メンバーに対しては、ビレッジ・ツアー・プログラムの開発に関する技術移転と能力向上を目的として、これに関連する各種活動を実施した。

まずは各テリトリーにおけるルート設定を行うために、それぞれのビレッジ・ツアーのプログラムを実施するコアメンバーの住居の場所と各住居間の距離を現地踏査により確認する作業を CTMA メンバーとともに行った。

さらに各テリトリーにおけるビレッジ・ツアーの拠点となるサテライトセンター建設に関しても、CTMA メンバーがコミュニティ側の中心的な立場で活動に携わった。

表 2.40 CTMA に関連する活動

日程	内容
2013 年 5 月 19 日、5 月 20 日	アルギンおよびアルギン・ジョーナの住民集会で、サテライトセンター建設に関する説明を行い、コミュニティ側の協力について確認。
5 月 25 日～6 月 28 日	サテライトセンター建設工事の進捗管理およびビレッジ・ツアーのルート設定に必要な情報収集のために CTMA メンバー、コアメンバーとともに現地踏査を実施。
7 月 8 日～7 月 10 日	CTMA、コアメンバー、ビレッジ・ガイドへのコミュニティ・ツーリズムに関する研修の実施
7 月 12 日～7 月 14 日	コミュニティ・ツーリズム先進地メケット視察に参加 11 日（木）事前ワークショップ、15 日（月）に事後ワークショップを開催

#### b. CTMA のコーポラティブ設立に向けた調査

3年次の中期には、アルギン・ジョーナ・カバレの CTMA のコーポラティブとしての正式登録を目指した調査および手続きの確認を行った。登録に必要な手続きは、デバルク・ワレダのコーポラティブ事務所、EWCA 公園事務所、デバルク・ワレダ文化観光事務所が協力して実施することについて確認した。その後、既存の組織に対する調査を行ったところ、当国立公園の 5 ワレダで約 5,000 人を超えるメンバーを抱えるエコツーリズム・コーポラティブがエコツーリズムに関わる様々な活動を対象とするユニオンとして登録されていることが明らかになった。本来、同一地域で同じ目的、活動のコーポラティブやユニオンを設置することは認められていないため、CTMA の正式登録に対する大きな障害となることが明らかになった。このため、ゾーン・コーポラティブ事務所および州コーポラティブ事務所に、CTMA の正式登録に向けた手続きの進め方について相談を行った。最終的に

は、地域の文化芸術に関するコーポラティブとして設立する方向で進めることが確認された。

### c. アルギンの CTMA コーポラティブ設立

コーポラティブ設立に向けた調査後、アルギン・ジョーナ・カバレの全体集会において、コーポラティブ設立に向けた取り組みについて説明を行い、手続きに取り掛かった。ところが、アルギン・サブカバレ側のコミュニティから 1 つのコーポラティブとして設立することに反対が出てきた。これはアルギン・サブカバレが地理的に離れており、1 つのコーポラティブを設立した場合、実際にアルギン側から参加できる人が少なくなってしまう点、さらにアルギン側ではサテライトセンターの建設もほぼ完了し、トライアルのビレッジ・ツアーを開始していたため、活動の進捗状況が異なる点などの心配からであった。このため、この点についてコミュニティ側と協議を行い、最終的にアルギンとアンバラス（キフロ・サブカバレ、ダバ・サブカバレ）の 2 つを別々のコーポラティブとして設立することとし、まずはアルギンでのコーポラティブ設立の手続きを行った。

2 つのコーポラティブとする点については、これまでデバルク・ワレダのコーポラティブ事務所では、1 つのカバレに同じタイプのコーポラティブは 1 つしか作ってきていないことから、この点については反対があった。そのため、ゾーン・コーポラティブとの協議やコーポラティブ設立に関する規則の確認などを行い、それぞれにコーポラティブを設立する点についての可能性を確認し、合意を得ることができた。

2014 年 5 月 25 日の住民集会において、アルギン・サブカバレとしてコーポラティブの設立について合意を得て、2014 年 10 月 17 日にコーポラティブが登録された。正式名称は“ArginJona Kebele Chennek Community Handicraft Cooperative Association)”となり、当初のメンバーとして 152 人が登録された。

表 2.41 アルギンのコーポラティブ設立に伴う主な活動

日付	内容
2014 年 3 月 11 日	住民ヒアリング (ArginJona Kebele) ・ CTMA およびビレッジ・ツアー関係者 7 名へのヒアリング
3 月 16 日	住民集会 (ArginJona Kebele) 159 名
3 月 30 日	住民集会 (ArginJona Kebele) 177 名
5 月 25 日	住民集会 (Argin Sab-Kebele) 190 名 ・ コーポラティブの名称決定、7 名の委員選出
6 月 4 日	住民集会 (Argin Sab-Kebele) 96 名
6 月 8 日	住民集会 (Argin Sab-Kebele) 199 名 ・ 追加で 3 名の女性委員選出、会費の徴収
6 月 15 日～	コーポラティブ事務所によるコーポラティブ委員へのトレーニング
7 月 26 日	コーポラティブ委員 6 名との定款、活動計画に関するミーティング
7 月 27 日	住民集会 (Argin Sab-Kebele) 181 名 ・ コーポラティブの定款、活動計画の説明
8 月 15 日	デバルクの ACSI (Amhara Credit and Savings Institution) に口座開設

日付	内容
9月23日	コーポラティブ委員2名とのミーティング
9月26日	コーポラティブ委員4名とのミーティング
10月3日	住民集会 (Argin Sab-Kebele) 110名 ・コーポラティブ設立書類への署名完了、設立手続きの終了
10月14日	コーポラティブ登録証明書の発行手数料の払い込み
10月17日	C/P関係者、コーポラティブとのミーティング コーポラティブ登録証明書の発行

#### D. 4年次の活動

##### a. アンバラスのCTMAコーポラティブ設立

アンバラス側については、2014年10月24日のコーポラティブ事務所との協議をスタートに、コーポラティブ事務所が中心に作業を進め、2015年1月12日に正式にコーポラティブが設立された。正式名称は“ArginJona Kebele Ambarass Community Cultural Production Processing Cooperative Association”となり、当初のメンバーは99人が登録された。

##### b. コミュニティ・ワークショップの開催

アルギンとアンバラスの両方のコーポラティブが正式に設立されたのを受けて、コーポラティブ全体でビレッジ・ツアーを進めていく体制を作ることを目的に、2015年6月と11月にビレッジ・ツアーに関するコミュニティ・ワークショップを開催した。

最初のコミュニティ・ワークショップは、2015年5月31日～6月1日に、アンバラスは6月2日～3日に、それぞれの村の小学校を利用して実施した。参加者は、ビレッジ・ツアーの関係者であるファシリテーター、会計担当、ビレッジ・ガイド、デモンストレーターに加え、コーポラティブ委員会のメンバー、土産物製作者とし、アンバラス27人、アルギンは33人であった。ワークショップの日程は表2.42と表2.43に示す。

表 2.42 6月WSのスケジュール第1日 1st day (Am\*: Ambarss, Ar\*: Argin)

	Time	Objective/Questions	Activities
	9:30-10:00/Am* 10:00-10:20/Ar*	Taking attendance and first questionnaire	
1	10:25-11:50/Am* 10:20-11:05/Ar*	1) Introduction of WS 2) What is the concept of Community based tourism? 3) Why is natural protection important in SMNP? 4) What points are important for tourism service? 5) What is the current situation of the village tour?	Sharing information Explain by SIMCOT Explain by EWCA officer Explain by C&T officer Explain by SIMCOT
2	11:50-12:30/Am* 11:05-11:10/Ar*	1) Awareness of current problems of village tour and its causes (Explanation of group discussion and dividing 4 groups, then taking a tea break in Argin workshop. After tea break, they started a discussion)	Group discussion
	12:30-12:50/Am* 11:10-11:40/Ar*	Tea break and question	



	Time	Objective/Questions	Activities
3	12:50–13:40/Am* 11:40–13:40/Ar*	1) Discussing on the solutions of problems 2) Presentation and sharing each results and comments	Group discussion Presentation
4	13:40–13:45/Am* 13:40–13:45/Ar*	Closing	Review of activities
	13:45–14: 00/Am* 13:45–14: 00/Ar*	Tea break and comments	

表 2.43 6月WSのスケジュール第2日 2nd Day (Am\*:Ambarass, Ar\*:Argin)

	Time	Objective/Contents	Activities
	9:30–10:00/Am* 9:30–9:55/Ar*	Taking attendance	
1	9:50–11:40/Am* 9:55–11:10/Ar*	1) Review of previous WS 2) Group discussion to find all activities, natural and cultural resources based on the theme 3) Arrange all resources in season order	Explain by SIMCOT Group working
	11:40–12:05/Am* 11:10–11:30/Ar*	Tea break and question	
2	12:05–12:55/Am* 11:40–12:30/Ar*	1) Share each result of group working and make a phenology calendar of village life	Presentation
3	12:55–13:35/Am* 12:30–13:10/Ar*	1) Indicate all resources on the map 2) Sharing the map information	Group working Presentation
4	13:35–13:45/Am* 13:10–13:25/Ar*	Closing and questionnaire	Review of activities
	13:45–14:00/Am* 13: 25–13:45/Ar*	Tea break and getting questionnaire of after program	

11月のコミュニティ・ワークショップは、アルギンとアンバラスの関係者をデバルクに集めて1日間の日程で開催した。参加者は、前回の参加者に加え、アルギン・ジョーナ・カバレ長とマネージャー、各コミュニティのスカウトの代表者を加えたアンバラス35人、アルギン51人であった。

ワークショップでの検討内容は、6月はビレッジ・ツアーに関する問題点とその解決策、村のフェノロジーカレンダーづくりの要素抽出、村の概要を示す地図づくりで、これらの内容について各グループで討議を行い、発表を通じて全員で共有した。11月は6月のワークショップ内容を受けて、それぞれのコミュニティで2グループに分かれて、ビレッジ・ツアーに関する問題と解決策の現状と今後の取り組み、フェノロジーカレンダーの情報整理を行い、参加者全体で共有した。ワークショップの日程は表2.44に示す。

6月と11月の2回のワークショップを通じて、それぞれのコミュニティによるビレッジ・ツアーの実施能力を高め、将来的に主体的に運営できる基礎づくりを行った。

表 2.44 11月WSのスケジュール

	Time	Objective/Questions	Activities
	9:00–9:40	Taking attendance and first questionnaire	
1	9:40–9:43 9:43–9:55 9:55–10:17 10:17–10:45	1) Opening 2) Introduction of WS 3) Presentation of importance of natural heritage 4) Presentation of importance of cultural heritage	EWCA Explain by SIMCOT Explain by EWCA officer Explain by C&T officer
	10:45–11:20	Tea break and question	
2	11:20–12:35	1) Group working to make phenology calendar 2) Presentation and share results	Group discussion by 4 groups, 2 of each community
	12:35–14:10	Lunch	
3	14:10–15:05 15:05–15:40	1) Discussing on the solutions of problems 2) Presentation and sharing each results and comments	Group discussion Presentation
	15:40–16:05	Tea break and question	
4	16:05–16:45 16:45–16:55 16:55–17:30 17:30–17:50	1) Discussion on operation of village tour 2) Presentation and shre results 3) Information about CA and Workshop in Addis Ababa 4) Explanation on participants of WS in Addis Ababa	Review of activities
	17:50–17:55	Tea break and comments	
	17:55–18:15	Fulfill the questionnaire	

2016年1月17日には、コミュニティ基金を利用したコミュニティ活動計画案の策定のためのワークショップを開催した。これは、ビレッジ・ツアーの収入から蓄えられているコミュニティ基金を地域全体へ還元するための基本的な考え方と、コミュニティ基金を使ったアクションプランを各コミュニティで計画することを目的として行われたものである。将来的にこの活動はコーポラティブ委員会が主導的に担っていくことから、コーポラティブ委員会のメンバーとアルギン・ジョーナ・カバレからカバレ長とカバレマネージャーが参加し、グループ討議形式での実施とした。参加人数は、各コーポラティブ委員からアンバラス9人、アルギン10人、アルギン・ジョーナ・カバレから2人の合計21人であった。ワークショップの日程は下表に示す。

表 2.45 1月WSのスケジュール

	Time	Objective/Questions	Activities
	9:30–10:20	Taking attendance, preparation of discussion space	
1	10:20–10:40 10:40–11:50	1) Opening, Introduction of WS 2) Group discussion on village problems	Explain by SIMCOT Each community group
	11:50–12:00	Tea break and question	
2	12:00–12:45	1) Group discussion on solutions	Each community group
	12:45–14:30	Lunch	
3	14:40–15:15 15:15–16:05	1) Presentation on results of discussion 2) Group discussion on on community action plan	Group leaders Each community group
	16:05–16:20	Tea break and question	
4	16:20–16:35 16:35–16:40 16:40–16:50 16:50–17:00	1) Presentation on results of discussion 2) Conclusion of group discussion 3) Explanation on participants of WS in Addis Ababa 4) Conclusion of WS	Group leaders SIMCOT SIMCOT C&T officer

今回のワークショップでは、各コミュニティの計画案を作成するための検討プロセスを体験してもらった。まず、各地域の課題とその原因を探り、その解決策を見つけだした。次に、これらの課題の中で優先順位の高いものを選び出し、そのための活動とそれをどのように進めていくかについて検討した。このコミュニティ計画案は第一案として位置づけ、今後、このコミュニティ計画案は、各コーポラティブの全体会議により承認され、るとともに、それぞれの地域の状況に合わせて変更され、将来的にこれらの計画が実施されていくことにより、コミュニティ全体への裨益を実現していくこととなる。

### 2.9.3 ツアーの受入れ及び催行システム

#### (1) 村落観光商品の実施手順

##### A. 1年次の活動

村落観光の受入れの実施手順の検討については、対象地域の選定後の2年次から実施した。

##### B. 2年次の活動

C/P 機関、CTMA およびコアメンバーとの議論により、村落観光の受入れの実施手順を以下のように設定した。

##### a. 事前対応

###### 1) コミュニティ内で受け入れ可能日の調整

- 申し込みの割り当てに公平を期すため、CTMA は体験を提供するコアメンバーとコミュニティ内を案内するビレッジ・ガイドの予定を定期的を確認し、「どの日に」「どの体験が」受け入れ可能なのか集約しておく。

###### 2) 観光客から村落観光ツアーへの申し込み

- パークオフィス案内所（電話もしくは直接対応）における受付を基本とする。（将来的にはインターネット上での受付システムの導入を検討する）
- 申し込みは2日前までとする。
- 申し込み受け付け時にキャンセルポリシーを伝達する。

###### 3) コミュニティにおける実施の準備

- 申し込みのあった体験について各 CMTA へ日時、人数を伝達する。（携帯電話等）
- 観光客から体験の申し込みがあったのち、CTMA はあらかじめ決めた割り当てに従って観光客を振り分ける。
- 当日までに必要な材料や人材について準備する。

## b. 当日対応

### 1) 総合ガイドランス

- 観光客はパークオフィス案内所（トレッキング客は対象コミュニティのコア施設）にて、認定ガイド※が、料金、体験の内容、工程、所要時間、安全管理上の注意点について説明。
- 料金精算（ガイド料、ミュール、スカウト等、CTMA への支払い分以外）

#### ※認定ガイド

デバルク・ワレダ文化観光事務所が実施する試験を受け、SMNP 内で主にトレッキング客を案内する。英語によるコミュニケーション能力を有する。現在約 60 名が認定されている。

### 2) 対象コミュニティへの移動

- トレッキング客・・・徒歩
- 個人観光客・・・自動車、ミュール
- 団体観光客・・・団体バス

### 3) 対象コミュニティにおける村落観光の実施

- ビレッジ・ガイド※と合流し、サテライトセンターにて導入のためのオリエンテーションを実施する。
- その後、観光客は村内の各文化資源をビレッジ・ガイドの案内で周遊する。認定ガイドはビレッジ・ガイドのアムハラ語による解説を英語に通訳するため観光客に帯同する。
- プログラム終了後、サテライトセンターにて振り返りと村落観光の料金精算、評価シートの記入を行う。
- 観光客はサテライトセンターにて展示物の鑑賞や、土産品を買う。（図 2.21）

#### ※ビレッジ・ガイド

村落観光商品においては、文化資源が有する本来の価値と合わせて、住民から選定されるビレッジ・ガイドが提供する解説やガイドランスが大きな付加価値を生む。ビレッジ・ガイドは、デバルク・ワレダ文化観光事務所が認定するため、同事務所の認定基準や選定方法に基づき選考される。

### 4) 解散・対象コミュニティより移動

- トレッキング客・・・徒歩
- 個人観光客・・・自動車、ミュール
- 団体観光客・・・団体バス

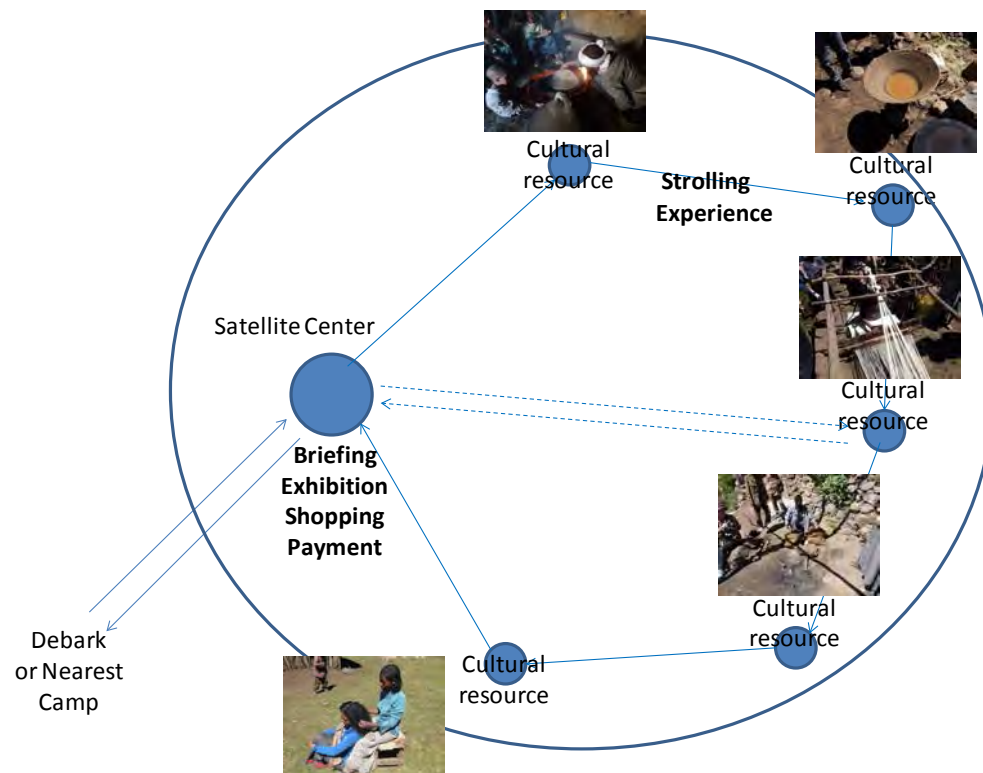


図 2.21 対象コミュニティで展開する村落観光の概念図

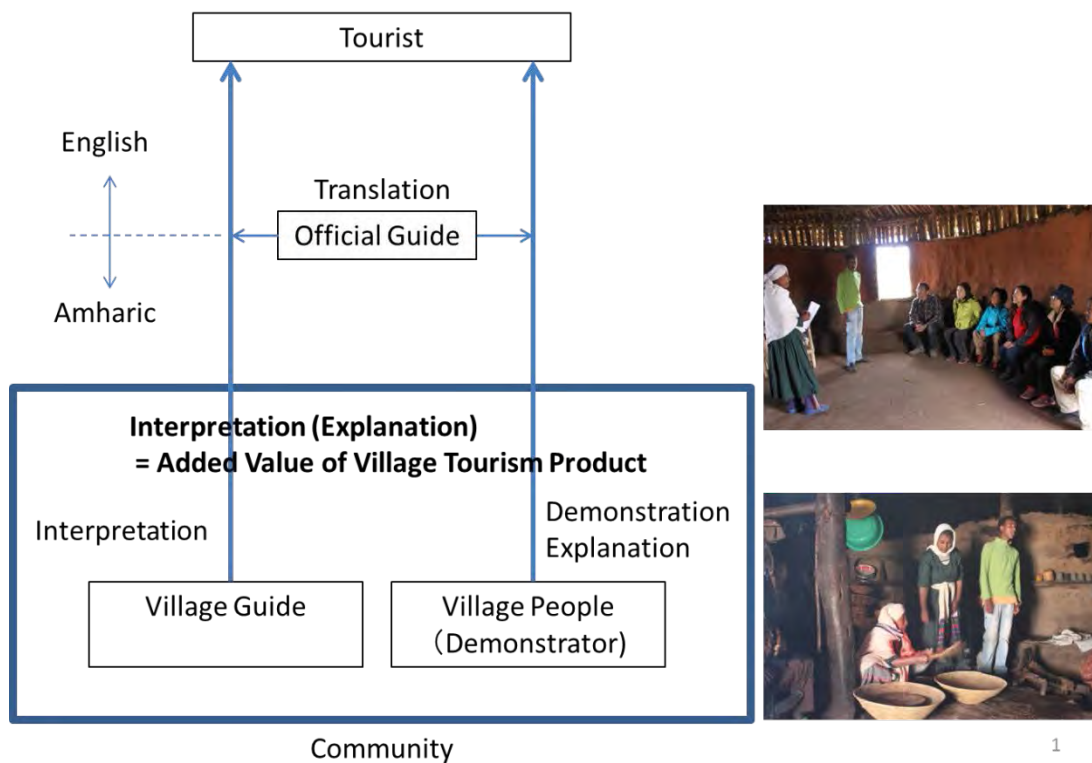


図 2.22 村落観光商品における住民、ガイド、観光客の関係

**c. 村落観光商品において観光客に提供される体験プログラムのテーマ**

CTMA およびコアメンバーとの検討により、観光客に提供するプログラムのテーマとして7種類を選定し、最終的に薬草を除く6種類を村落観光プログラムとして設定した。

プログラム名	想定されるプログラムの内容 ※観光客はこのうちの一部を見学・体験する
コーヒーセレモニー	挨拶／導入／豆を洗う／豆を煎る／豆を挽く／コーヒーをポットからカップに注ぐ／振り返り／終了の挨拶
インジェラ焼き	挨拶／導入／バーリーを砕く／バーリーを挽く／ざるで漉す／インジェラを焼く／インジェラを試食する／振り返り／終了の挨拶
地ビール	挨拶／導入／モルトの粉を作る／ビールブレッドを焼く／ビールの素の説明／ビールの素をかき混ぜる／地ビールの試飲／振り返り／終了の挨拶
機織り	挨拶／導入／糸つむぎ／機織り実演・体験／ガビ試着／振り返り／終了の挨拶
鍛冶屋	挨拶／導入／炭の火起こし／ハンマーを使った整形／焼き入れ・冷却／振り返り／終了の挨拶
髪結い	挨拶／導入／髪結いの準備／櫛入れ／髪結い／櫛入れ／振り返り／終了の挨拶
薬草	挨拶／導入／病気の種類毎に解説／薬草の観察／



コーヒーセレモニー



インジェラ焼き



地ビール



機織り



鍛冶屋



髪結い



薬草

## (2) サテライトセンターの整備

### A. 1年次の活動

サテライトセンターの整備は、対象地域の選定後の2年次以降から実施した。

### B. 2年次の活動

アルギン・ジョーナ・カバレにおいて村落観光のモデルを作っていくことを目的に、村落観光の核となるサテライトセンターの建設を、コミュニティと一体となって開始した。

#### a. 機能

村落観光におけるサテライトセンターの機能は、村落観光ツアーの事前準備としての受け入れ調整、連絡、実施準備、さらに当日の総合ガイドンス、サテライトでのプログラムの実施後の振り返り等となる。施設内の主な利用としては、レセプション及び運営管理、地域情報の提供、地域産物の展示販売、休憩スペースとなる。また、各テリトリーの村落観光の品質向上、問題共有や解決のための会議、研修活動にも活用できるものとする。

#### b. 対象村落の概要

今回の村落観光の対象としているアルギン・ジョーナ・カバレは、3つのサブカバレにより構成されているが、これまでの検討を踏まえ村落観光の開発に当たっては「アンバラ

ス」と「アルギン」の2つのテリトリーに分けてそれぞれの性格付けを行うこととした。各テリトリーで想定されるコンセプト、ターゲット、主なアクセス方法は以下のとおりである。

テリトリー	コンセプト	ターゲット	主なアクセス方法
アンバラス（ダバ、キフロ・サブカバレ）	丘に暮らす生活	団体客、地域の様子を垣間見たい個人観光客	デバルク（ゴンダール）、シミエンロッジからのツアーバス等の車両利用
アルギン（アルギン・サブカバレ）	谷に暮らす生活	本格的なトレッキング客の立ち寄り	チェネック・キャンプからのトレッキングルート（現在は地域住民の生活道として利用）

### c. 対象地の選定

サテライトセンターの建設サイトは、それぞれのコミュニティ内で協議した結果、以下の場所に決定した。

アンバラス：アクセスはメイン道路からを想定しており、「観光客にとっての利便性」と「コミュニティにおける中心性」の両面を考慮し、キフロに立地する小学校北西側とする。

アルギン：アクセスはチェネック・キャンプ場から谷沿いを下るルートを想定しており、対象となるトレッキング客の利便性を考慮し、対岸にアルギンの集落景観を望むルート沿いの緩やかな斜面地とする。



アンバラスの公共施設に近接する予定地



アルギン集落の対岸に位置する予定地

### d. デザイン案の検討

サテライトセンターは、各テリトリーにおける村落観光のゲート空間であることから、基本的に集落の伝統的な住宅建築を継承するデザインとし、村落観光を景観的に演出する。

ただし、施設本来の機能を満足させるとともに、耐久性および維持管理の容易性を考慮したデザイン、素材を使用する。

それぞれのテリトリーに設置予定のサテライトセンターは、敷地条件および想定される利用対象を考慮し、以下のとおりとする。



ジョーナ：直径 8 m。ツアーバス等による団体客の利用を想定。ダバ・ジョーナの両サブカバレの村落観光に関する会議や研修に利用するため、大きめの規模を設定。丘の上に位置しておりランドマークとなる。

アルギン：直径 7 m。チェネックからのトレッキング客による利用を想定、敷地が谷間に位置し傾斜地であるため、景観にも配慮した小さめの規模を設定。

## C. 3年次の活動

### a. 建設作業の進捗

サテライトセンターの建設は、上記の検討を踏まえ 2013 年 2 月末から開始し、プロジェクトのサポートの下、コミュニティが中心となって工事を実施した。

当初は 2013 年 4 月中に建設が終了する予定であったが、プロジェクトに対する住民全体の理解が十分ではなかったことなどが原因で、建設に関してコミュニティ全体が協力して実施する体制ができていなかった。2013 年 5 月時点でこの問題点が明らかになったため、まずは村全体の理解を再度確認することが必要となった。そのため、村の住民会議でプロジェクトの考え方とサテライトセンターの建設について、EWCA シミエン公園事務所の担当者から説明し、村全体で協力して建設することについて同意を得ることができた。

しかしながら、すでに工事期間が農繁期に入ってしまったため工事に必要な人手を確保することが難しいこと、さらに各コミュニティ側で準備することになっていた材料の負担に関して十分に理解されておらず、必要な材料が適切な時期に集まらなかったことから、工事を予定通りに進めることができない状態であった。この点については、C/P である EWCA 公園事務所からワレダ長に対して協力を依頼し、カバレ長へ積極的な工事の推進を指示するとともに、ワレダによる作業の協力が行われた。

最終的にアルギン側のサテライトセンターは、2014 年 2 月末に建設工事が完了し、4 月からのビレッジ・ツアーの本格販売に備え、内部の装飾と必要な家具の準備を行った。

#### 1) コミュニティの関与

サテライトセンターの建設に当たっては、資材の一部（木材、石、土壁の材料）の提供及び建設に係る一般的な作業は、それぞれの地域コミュニティの住民が中心となって実施することで、地域のオーナーシップを高めるとともに、施設の継続的に維持管理へと繋げていくことを目指した。

#### 2) C/P機関の関与

各テリトリーにおけるサテライトセンターの建設に当たっては、対象地の選定、基本的なデザイン案および必要となる資材の検討、建設作業におけるコミュニティ側の協力などについて、各段階でコミュニティとの十分な協議が必要であった。これらの調整については C/P の主体的な取り組みにより、コミュニティ側の十分な理解と協力が得られる結果となった。また、実際の建設については、C/P 機関である EWCA 公園事務所が施主として建設工事の実施、施設の供用、維持管理に責任を持つこととなった。

### 3) プロジェクトの関与

サテライトセンターの建設に当たっては、C/P 機関である EWCA 公園事務所からの要請に基づき、プロジェクトが現場監督者の雇用とコミュニティでは入手できない資材調達の面を負担した。

#### b. 建設工事の完了

アルギン側と比べて、さらに遅れていたアンバラス側のサテライトセンターの建設は、村全体で協力して建設を進めることに合意がとれた後も進捗状況は思わしくなく、2013 年 12 月から作業がほとんど中断した状態であった。これに対して再度 C/P の EWCA 公園事務所および文化観光事務所の担当者が村の関係者に説明に行き、今後の対応を村側でしっかりと進める確認をとり、各 C/P とプロジェクトに文章にて報告することとした。さらに、トライアル・ツアーの実施に向けた各活動は、この建設工事が完了したことを確認してからの再開とする点について約束した。

以上のような対策により、アンバラス側のサテライトセンターの建設も、2014 年 5 月に完了することができた。



アルギンのサテライトセンター外観



アルギンのサテライトセンター内部



アンバラスのサテライトセンター外観



アンバラスのサテライトセンター内部

### (3) ビレッジ・ツアーのトレーニング

#### A. 1年次の活動

ビレッジ・ツアーに関するトレーニングは、対象地域の選定後の2年次以降から実施した。

#### B. 2年次の活動

##### a. コアメンバーについて

コアメンバーは、村落観光商品である集落体験プログラムを実施する際に、デモンストレーターやビレッジ・ガイドを担当して、村落観光活動を中心的な役割を担うメンバーのことで、CTMAメンバーとともに村落観光トレーニングの対象である。

コアメンバーについては、CTMAメンバー選定後に、CTMA主導で選出してもらった。現状では明確な選考基準は設けず、集落の体験プログラムの作業（タッラ、インジェラ、コーヒーセレモニー、機織り、鍛冶など）が得意であり、観光客の受け入れに積極的な人を選んでもらった。現在のメンバーに技術が定着し、一定程度の観光客入り込みが安定的に得られる見込みがでてきた後は、特別な道具を必要としないインジェラやタッラ、コーヒーセレモニーを行うコアメンバーを追加し、コミュニティ・ツーリズムから直接的な利益を得る集落民を増やす予定である。

##### b. ビレッジ・ガイドについて

###### 1) ビレッジ・ガイドとは

ビレッジ・ガイドは、図 2.22 村落観光における住民、ガイド、観光客の関係に示した通り、サテライトセンターでの村落観光商品のオリエンテーションの実施、各サテライトまでのルート案内、サテライトにおける住民によるプログラムの実演内容をわかりやすく解説する役割を担っている。解説はすべてアムハラ語で行われ、認定ガイドが観光客へ通訳する。そのため、ビレッジ・ガイドには、地域の自然や歴史、文化、生活様式などの地域特性を十分に理解し、言葉により表現できる能力が求められる。

###### 2) ビレッジ・ガイドの選考手続き

ビレッジ・ガイドについては、これまで CTMA およびコアメンバーの中から適性のある候補者を対象としてトレーニングを実施し、ビレッジ・ガイドの役割についても理解された。将来的に正式にビレッジ・ガイドとして活動するためには、適正のある人物を選考し、C/P 機関により認定されることが前提であった。そのため、以下のような選考基準を設定するとともに、公正な選考とするための手順を設定した。

選考基準（案）

##### ■条件→履歴書

- 高卒程度の学力、特に読み書き（最低限の書類のやりとりの必要性があるため）

- そのカバレで生まれ、育った
- 清潔で、感染性の病気に罹病していない
- 犯罪歴や、地域内で問題を起こした経歴がない
- 特定の政治的勢力や利益集団と関係がない
- 電話もしくはそれ以外の連絡手段をもっている（情報の伝達が困難な場所に普段住んでいない）
- 家業の手伝いもしくは収入の口をもっている（立ち上げ当初の収入の不安定さの可能性を理解し、その上で制度の主旨に賛同し応募していること）
- 肉体的に健康で、体力があること
- アルコールや喫煙、薬物などの依存症がないこと

■知識、能力→口頭試問

- 地域の文化や歴史についての知識が十分にある
- 各アクティビティの内容を熟知している、もしくは自分でも実践した経験をもつ
- ビレッジ・ガイドの役割を理解している（特に、ガイドやデモンストレーターとの違い）。
- 伝統衣装を自分で着ることができる、持っている

■資質→インタビュー

- 旅行者の関心または不快に感じるかもしれないことに敏感である
- 英語は話せなくてもよいが、外国人とのコミュニケーションを苦手としない
- 犬、子ども、他の住民とツーリストのコンフリクトに対処できる
- 他の文化や習慣を尊重できる

c. ビレッジ・ツアーのトレーニング

2012年9月から12月にかけて、CTMAメンバー、コアメンバーを対象として村落観光プログラムの開発に関連するトレーニングを実施した。設定された6つの体験プログラムの基本となるシナリオの作成、各プログラムの改善点の提案を行った。

表 2.46 ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2012年9月～2012年12月）

日付	内容
2012年 9月4日～12月22日 計10回	CTMAメンバー、コアメンバーが村落観光開発のプログラム訓練に参加 ・各体験プログラムのシナリオ作成、改善点の提案

## C. 3年次の活動

### a. ビレッジ・ガイドの選考

デバルク・ワレダ文化観光事務所および EWCA シミアン公園事務所が実施するビレッジ・ガイドの一連の選考手続きに関して、専門家がオブザーバーとして立ち会い、手続きが公正に行われているかを確認した。

選考に当たっての一連のプロセスは以下の通りである。

表 2.47 ビレッジ・ガイド選考プロセス

日付	内容
2013年 6月18日	選考委員会の開催（選考委員：デバルク・ワレダ文化観光事務所2名、北部ゴンダール・ゾーン文化観光局1名、EWCA シミアン公園事務所1名、デバルク・ガイド協会1名、アルギン・ジョーナ・カバレ長） ・試験の実施概要とスケジュールを確認 ・選定人数をアルギン4名、キフロ3名、ダバ3名合計10名とすることで決定
6月19日	公募開始 ・カバレ内の掲示板に書面を掲示する形で公示
6月23日	登録締め切り ・103名の応募を受理
6月26日	試験1日目 ・スクリーニング基準の再確認 ・応募状況の確認 ・スクリーニング作業 ※29名の通過を確認 ・スクリーニング結果の通知
6月27日	試験2日目 ・居住実績の基準の再確認 ※10名の追加受験を承認 ・試験問題の作成 ・評価方法の確認 ・筆記試験 ・筆記試験結果の評価 ・面接試験 ・面接試験結果の評価および合格者（10名）の確認 ・合格者の通知

上記のプロセスを経て、計10名のビレッジ・ガイドが選考された。

選考に当たっては、アムハラ州が定めるローカルガイドの選定ガイドラインに基づいたプロセスに則って進められ、きわめて厳正かつ公正に選定が行われた。

### b. ビレッジ・ガイド及びデモンストレーターの追加

アルギンにおいては、ビレッジ・ガイド3名が学生であり、ビレッジ・ツアーの実施が週末に限られてしまうことから、新たなビレッジ・ガイドをデバルク・ワレダ文化観光事

務所の主導により、2014年2月28日から公募し、3月13日に試験を行い、3名を追加で選考した。

また、6つのプログラムを実演するデモンストレーターについては、カイアフエ (Keyafer) だけからだったことから、サテライトセンターに比較的近いカバロ・ミデル (Kebero Mider) とアビッド (Abide) の2つのゴット (Gott) から新たにデモンストレーターを住民集会で選出した。

さらに、アンバラスにおいてもデモンストレーターの人数が少なく、ツアープログラムの設定が難しいため、村の集会で新たなデモンストレーターを選出した。

**表 2.48 ビレッジ・ガイドおよびデモンストレーターの追加**

日付	内容
2014年 2月28日～3月6日	ビレッジ・ガイド追加公募 (アルギン・ジョーナ・カバレ) ・アルギンのビレッジ・ガイドの追加公募
3月13日	ビレッジ・ガイド選考試験 (アルギン・ジョーナ・カバレ) ・アルギン側のビレッジ・ガイドの追加3名が決定、合計6人
4月5日	アルギン住民集会 (約400人) ・新しいデモンストレーターの選出。最終的なデモンストレーターの人数はカイアフエ (Keyafer) 9人、カバロ・ミデル (Kebero Mider) 10人、アビッド (Abide) 6人の合計25人
6月18日	アンバラス住民集会 ・新しいデモンストレーターの選出。最終的なデモンストレーターの人数は、キフロ6名、ジョーナ5名、ダバ7名の合計18名

### c. ビレッジ・ツアーのトレーニング

2013年6月末にデバルク・ワレダ文化観光事務所が選定手続きを実施して、合計10名のビレッジ・ガイドが正式に選ばれた。

2013年12月からのアルギンでのトライアル・ツアーの実施を目指して、ビレッジ・ガイドに対するトレーニングを下記の日程で実施した。

**表 2.49 ビレッジ・ツアーのトレーニング実績 (2013年9月～2014年2月)**

日付	内容
2013年5月25日 ～5月31日計4回	ファミトリップの受入れ準備 (アンバラス、アルギン)
6月4日、6月6日	ファミトリップのフィードバック (アンバラス、アルギン)
10月19日、 10月20日	ビレッジ・ツアー・プログラムの写真撮影に合せたビレッジ・ツアーのトレーニングを19日アンバラス、20日アルギンにて実施
10月26日～ 12月7日 計5回	アルギンでのビレッジ・ガイド・トレーニングの実施 ・4名のビレッジ・ガイドを対象にトレーニング実施 (途中1名不参加) ・トライアル・ビレッジ・ツアーの実施前の最終トレーニングにはアンバラスの3名のビレッジ・ガイドが参加

日付	内容
11月8日～ 11月9日	アルギン集落の情報収集のためのヒアリング調査 ・ビレッジ・ガイドによる住民へのインタビューを実施し、収集した情報をもとに、アルギンでの解説内容をビレッジ・ガイドが作成
11月29日～ 12月1日	EWCA 公園事務所でのビレッジ・ツアーの紹介と予約のトレーニング ・EWCA 公園事務所のツーリズム・オフィサー対象
12月17日、21日	アンバラスでのビレッジ・ツアーのトレーニングの実施 ・ビレッジ・ガイド、デモンストレーター
12月15日、22日	アルギンでのビレッジ・ツアーのトレーニングの実施 ・ビレッジ・ガイド、デモンストレーター、会計担当者

アルギン・サブカバレにおいては、上記のトレーニングを経て 2013 年 12 月からデバルク・ワレダ文化観光事務所および EWCA シミエン公園事務所の確認の下、トライアルのビレッジ・ツアーを実施、2014 年 4 月からは本格的なビレッジ・ツアーの販売を開始した。

また、サテライトセンターの建設の遅れにより 2013 年 12 月以降トレーニングを注視していたアンバラスにおいても、2014 年 5 月にサテライトセンターの建設が完了したのを受けて、ビレッジ・ツアーのトレーニングを再開した。

2014 年 4 月からはアルギンおよびアンバラスにおいて、新しいビレッジ・ガイドやデモンストレーターのトレーニング、さらにビレッジ・ツアーを実施する際の担当者のアレンジと会計処理に関するトレーニングを下記のような日程で実施した。

**表 2.50 ビレッジ・ツアーのトレーニング実績（2014 年 1 月～12 月）**

日付	内容
2014 年 1 月 12 日、 1 月 24 日、25 日、 3 月 28 日	北海道大学院生（1/12）、SELMTA（1/24）、C.W.ニコル氏（1/25）、文化観光大臣（3/28）によるビレッジ・ツアー体験
2014 年 2 月 15 日～ 11 月 28 日 計 22 回	アルギンにおけるビレッジ・ツアー・プログラム、会計処理、土産物に関するトレーニング
2014 年 5 月 17 日～ 11 月 25 日 計 21 回	アンバラスにおけるビレッジ・ツアー・プログラム、会計処理、土産物に関するトレーニング

上記のトレーニングを経て、新たにビレッジ・ガイド 6 名（アンバラス 4 名、アルギン 2 名）が 2014 年 6 月 16 日にデバルク・ワレダ文化観光事務所から正式にライセンスの発行を受けた。トレーニング不足のためライセンス発行ができなかった 3 名（アルギン 1 名、アンバラス 2 名）のビレッジ・ガイドについては引き続きトレーニングを行い、十分に力がついていたことが確認された時点でライセンスを発行してもらうこととした。

また、新たに選ばれたデモンストレーターに対しても、順番にトレーニングを行っていきながら、全体として一定レベルのプログラムが提供できるようになってきた。ビレッジ・ガイドのライセンス登録とデモンストレーターのトレーニング実施により、アンバラスにおいても 2014 年 10 月 18 日からビレッジ・ツアーの販売を開始した。

しかしながら、実際にビレッジ・ツアーを実施する関係者が多いこと、また現段階ではビレッジ・ツアーを目的に訪れる観光客が少ないため、頻繁にツアーを実施できないなどの理由から、安定した品質のツアーを提供できるまでには、さらに時間が必要であった。そのため、両コミュニティにおいて引き続きロールプレイによるトレーニングを行いながら、コミュニティ自らで品質を管理できるような体制づくりに取り組んだ。

## D. 4年次の活動

### a. ビレッジ・ツアーのトレーニング

ビレッジ・ガイドおよびデモンストレーターへのトレーニングは、前期に引き続き 2014 年 12 月から 2015 年 2 月の期間も、プロジェクト・スタッフと CP により継続的に実施してきた。また 2015 年 3 月以降のトレーニングの実施状況は、表 2.51 に示す通りである。

まずビレッジ・ガイドについては、2015 年 2 月までにトレーニング不足のためライセンスを取得することができていなかったアンバラスの 2 名を中心に、引き続きトレーニングを実施した。2015 年 5 月 5 日のトレーニング時点で十分に力がついたことが確認されたことから、文化観光事務所からライセンスが発行された。これによりアルギン 6 名、アンバラス 6 名の全ビレッジ・ガイドがトレーニングを経てライセンスを取得することができた。

また、デモンストレーターに対しては、前期に引き続きプログラム別にトレーニングを行っており、3つの Gastronomy プログラム (Injera, Coffee, Local Beer) については、アルギン、アンバラス共に一定レベルのプログラムが提供できるようになっている。

さらに、3つの Handiwork (Weaving, Blacksmith, Hair dressing) についても 2014 年 12 月からビレッジ・ツアーへの導入に向けてプログラム別にトレーニングを実施しており、2015 年 3 月からビレッジ・ツアーに組み込んで販売を開始している。2015 年 4 月 4 日にアルギン側で受け入れたビレッジ・ツアーは、観光客の要望により Injera と Hair dressing の 2 プログラムを実施した。しかしながら、Hair Dressing のデモンストレーションは、十分に満足するものになっていなかったことが、同行したプロジェクト・スタッフの評価から明らかになった。Handiwork の 3 プログラムについては、引き続きデモンストレーターとビレッジ・ガイドへのトレーニングを行いながら、各プログラムの質の向上を図る必要がある。

今後は、アルギンとアンバラスのそれぞれのターゲットとなる観光客に合わせたツアーが提供できるように、よりきめ細やかなトレーニングを行うとともに、両コミュニティにおいてビレッジ・ツアーに関するワークショップを開催し、コミュニティ自らがビレッジ・ツアーの品質を管理できるような体制を目指していく。

表 2.51 ビレッジ・ツアーのトレーニング実績 (2015 年 3 月～12 月)

日付	内容
2015 年 3 月 12 日 ～9 月 30 日 計 21 回	アンバラスでのビレッジ・ツアーのトレーニング ・ファシリテーター、会計、ビレッジ・ガイド、デモンストレーター
2015 年 3 月 15 日 ～10 月 29 日 計 18 回	アルギンでのビレッジ・ツアーのトレーニング ・ファシリテーター、会計、ビレッジ・ガイド、デモンストレーター



## 2.9.4 観光客の受け入れ実績

### (1) ビレッジ・ツアーの観光客の受け入れ

#### A. 1年次の活動

ビレッジ・ツアーの実際の観光客の受け入れは、3年次から実施した。

#### B. 2年次の活動

ビレッジ・ツアーの実際の観光客の受け入れは、3年次から実施した。

#### C. 3年次の活動

##### a. トライアル・ツアーの実施

これまで実施してきたビレッジ・ツアー・トレーニングの成果を確認するとともに、実際の観光客を受け入れることによる関係者のモチベーションの向上、さらには観光客からのフィードバックを得ることを目的として、2013年12月中旬からトライアルを開始した。

トライアルは、EWCA 公園事務所に訪れる観光客、特にチェネックへ宿泊するトレッキング客を対象にするため、まずはアルギンでのトライアルの開始を目指し、アンバラスに先駆けて集中的にトレーニングを実施して、ようやく12月12日からの実施にこぎつけることができた。

トライアルの実施に先立ち、C/P 機関の関係者内で会議を行い、実施に関する合意を得て、実際のトライアルの販売価格、料金の収集方法についても確認した。この時点では、CTMA がコーポラティブとして正式に登録されていないため、トライアル・ツアーの実施による料金の徴収については、すでにトレーニングを受けて、その技量について確認ができたアルギンの3名のビレッジ・ガイドに対して、デバルク・ワレダ文化観光事務所から許可書を発行し、これに基づきビレッジ・ガイドが代表して料金を徴収することとした。

実際には、EWCA 公園事務所のオフィサーによるプロモーションが効果を上げ、12月12日（木）にカナダ人観光客2名、14日（土）に南アフリカ、イスラエル、USA の5名のグループを受け入れて、トライアルを実施できた。12日の時点では、価格および料金徴収方法が確認できていなかったため、無料によるトライアルとして実施した。14日のツアーについては、前日にビレッジ・ガイドへの許可書が発行されたのを受けて、トライアル・ツアーとして正式な形での実施となった。

##### b. 本格的なビレッジ・ツアーの受入れ

###### 1) アルギンの受入れ状況

アルギンでは、2013年12月中旬からのトライアルのビレッジ・ツアーの実施を経て、実際の観光客を受け入れることによる関係者のモチベーションの向上、さらには観光客からのフィードバックを得ることによる質の向上を目指して、2014年4月から本格的な販売を開始した。

本格販売の実施に先立ち、C/P 機関の関係者と会議を行い、実施に関する合意を得て、販売価格、料金の収集方法、キャンセル料についても確認した。コーポラティブ設立前は、プロジェクト側で準備した会計書類により、料金の徴収および分配、コミュニティ基金管理を行っていたが、コーポラティブ設立後は、正規の会計書類に基づき会計担当者が手続きを行っている。

本格販売を始めた 2014 年 4 月から 2014 年 12 月までのビレッジ・ツアーの実施状況は、表 2.52 の通りである。アルギンの場合は、トレッキング客がチェネックに宿泊した翌日の午前中に訪れる形がほとんどであり、正規の予約を受けた観光客が 9 グループ 18 人、正規の予約をせずに直接訪れた観光客が 3 グループ 11 人、予約をされていて当日キャンセルとなったものが 2 グループ 6 人であった。この他、5 月 31 日に実施したファミトリップでは 14 人の TO（エチオピア人 12 名、イタリア人 1 名、フランス人 1 名）が参加した。

正規の予約を通さないビレッジ・ツアー（表 2.52 中の※）は、実際に事前の準備が十分にできないため、しっかりとしたサービスが提供できない問題がある。また、観光客側も事前の説明を受けていなかったことから、正規料金を支払わない状況が発生した。このため、ビレッジ・ツアー関係者との話し合いを行い、今後のビレッジ・ツアー催行に関しては、基本的に正規の予約手続きがない場合は受け入れないこととした。

**表 2.52 ビレッジ・ツアーの実施状況（2014 年 4 月～2015 年 12 月）**

日付	内容
2014 年 4 月 18 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 1 回） ・フランス人 4 名、3 プログラム、ツアー収入 1,200ETB
5 月 3 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 2 回） ・フランス人 2 名、3 プログラム、ツアー収入 600ETB
5 月 22 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 3 回） ・アメリカ人 1 名、1 プログラム、ツアー収入 400ETB
5 月 31 日	ファミトリップの実施（3 グループ、3 プログラム） ・アディスアベバの TO14 名、ゴンダール 2 名 （エチオピア人 14 名、イタリア人 1 名、フランス人 1 名） ・ツアー収入 4,800ETB、コミュニティへの寄付 1,000ETB
7 月 8 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 4 回） ・ドイツ人 1 名、1 プログラム、ツアー収入 400ETB
10 月 4 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 5 回） ・英国人 1 名、台湾人 1 名、1 プログラム、ツアー収入 400ETB
10 月 7 日	正規の予約を通さないビレッジ・ツアーの実施※ ・6 名、1 プログラム、ツアー収入 500ETB
10 月 14 日	ビレッジ・ツアーのキャンセル ・フランス人 4 名、3 プログラム、アディスアベバ Medir Tour からの予約、旅行会社側の車両の問題により当日キャンセル
10 月 17 日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第 6 回） ・ドイツ人 2 名、3 プログラム、ツアー収入 600ETB、寄付 50USD ・アディスアベバ Jacaranda Tour からの予約
10 月 28 日	正規の予約を通さないビレッジ・ツアーの実施※ ・3 名、2 プログラム、ツアー収入 170ETB

日付	内容
10月31日	正規の予約を通さないビレッジ・ツアーの実施※ ・2名、2プログラム、ツアー収入 600ETB
11月12日	ビレッジ・ツアーのキャンセル ・2名、3プログラム、キャンセル料 600ETB
11月18日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第7回） ・ドイツ人1名、1プログラム、ツアー収入 400ETB
11月26日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第8回） ・アメリカ人2名、1プログラム、ツアー収入 400ETB
12月8日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第9回） ・イタリア人1名、英国人1名、1プログラム、ツアー収入 400ETB

## 2) アンバラスの受入れ状況

アンバラスでは、2014年10月18日に最初の観光客4名を受け入れており、その後の状況は、表 2.53 に示すとおりである。2015年3月までの観光客の受け入れ状況は、正規の予約をした観光客が3グループ8人、正規の予約をせずに直接村を訪れた観光客が1グループ2人、予約をしていたものの当日キャンセルとなったものが1グループ2人であった。また正規の予約なしのグループと当日キャンセルされたものも含めて4グループがアディスアベバのTOからの観光客であった。

アンバラスの場合は、アルギンよりもデバルクに近く、サテライトセンターまで直接車でアクセスできることから、デバルクやシミエンロッジに宿泊する観光客のグループを対象とした販売が見込まれる。

**表 2.53 アンバラスにおけるビレッジ・ツアーの実施状況（2014年10月～2015年2月）**

日付	内容
2014年 10月18日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第1回） ・日本人4名（JICA関係）、3プログラム、ツアー収入 1200ETB
11月8日	正規の予約を通さないビレッジ・ツアーの実施※ ・2名、2プログラム、ツアー収入 600ETB ・アディスアベバの Mider Tour からの観光客だったが予約なし
11月20日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第2回） ・ドイツ人2名、3プログラム、ツアー収入 600ETB ・アディスアベバ Jacaranda Tour からの予約
2月3日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第3回） ・ドイツ人1名、スイス人1名、2プログラム、ツアー収入 500ETB ・アディスアベバ Mider Tour からの予約
2月25日	ビレッジ・ツアーのキャンセル ・2名、2プログラム、キャンセル料 500ETB ・アディスアベバの Mider Tour からの予約

## D. 4年次の活動

### a. ビレッジ・ツアーの受入れ

#### 1) アルギンの受入れ状況

アルギンの場合は、基本的にチェネック・キャンプサイトに泊まるトレッキング客が対象となる。当初の旅程にビレッジ・ツアーが組み込まれていない場合には、たとえビレッジ・ツアーに興味があったとしても、出発前に予定を変更して2日前までに予約を入れることが難しい状況にある。この期間におけるビレッジ・ツアーの受入れ状況は、前期と比べて増えていない状況であった。その対策として、2015年12月から2016年2月のプロジェクト終了までの期間については、無料体験キャンペーン期間として、ビレッジ・ツアー受入れの増加を図った。

2015年4月から2016年1月10日までのビレッジ・ツアーの受け入れ実績を表2.54に示す。

**表 2.54 アルギンのビレッジ・ツアー実施状況（2015年4月～2016年1月）**

日付	内容
2015年 4月4日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第10回） ・2人、2プログラム、ツアー収入500ETB
7月30日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第11回） ・4人、1プログラム、ツアー収入800ETB
8月7日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第12回） ・1人、2プログラム。ツアー収入500ETB
9月24日	ファムトリップの実施（3プログラム） ・TO2人、ツアー収入600ETB
10月4日	ファムトリップの実施（2グループ、3プログラム） ・TO8人、ツアー収入2,400ETB
11月30日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第13回） ・1人、2プログラム、ツアー収入500ETB
12月15日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第14回） ・2人、2プログラム、ツアー収入500ETB
12月19日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第15回） ・1人、2プログラム、ツアー収入500ETB
2016年 1月5日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第16回） ・20人、3プログラム、ツアー収入6,000ETB
1月9日	ビレッジ・ツアーの実施（アルギン第17回） ・14人（JICA海外教師研修）、2プログラム、ツアー収入3,500ETB

これまでのアルギンでのビレッジ・ツアーの受入れ観光客数は、トライアル・ツアー、ファムトリップを含めた総数は120人、ツアー総収入29,730ブルで、ここからコミュニティ基金として蓄えられた金額が、土産物販売から得られたものも加えて、9,369ブル（ビレッジ・ツアー9,105ブル、土産物販売264ブル）観光客からの寄付が8,882ブルと合計で18,251ブルとなった。（2016年1月12日時点）

## 2) アンバラスの受入れ状況

アンバラスの場合は、サテライトセンターがメイン道路に近く車でのアクセスが可能であることから、デバルクやシミエンロッジでの宿泊客が主な対象となる。2014年10月から本格的なツアー販売を開始していたもの、観光客の受入れは、平均月1グループ程度にとどまっていた。しかし、2015年に数回のファミトリップとアディスアベバでのTOへのプロモーション活動を行った結果、2015年11月頃からは、送客が増え始めている。さらに、TOに積極的にビレッジ・ツアーを旅程に組み込んでもらうための対策として、2015年12月から2016年2月のプロジェクト終了までの期間については、無料体験キャンペーン期間として、TOへのプロモーションを強化し、ビレッジ・ツアー受入れの増加を図った。

2015年4月から2016年1月10日までのビレッジ・ツアーの受入れ実績を表2.55に示す。

**表 2.55 アンバラスのビレッジ・ツアー実施状況（2015年4月～2016年1月）**

日付	内容
2015年 5月7日	ファミトリップの実施（3グループ、3プログラム） ・TO12人（エチオピア人11名、イタリア人1名）、ツアー収入4500ETB （キャンセル3名分を含む）
9月23日	ファミトリップの実施（3プログラム） ・TO2人、ツアー収入600ETB
10月3日	ファミトリップの実施（2グループ、3プログラム） ・TO8人、ツアー収入2,400ETB
11月4日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第4回） ・ロシア人5人、1プログラム、ツアー収入1,000ETB
11月14日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第5回） ・4人、2プログラム、ツアー収入1,000ETB
11月17日	ビレッジ・ツアーのキャンセル ・7人、2プログラム、キャンセル料1,700ETB、Birana Tour
11月19日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第6回） ・2人、2プログラム、ツアー収入500ETB、Mon Pay Tour
12月28日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第7回） ・2人、2プログラム、ツアー収入500ETB
2016年 1月3日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第8回） ・6人、2プログラム、ツアー収入1,500ETB
1月9日	ビレッジ・ツアーの実施（アンバラス第9回） ・10人（4人キャンセル）、2プログラム、ツアー収入3,000ETB ・アディスアベバSolomon Tourからの予約

2014年10月からこれまでのアンバラスでのビレッジ・ツアーの受入れ観光客は、ファミトリップを含めた総数が73人（キャンセルも含む）、ツアー総収入20,100ブルで、ここからコミュニティ基金として蓄えられた金額が、土産物販売から得られたものも加えて、

7,722 ブル（ビレッジ・ツアー7,235 ブル、土産物販売 487 ブル）、観光客からの寄付が 1,000 ブルとなった。（2016年1月12日時点）

## 2.9.5 総括

成果 3（商品開発）に関しては、まず 1 年次に観光商品造成のための観光資源調査を行い、2 年次は、1 年次の調査結果を踏まえて、村落観光の素材となる観光資源（テーマ）を抽出するとともに、モデルとして村落観光開発を進める対象コミュニティを絞り込んだ。

次に、対象コミュニティでの村落観光開発を進めるために、住民集会を開き、コミュニティ・ベースド・ツーリズムの考え方に関する共通理解を深めるとともに、活動の主体となる CTMA の組織化を図った。この CTMA のメンバー中心に、ビレッジ・ツアーを催行するための村落観光プログラムづくりとツアー催行のシステムづくり、環境整備としてのサテライトセンター建設を行った。3 年次には、CTMA をそれぞれのコミュニティの村落観光の実施主体として正式にコーポラティブとして登録し、ビレッジ・ツアーの質の向上を図るトレーニングを実施した。

これらの活動により、対象コミュニティにおける村落観光の準備を整えながら、成果 2 のプロモーション活動との連携により、3 年次の 2014 年 4 月からはビレッジ・ツアーとして販売を開始した。ファムトリップや商談会、ブローシャーや機内誌等での広報により、徐々にではあるが、観光客を受け入れている。

アルギン側のコミュニティでは、これまでのビレッジ・ツアーのトレーニング及び本格販売による観光客の受け入れを通して、コミュニティ自体がビレッジ・ツアーに対する理解を深め、積極的に取り組み始めている。特に、観光客の受入れるために、トレーニングをビレッジ・ガイドやデモンストレーター同士で行ったり、新たにこの活動に参加したい村人が、デモンストレーターの家でその方法を教えてもらう姿を見ることができた。

一方、アンバラス側のコミュニティは、2014 年 10 月からビレッジ・ツアーの販売を開始したものの、開始当初はコミュニティ側の受け入れ態勢が十分ではなかった。しかしながら数回のファムトリップの実施や、ビレッジ・ツアーにおける観光客の受け入れを通して、コミュニティ側のモチベーションが高くなってきた。特に 2015 年 10 月のファムトリップ以降、観光客が訪れるようになってからは、ビレッジ・ツアーを問題なく実施できるようになってきた。

アンバラスはアルギンと比較すると、実際のビレッジ・ツアーのトレーニングの開始、さらにビレッジ・ツアーの販売と観光客の受け入れにそれぞれ半年ほど遅れて実施されてきたため、その分の関係者の意識や観光客の受け入れ態勢などに違いが見られる。しかしながら、ようやく関係者が観光客を受け入れるための役割を果たせるようになってきた。

今後は、それぞれのコミュニティが、自らビレッジ・ツアーの質の充実を図るとともに、主体的にビレッジ・ツアーのモニタリングを行い、質の確保に取り組んでいく必要がある。

また、これまでのビレッジ・ツアーの催行を通して、ビレッジ・ツアーの予約、TO 側で計画する旅程へのビレッジ・ツアーの組み込み、認定ガイドの対応など、幾つかの課題が明らかになった。

- ・ 集落との連絡手段について

これまで、遠隔からの集落との連絡手段がなかったため、プロジェクト車で村まで向かい、連絡をとっていた。2015 年末ごろから携帯電話の電波状況が改善され、アンバラスとは携帯電話で連絡がとれるようになった。一方で、アルギン集落については、電波の状態が不安定であるため、衛星携帯なども併用しながら通信手段を確立させる必要がある。

- ・ トレッキングを中心とする観光客の予約について

当初の旅程に組み込まれていない場合、たとえビレッジ・ツアーに興味があったとしても、トレッキングの出発前に予定を変更して予約を入れるのが難しい状況にある。現状では、チェネック到着後に予定を変更してビレッジ・ツアーに参加したいという声も聞こえている。この点を考えると、トレッキング客のビレッジ・ツアーへの参加を増やすためには、予約の連絡方法を確保することで、チェネックでの前日予約の可能性を検討する必要がある。

- ・ 団体、短時間滞在の観光客の旅程への組み込みについて

基本的にそれぞれの家を訪ねるオリジナルのビレッジ・ツアーで 3 プログラムを実施する場合、ほぼ半日程の時間がかかるため、団体客や短時間の観光客に対応できるものではなく、ツアーの中に組み込むことが難しい状況であった。ファムトリップでは、これらの観光客向けの商品として、サテライトセンター周辺の家を利用した短時間のビレッジ・ツアーを紹介している。今後は、団体客や短時間滞在の観光客の旅程の中に短時間のビレッジ・ツアーを組み込むことを積極的にアピールする必要がある。

- ・ 認定ガイドの理解や対応が不十分である点について

いくつかのビレッジ・ツアーでは、認定ガイドの質がビレッジ・ツアー全体の質に影響することがあった。観光客に満足してもらい、さらに観光客の受入れを増加するためには、ビレッジ・ツアーを十分に理解している認定ガイドにより、本来のビレッジ・ツアーの良さを伝える必要がある。そのためには、しばらくの間はビレッジ・ツアーを良く理解している認定ガイドをリスト化し、指名する等の対策をとる必要がある。さらに将来的には、認定ガイド全員がビレッジ・ツアーを理解し、ガイド協会と協力する体制づくりが必要となってくる。

- ・ 「住民全体への裨益」の実現

1 月 18 日に、アルギンのサテライトセンターが焼失したとの連絡を受けた。アンバラス側のカバレマネージャー、コミュニティ・ポリス、他 2 名の集落リーダーが調査をした結果、コミッティメンバーの選考が不公平である、デバルクやアディスアベバでのワークショップやチャリティー・コンサートの村からの参加者が一部の人間に偏っていることへの妬みからの行動ではないかということであった。

当プロジェクトは、「住民全体への裨益」の実現を目指してコミュニティ基金の設立なども行ってきたが、その意図が住民全体には十分に伝わっていなかったものと考えられる。

一方で、サテライトセンターの再建については、1 月 28 日時点ですでに材料となる材木 30 本程度確保されており、近日中にそれらを切り出して、工事に着手する予定とのことで

あった。また、カバレマネージャーは、カバレ・アドミニストレーションとしても今回の火事の原因究明とサテライトセンターの再建に協力すると述べていた。さらに、EWCA とデバルク文化観光事務所も引き続き、コミュニティのサポートと工事の進捗状況を確認、報告することを約束した。

## 2.10 成果 4（観光圏管理開発計画策定）に関する成果

### (1) 1年次の活動

1年次では、既存の観光および公園管理関連の計画書の収集を開始した。

### (2) 2年次の活動

2年次では、既存計画のレビューと、シミエン・コミュニティ・ツーリズム管理開発計画 (Simien Community Tourism Management and Development Plan: SIMCOT-MDP) の原案を作成した。

#### A. 既存計画のレビュー

2年次では、“Future five years road program 2010” 及び “Grazing pressure reduction strategy document for Simien mountains national park” をレビューした。

それぞれの概要を下記に述べる。

##### a. Future five years road program 2010

図 2.23 は、エチオピア道路公社 Ethiopian Roads Authority が計画・実施中の道路開発計画図である。

赤い線で示された道路が、2010年に計画が策定された際に既に着手されていた道路開発であり、青い線が2010年の計画策定時に新たに決定された開発である。

エチオピア政府は、インフラ整備において道路網の整備に最も力を入れており、全国的な道路開発を計画している。



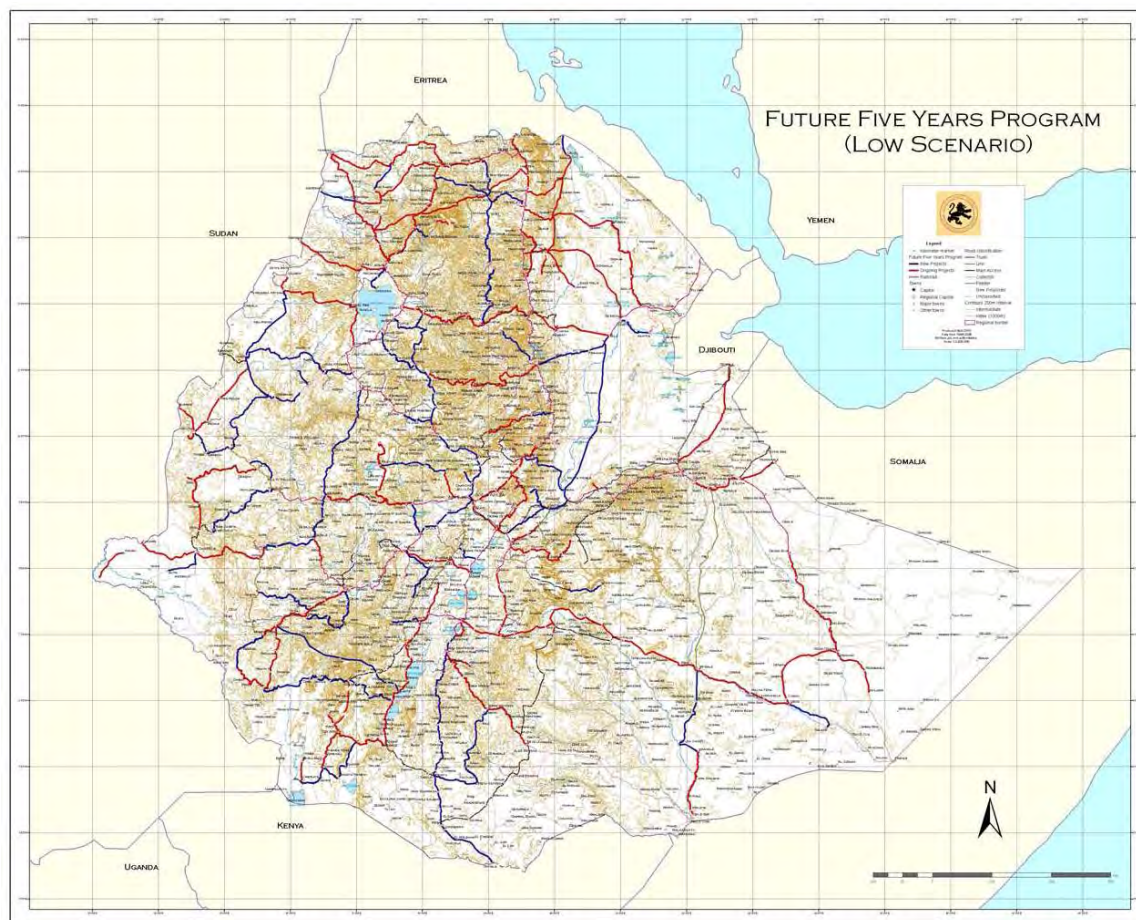


図 2.23 Future Five Years Road Program 2010 (Low Scenario)  
(エチオピア道路公社提供)

図 2.24 は、図 2.23 の一部をデバルクを中心に拡大したものであるが、これまでも報告しているゴンダール-デバルク間の開発だけでなく、デバルク-メケネバルハン Mekane Birhan (ジャナモラ・ワレダ内) の道路開通が計画されており、これは現在工事が着工されている。また、シミエン国立公園内からディルイブザ Dil Yibza (バイエダワレダ内) へ至る道路の整備が着工済みとされている。これについては、現在、未舗装の道路がバイエダワレダまで至っているものの、公園内を通っているため舗装できないことと、道が険しいことから、公園を迂回する舗装道路の整備を計画中である。また、デバルクからアクスムへ続く道路についても舗装される予定である。

よって、このアクセス道路の発達によって今後起こってくる変化を予測し、観光圏管理開発計画に反映させる予定である。



図 2.24 Future Five Years Road Program 2010 (Low Scenario) 部分拡大図  
(エチオピア道路公社提供の図を編集)

**b. Grazing pressure reduction strategy document for Simien mountains national park**

”Grazing pressure reduction strategy document for Simien mountains national park (Amhara national regional state parks development and protection authority 2007)” は、シミエン国立公園内で問題となっている放牧地の問題を解決するために、アムハラ州が作成したものであり、現状の把握、分析から課題を抽出し、さらに課題克服のための戦略的目的を立てている。

戦略の柱は、下記の通りである。

- ① 公園範囲の見直し（達成済み）  
公園範囲の見直しは、2007年時点で既に達成されており、現在は、議会による承認手続き中である。
- ② 適格者に対する放牧権の規制  
一定の草地面積に対する適切な家畜数を算出しつつ、利用のルール策定、規定の作成を行う。
- ③ 家畜数の減少
- ④ 家畜の健康状態の向上と獣医の充足
- ⑤ コミュニティの公園管理への参加促進

## B. SIMCOT-MDP の作成

2年次の段階で、基本構想および基本計画の骨子が作成された。

### (3) 3年次の活動

3年次第1回目のJCC会議(2013年6月27日)を経て、SIMCOT-MDPの基本的な内容に合意が得られた。この際に、遺産協力金の徴収について外部の専門家に調査を委託し、実現可能かどうかを確認することが提案された。委託調査およびプロジェクトによるフォローアップ調査の結果、チャリタブル・アソシエーションという形態が最善であることが明らかになった。

### (4) 4年次の活動

SIMCOT-MDPの最終化の際、遺産協力金についてはまだ決定事項ではないため、まず、SIMCOT-CAを正式に登録し、そこに遺産協力金徴収権限を付与することが決定された段階で記載することがC/Pから提案され、記載を削除した。それ以降、遺産協力金に関する議論が未決着であり、遺産協力金に関する記載がない状態である。

また、活動計画については、SIMCOT-MDPの主な実施主体であるSIMCOT-CAが毎年作成するものを、EWCAおよびANRS-BCTPDがメンバーとして参加している取締役会(board member meeting)で承認することになった。

## 2.11 プロジェクト広報

### (1) Facebook ページ開設と広報活動

本プロジェクトの広報活動のひとつとしてFacebookページを開設し、その運用を開始した。発信情報のターゲット層は、エチオピア及び日本の一般市民とし、プロジェクト内容を広く一般に広報することにより、JICAプロジェクトとしての活動及びシミエン観光の広報を目的とした。

### (2) プロジェクト広報資料の作成

詳細なプロジェクト活動の広報資料としてパンフレットを作成した。プロジェクトの目標等概要を示し、図や写真を用いプロジェクトの活動内容や今後の展望について説明を行っている。海外ドナーとの協議の際に利用した他、現地の各関係者やエチオピア一般市民に対し、現地でのイベントやワークショップ開催時に配布した。また、デバルクや村落住民向けに、英語及びアムハラ語での簡易な広報資料を作成し配布した。

### (3) イベントへの参加

アディスアベバにて、2013年6月29～30日(3日間)の日程で開催された「Conserving the Simien Mountains」へ参加した。このイベントは、関係者及び一般市民に対してシミエン国立公園が直面している危機意識向上させることを目的とし、EWCA主催で開催された。

プロジェクトでは、ポスターの展示及びプロジェクト広報パンフレット配布、また Facebook Page の広報を行った。また、日本大使館、日本人会、JICA が実施するジャパンフェスティバル（2013年11月9日、2015年10月31日）に参加し、プロジェクト紹介映像やプロジェクト広報パンフレットを配布し、プロジェクトの広報活動を行った。

#### **(4) 北海道大学での広報活動**

本北海道大学観光学高等研究センター（CATS）のウェブサイト内にて、当プロジェクトの紹介ページを設け、現地での活動や本邦研修の実施等について紹介を行っている。

#### **(5) JICA 課題別研修「持続可能なコミュニティ・ツーリズム」研修における発表**

SIMCOT プロジェクトについて、『JICA 課題別研修「持続可能なコミュニティ・ツーリズム」研修』において発表した。他のアフリカの国々（モザンビーク、ナミビア、スワジランド、ジンバブエ）からの参加者と、SIMCOT における公園管理と人の居住の考え方について協議することができた。

#### **(6) Japan Times（2013年8月31日）への掲載**

本邦研修について、C.W.ニコル氏が Japan Times 誌に寄稿した。記事では、45年前にニコル氏がパークワーカーを勤めた頃の様子や、本邦研修でアフアの森を訪れた研修生について紹介された。

#### **(7) 毎日ウィークリー（2014年3月15日）への掲載**

C.W.ニコル氏がエチオピアを47年ぶりに再訪した際、公園が荒廃してしまった現状について、森林保護活動の観点からの氏の意見が掲載された。また、同氏が体験したビレッジ・ツアーの様子が紹介された。

#### **(8) ソトコト（2014年5月号）への掲載**

C.W.ニコル氏のエチオピアへの47年ぶりの再訪と当プロジェクトの現地での取り組みが掲載された。

#### **(9) 朝日新聞（2015年7月23日）への掲載**

朝日新聞ヨハネスブルグ支局の記者がシミエン国立公園に訪れ、シミエン国立公園及び当プロジェクトの取材を行った。本取材は、プロモーション活動の一環としてエチオピア航空機内誌へ掲載した広告をきっかけとして実現したものである。記事では、公園の現状や JICA が実施する当プロジェクトの活動内容、また現地カウンターパートや当プロジェクトの日本人専門家のコメントも掲載された。

### 第3章 今後の展望と課題

これまでに述べたように、本プロジェクトにより、これまでまったく光が当てられていなかった文化的側面に着目したビレッジ・ツアー商品がゼロから開発され、それが販売されるためのチャンネルが構築され、それらを運営するための組織が設立されており、コミュニティ・ツーリズムの仕組みが作られていると言える。今後は、官民協働の体制のもとで（政府のコントロールの下で）SIMCOT-CAがSIMCOT-MDPを実行に移していく。

しかし一方で、政府と運営組織による官民連携の体制や、運営組織の運営資金獲得について、また、マーケティングに関してはデータの詳細分析や各TOの得意分野に基づいたプロモーションや、村におけるコミュニティ全体への裨益の実現について課題が残される。下記に、課題を整理した。

#### (1) 活動の推進母体について

これまでに述べたように、プロジェクトで実施してきた活動を持続させるための最大の問題は、資金と人材であり、その問題を克服するため、人材を定着させることができ、さらに寄付金として遺産協力金を受け取ることができる組織としてSIMCOT-CAを設立した。このSIMCOT-CAの持続こそが持続的なプロジェクト活動につながるとの前提から、C/Pとも協議を進めてきた。しかし、現段階で、下記の課題が挙げられる。

#### A. 官民協働 (PPP) についてのC/Pの理解促進

前述の通り、SIMCOT-CAは、政府と一体になって目的を達成していく組織であることをC/P側に認識してもらう必要がある。これについては、本邦研修内でもう一度理解を深める。

長期的には制度改革を視野に入れた協議が必要であり、短期的にはTOらとの協力による遺産協力金システムの導入が必要である。TOらとの協力についても、政府側からのサポートが必須である。

あるいは、緊急的手段として、遺産協力金の徴収が可能になるまでの期間、SIMCOT-CAのスタッフをSIMCOT-CAのスタッフとしてではなく、政府職員としてEWCAあるいはANRS-BoCTで雇用するという考えも考え得る。

活動の継続のために考え得る方策と、必要なサポートについて下記に記した。

短期的対策：

- TOを通じてSIMCOT-CAが遺産協力金を徴収する際に、所得税分を引いた額のみTOからSIMCOT-CAに渡す。
- SIMCOT-CAがビジネスライセンス（TOライセンスとは異なる）を取得、ブローチャーを販売し、その収益を「活動費」として利用する。
- SIMCOT-CAによるオフィススペースの継続的利用、機材の利用など、政府による即物的な支援を実施する。

中期的対策：

- 政府組織内の協議により、TO を通じて SIMCOT-CA が遺産協力金を徴収する際に、TO からの「寄付金」を税金の対象外とする。
- TO を通じて SIMCOT-CA が遺産協力金を徴収することを、政府側の措置で強制的な制度とする。

長期的対策：

- 政府側が新しいプロクラメーションを策定し、SIMCOT-CA に遺産協力金徴収の権限を付与することで遺産協力金制度を導入する。

## B. プロジェクト期間終了後のオフィススペースと機材の使用について

プロジェクト期間終了後も、SIMCOT-CA はオフィススペースおよび機材を使用する必要があるため、それらの継続的使用について EWCA および ANRS-BCT と協議する必要がある（これについては、2月下旬開催予定のJCCにて協議する）。

## C. SIMCOT-CA による TO ライセンスの取得について

SIMCOT-CA が正式にビレッジ・ツアー販売窓口になるためには、TO のライセンスを取得する必要がある。TO のライセンスを取得するための主な条件は下記の通りである。SIMCOT-CA にとっての最大の課題は車輛の確保であり、今後のファンドレイジングや企業からの寄付などを通じて車輛を確保する必要がある。

- ビジネスライセンスの取得
- ミニバス、中型バス、大型バスあるいは4WDに該当する車輛3台（ただし、これは交渉により1台）
- 観光関連の学校から学位、修了証書などを取得している職員がいる
- オフィスが設置されている
- 12名がツアーに参加できるような機材（テント、寝袋、調理道具など）が揃っている

## (2) マーケティング活動について

これまでに述べたように、マーケティングデータ収集の仕組みが改善され、複数のプロモーション・チャンネルが創り出され、さらに今後も継続的に使用することができる汎用性の高いプロモーション・マテリアルが作成された。一方で、送客数は伸び悩んでおり、改善のために下記の課題が残されている。

### A. マーケティング・データの詳細分析によるセグメンテーションの細分化と商品造成に対するフィードバック

現在、マーケティングデータの分析によりターゲットとすべき国の特定はできているものの、バックパッカー層からラグジュアリー志向層などといった詳細なセグメンテーショ

ンについては分析できておらず、それぞれの詳細セグメンテーションのニーズおよびウォンツは把握できていない。今後は、クロス集計をすすめて詳細分析を行うとともに、それぞれのニーズやウォンツに合わせたツアー商品と価格帯の多様化が必要である。

## **B. TO 各社の分析に基づく BtoB プロモーションと商品造成に対するフィードバック**

これまで、プロジェクトでは TO とビジネスミーティングを設定し、さらにファミトリップを実施することで、商品のプロモーションを行うと同時に TO から商品に対するフィードバックを受けてきた。一方で、TO 各社の大手取引先や、得意とする客層、典型的なツアー工程、各社が有するプロモーション・ツールの把握など、TO 各社の特徴の分析ができておらず、こちら側から TO に対して改善案および新たな提案をできる状態になっていない。

マーケティングスタッフが毎月 TO 各社を訪問し、商品についてリマインドするという活動は続けているものの、どのような商品であれば TO にとって売りやすいのか、現在売れていないのは、どこに問題があるのか（提供している情報が不十分なのか、商品、あるいは予約システム、支払いシステムに問題があるのかなど）の特定ができておらず、問題の所在を明らかにして施策を立てる必要がある。

### **(3) 商品開発について**

#### **A. 集落との連絡手段について**

これまで、遠隔からの集落との連絡手段がなかったため、プロジェクト車で村まで向かい、連絡をとっていた。2015 年末ごろから携帯電話の電波状況が改善され、アンバラスとは携帯電話で連絡がとれるようになった。一方で、アルギン集落については、電波の状態が不安定であるため、衛星携帯なども併用しながら通信手段を確立させる必要がある。

#### **B. トレッキングを中心とする観光客の予約について**

当初の旅程に組み込まれていない場合、たとえビレッジ・ツアーに興味があったとしても、トレッキングの出発前に予定を変更して予約を入れるのが難しい状況にある。現状では、チェネック到着後に予定を変更してビレッジ・ツアーに参加したいという声も聞かえている。この点を考えると、トレッキング客のビレッジ・ツアーへの参加を増やすためには、予約の連絡方法を確保することで、チェネックでの前日予約の可能性を検討する必要がある。

#### **C. 団体、短時間滞在の観光客の旅程への組み込みについて**

基本的にそれぞれの家を訪ねるオリジナルのビレッジ・ツアーで 3 プログラムを実施する場合、ほぼ半日程の時間がかかるため、団体客や短時間の観光客に対応できるものではなく、ツアーの中に組み込むことが難しい状況であった。ファミトリップでは、これらの観光客向けの商品として、サテライトセンター周辺の家を利用した短時間のビレッジ・ツ

アーを紹介している。今後は、団体客や短時間滞在の観光客の旅程の中に短時間のビレッジ・ツアーを組み込むことを積極的にアピールする必要がある。

#### **D. 認定ガイドの理解や対応が不十分である点について**

いくつかのビレッジ・ツアーでは、認定ガイドの質がビレッジ・ツアー全体の質に影響することがあった。観光客に満足してもらい、さらに観光客の受入れを増加するためには、ビレッジ・ツアーを十分に理解している認定ガイドにより、本来のビレッジ・ツアーの良さを伝える必要がある。そのためには、しばらくの間はビレッジ・ツアーを良く理解している認定ガイドをリスト化し、指名する等の対策をとる必要がある。さらに将来的には、認定ガイド全員がビレッジ・ツアーを理解し、ガイド協会と協力する体制づくりが必要となってくる。

#### **E. 「住民全体への裨益」の実現**

1月18日に、アルギンのサテライトセンターが焼失したとの連絡を受けた。アンバラス側のカバレマネージャー、コミュニティ・ポリス、他2名の集落リーダーが調査をした結果、コミッティメンバーの選考が不公平である、デバルクやアディスアベバでのワークショップやチャリティー・コンサートの村からの参加者が一部の人間に偏っていることへの妬みからの行動ではないかということであった。

当プロジェクトは、「住民全体への裨益」の実現を目指してコミュニティ基金の設立なども行ってきたが、その意図が住民全体には伝わっていないものと考えられる。

一方で、サテライトセンターの再建については、1月28日時点ですでに材料となる材木30本程度確保されており、近日中にそれらを切り出して、工事に着手する予定とのことであった。また、カバレマネージャーは、カバレ・アドミニストレーションとしても今回の火事の原因究明とサテライトセンターの再建に協力すると述べていた。さらに、EWCAとデバルク文化観光事務所も引き続き、コミュニティのサポートと工事の進捗状況を確認、報告することを約束した。



## 第4章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓

### 4.1 プロジェクト実施運営上の工夫

#### (1) 大学とコンサルタントとの連携

本プロジェクトは、国際協力技術プロジェクトの事業実施経験がなかった大学の研究センターと、実務経験が豊富なコンサルタントとのジョイント・ベンチャーとして実施された。この体制をとることにより、大学側からは最先端の理論やモデルがコンサルタント側に共有され、またコンサルタント側からは大学側にエチオピアの様々な情報や人脈、プロジェクト・マネジメントの方法や C/P との関係構築方法、現場の動かし方などが共有されることにより、一方だけでは成し得ない成果を得ることができた。また、大学側からすると、国立大学法人の会計システムにかかる規則等、実施体制上では不可能であった本プロジェクトの実施を、コンサルタントとの共同実施が可能にした点も大きなメリットであった。

#### (2) 専門家 2 人体制

それぞれの成果に対し、専門家は 2 人体制をとった。基本的に、高度な専門性を有する短期派遣の専門家と、現場に長期張り付くことのできる若手専門家の組み合わせである。通常、教授クラスの大学教員には、高い専門性が期待できるものの長期間の海外渡航は不可能である一方、若手教員をプロジェクト経費で特任教員として雇用することで長期派遣を実現させることができ、二人の連携により各専門分野の業務を実施することができた。

#### (3) 複数機関、複数レベルとの協議

本プロジェクトの C/P オフィスは、アディスアベバ、バハルダール、ゴンダール、デバルクに分散し、さらに支援対象地域は国立公園周辺集落というように分かれていた。年 2 回の JCC 会議でさえ全員が集まることは難しく、主要関係者が一堂に会し協議をすることが困難であった。一方で、メールを利用していない（オフィス環境の限界から利用できない）関係者も多かった。そのため、ある議題について協議する必要がある際は、可能な限り各オフィスを訪問して面談により丁寧に説明し意思疎通を図るよう務めた。これにより、次第に相互理解や信頼関係が深まり、同じ方向性を目指して活動できるようになったと考える。

#### (4) 金銭に頼らない支援

本プロジェクト開始時、他国のドナーが既にハード・ソフトとともにプロジェクト対象地の支援を行っていた。他ドナーからは、居住地で開催される会議に出席するだけでも日当が支払われており、それが慣例となっていた。本プロジェクトでは、あくまで JICA の基本方針であるプロジェクト終了後の活動の持続性の担保を心がけ、会議の日当はもちろん、交通費などについても、理由のないものには支払いをしないことを徹底した。その結果、プロジェクトの意義や目的を真に理解し、金銭を目的とせず協力を惜しまない C/P と

プロジェクト活動を進めることができた。一方で、通常のドナーと同様な金銭的利益を得ることのできないことに不満を持ちプロジェクトの意義を理解しようとしないう C/P や、あるいはプロジェクトの内容を直接知らない地域住民や行政職員から十分な理解を得ることは難しかった。

#### (5) 本邦研修を通じたチーム・ビルディング

前述の通り、主要関係者が一堂に会して協議する場が限られていたため、関係者間でじっくり協議する時間が限られていた。本邦研修は、講義や視察から日本の事例について学ぶ場である一方で、関係者間で意見交換し、協議し、理解を深めるチーム・ビルディングの場として予想以上に効果的に作用した。

#### (6) 影響力を持つ著名人との協力

Mr. Nicol や Artist Chachi Tadesse など、著名人を巻き込み、彼らからメッセージを発信してもらうことにより、プロジェクトの直接の関係者以外の人々にもプロジェクトの意義や目的が明確に伝わった。

### 4.2 プロジェクト実施運営上の教訓

#### (1) C/P による合意の確実度

遺産協力金など、決議が困難な事項については、C/P からの署名を伴う合意も確実な決定事項ととらえることができず、いかなる場合でもその合意通りに物事が進まない場合を想定して活動すべきであることが教訓になった。

#### (2) 人物の雇用

プロジェクト・スタッフの雇用について、プロジェクト終了後の持続的な組織運営を担う人物の人選においては、エチオピア側との綿密な相談の上、日本側からの要請と、エチオピア側のローカル知を合わせて慎重に行うべきであることが教訓になった。

## 添付資料



# 添付資料 1

## 供与機材実績



### List of Equipment

取得年月日 Date of Registration in JICA Office D/M/Y	資機材名 Description/Name of Equipment/Goods	仕様・規格 Specification・Standard	数量 Quantity	設置場所 Place of Installation	使用状況 Condition
28/12/2011	Laptop Computer	Toshiba Satellite L755	4	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
28/12/2011	Photoopy Machine	Canon Image Runner 2525	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	One of them, the function of scanner doesn't work.This finctuin was replaced to new scanner.
28/12/2011	Color Printer	HP Deskjet 7000	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
21/12/2011	Facsimile	Canon L160	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
28/12/2011	Projector	EPSON EB-S9 3LCD Projector	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
28/12/2011	Screen	Tripad Screen180cm x 180cm	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
23/01/2012	Generator	Robin RGX7500E	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	

取得年月日 Date of Registration in JICA Office D/M/Y	資機材名 Description/Name of Equipment/Goods	仕様・規格 Specification・Standard	数量 Quantity	設置場所 Place of Installation	使用状況 Condition
21/12/2011	UPS	UPS APC 7500VA	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	One of them was broken by stroke of lightning, and then replaced to new one.
28/12/2012	Video Camera	SONY PJ	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
28/12/2011	Desktop Computer	DELL Optilex 990 Core i3 Duo	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
09/1/2012 23/1/2012	Stabilizer	PC Mate 2000VA Stabilizer	4	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
21/12/2011	External Hard Disk Drive	2TB External HDD	4	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
21/11/2011	GPS Unit	GARMIN GPSMAP 62s	3	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
25/11/2011	Image Edit Software	Adobe Creative Suite 5.5 Design	2	EWCA SMNP Office	
30/11/2011	Laser Measuring Instrument	DIST D8	2	EWCA SMNP Office	
21/11/2011	Binocular	Nikon Sport Optix10x25 HG L DCF	6	EWCA SMNP Office	
21/11/2011	Digital Camera	Nikon D 5100	2	EWCA SMNP Office	
06/03/2012	Video Edit Software	Master Collection CS5.5	1	EWCA SMNP Office	
07/12/2011	Desk (Large)	160x70x75	6	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	



取得年月日 Date of Registration in JICA Office D/M/Y	資機材名 Description/Name of Equipment/Goods	仕様・規格 Specification・Standard	数量 Quantity	設置場所 Place of Installation	使用状況 Condition
07/12/2011 XX/2/2012	Desk (samall)	120x60x75	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
06/12/2011	Chair	-	16	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
08/12/2011 XX/2/2012	Shelf	-	4	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
06/12/2011	Meeting Table	-	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
07/12/2011	Meeting Chair	-	8	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
20/06/2012	Satellite Phone	Thuraya XT Satellite Phone	2	EWCA SMNP Office	
10/09/2012	GIS Software	ArcGIS ArcView Single Use	1	EWCA SMNP Office	
13/11/2012	UPS	UPS APC 7500VA	1	EWCA SMNP Office	
24/02/2014	TV Screen (Large)	KONIKA	1	EWCA SMNP Office	
17/03/2014	TV Screen (Small)	KONIKA	1	EWCA SMNP Office	
24/02/2014	DVD Player	SUMSUN	1	EWCA SMNP Office	
28/04/2014	Scanner	HP scanjet G2410	1	North Gondar Zone Culture and Tourism Office	
22/06/2012	TOYOTA Landcruiser	VDJ200L-GNMNZ	2	EWCA SMNP Office/ North Gondar Zone Culture and Tourism Office	

